

川崎市アレルギー疾患患者等実態調査結果
報告書

令和6年3月

川崎市

目次

1 調査の概要	1
1.1 調査の目的	1
1.2 調査実施方法	1
1.2.1 調査対象者	1
1.2.2 調査方法	1
1.2.3 調査期間	1
1.2.4 有識者からの意見聴取.....	1
2 実態調査の実施と結果	2
2.1 実施概要	2
2.2 調査結果	3
2.2.1 基礎情報	3
2.2.2 アレルギー症状の把握.....	5
2.2.3 検査・治療・症状のコントロール不良時の対応の状況.....	21
2.2.4 アレルギー疾患関連情報等.....	55
2.3 調査結果からみられたアレルギー疾患患者等の傾向.....	91
参考資料	92
(1) 調査協力依頼文書（小児対象）	92
(2) 方針概要チラシ（川崎市のアレルギー疾患対策について）	94
(3) 発送用封筒	96
(4) オンライン回答フォーム（小児向け）	97
(5) オンライン回答フォーム（成人向け）	105

1 調査の概要

1.1 調査の目的

川崎市では、アレルギー疾患対策基本法に基づき、令和5年6月に「川崎市アレルギー疾患対策推進方針」を策定した。アレルギー疾患患者等の実態把握を行い、今後の川崎市における総合的なアレルギー疾患対策を進める上で参考となる情報を得るため、小児から成人まで幅広い世代を対象に実態調査を実施した。

1.2 調査実施方法

1.2.1 調査対象者

①小児：令和5年12月時点での川崎市在住者のうち、次の対象を満たす者の保護者とした。

- ・0-1歳児（2022年12月2日～2023年6月1日生まれの0歳6か月～1歳児）
- ・3-4歳児（2019年4月2日～2020年4月1日生まれの3～4歳）
- ・小学1年生（2010年4月2日～2011年4月1日生まれの6～7歳）
- ・中学1年生（2009年4月2日～2010年4月1日生まれの12～13歳）

②成人：民間調査会社の調査パネルを利用し、川崎市に在住する20歳以上を対象とした。

1.2.2 調査方法

①小児：回答フォームにアクセスできる二次元コードを示した調査案内文書を郵送し、オンライン回答フォームで調査した。

②成人：民間調査会社のWEBアンケートで調査した。

1.2.3 調査期間

①小児：令和6年1月17日～令和6年2月16日

②成人：令和6年2月7日～令和6年2月14日

1.2.4 有識者からの助言（令和6年3月時点）

調査設計にあたり、医療従事者である有識者2名から助言をいただき、調査項目に反映した。

- ・中村陽一先生（横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンターセンター長、日本アレルギー学会専門医・指導医、医学博士）
- ・福家辰樹先生（国立研究開発法人国立成育医療研究センター アレルギーセンター総合アレルギー科診療部長、日本アレルギー学会専門医・指導医、医学博士）

2 実態調査の実施と結果

2.1 実施概要

「小児」の調査対象者に対して、調査案内文書を令和6年1月17日に郵送配布し、オンライン回答締切を令和6年2月16日とした。また、「成人」の調査対象者に対するWEBアンケートを令和6年2月7日～令和6年2月14日に実施した。

以下に小児、成人ごとの回収状況を示す。

(1) 調査依頼文書の配布数

小児：8,400人

<年代別> 0-1歳：2,100人 3-4歳：2,100人 小学1年生：2,100人 中学1年生：2,100人

※ 成人のWEBアンケートでは、調査依頼文書の配布なし

(2) 回収数

小児：3,386人

<年代別> 0-1歳：874人 3-4歳：798人 小学1年生：905人 中学1年生：809人

成人：4,123人

<年代別> 20-39歳：1,402人 40-64歳：1,932人 65歳：789人

(3) 回答率

小児：40.3%

<年代別> 0-1歳：41.6% 3-4歳：38.0% 小学1年生：43.1% 中学1年生：38.5%

2.2 調査結果

各設問の回答状況を以下に示した。全ての設問について、年代別に集計を行った。

2.2.1 基礎情報

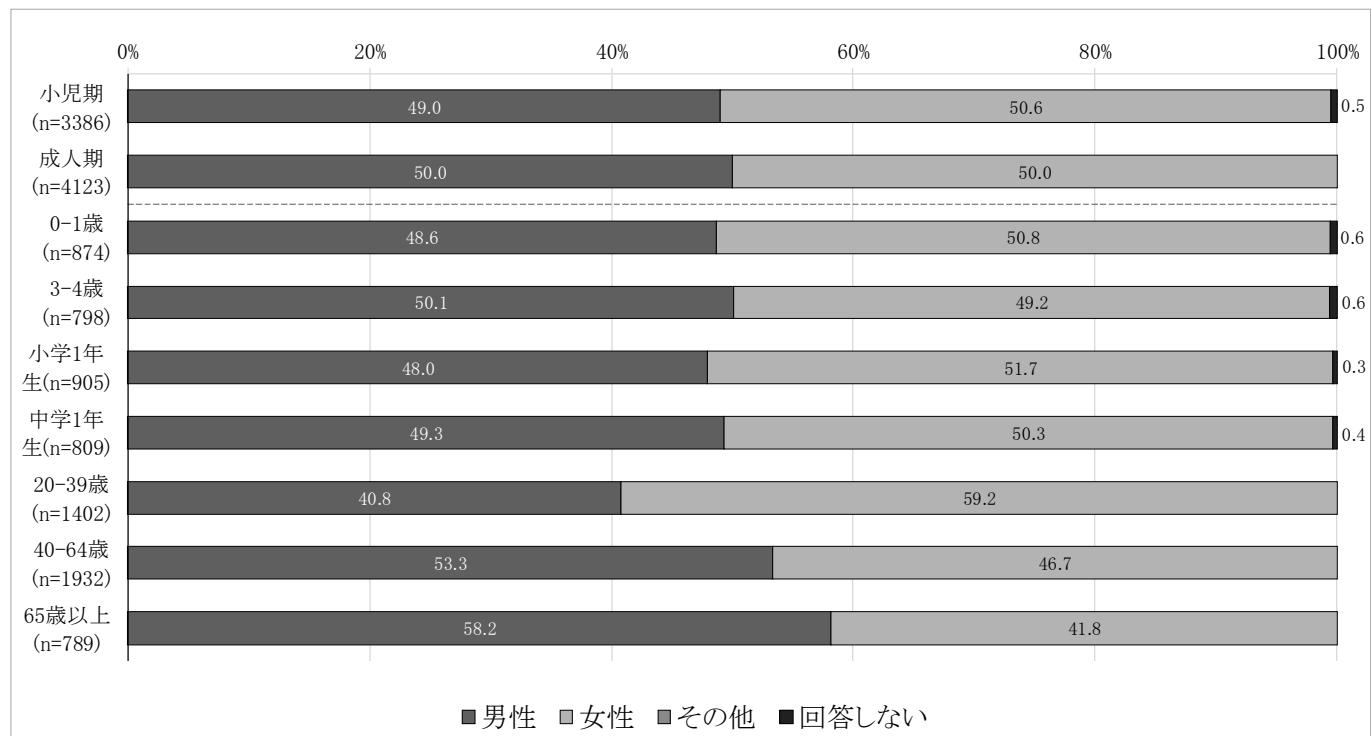
問1 性別

性別をご回答ください。

問2 年齢

年代を教えてください。

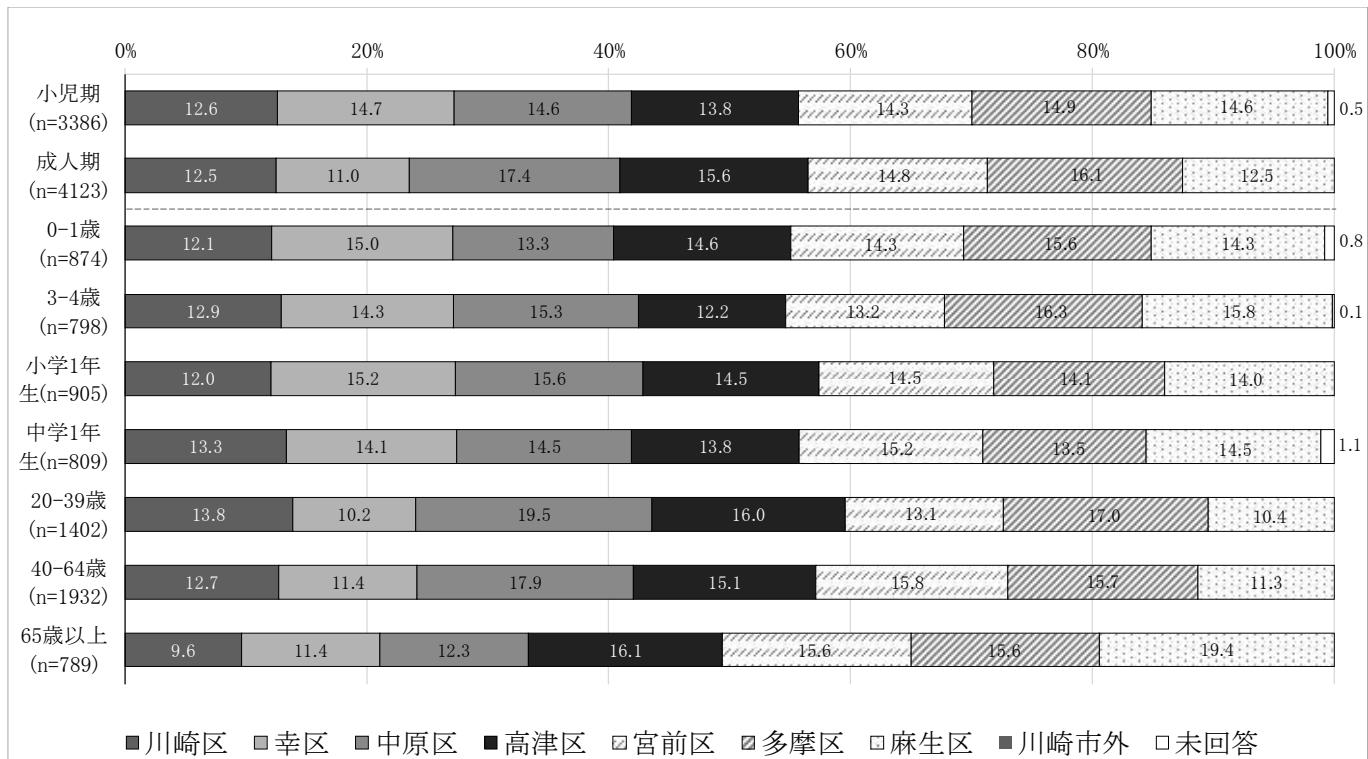
全ての年代において、男性、女性の割合はほぼ同じであったが、妊娠・子育て期の20～39歳では、女性の割合がやや高かった。



問3 居住区

居住区をご回答ください。

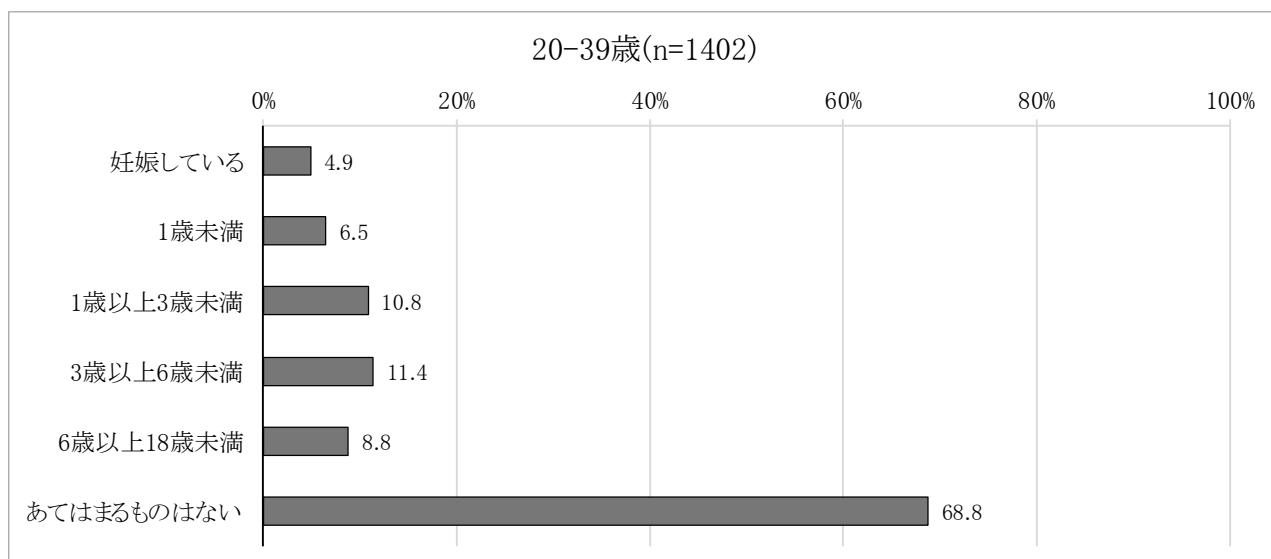
小児期では各地区の割合はほぼ同じであった。成人期では「中原区」で最も高く、「幸区」で最も低かった。年代別では、20-39歳では「中原区」で最も高く、「幸区」で最も低く、40-64歳では「中原区」で最も高く、「麻生区」で最も低く、65歳以上では「麻生区」で最も高く、「川崎区」で最も低かった。



問4 お子さんの有無（20-39歳のみに対する問）

18歳未満のお子様がいるもしくは現在、妊娠されていますか。

「あてはまるものはない」 68.8%の割合が高く、次いで「3歳以上6歳未満」 11.4%の割合が高かった。

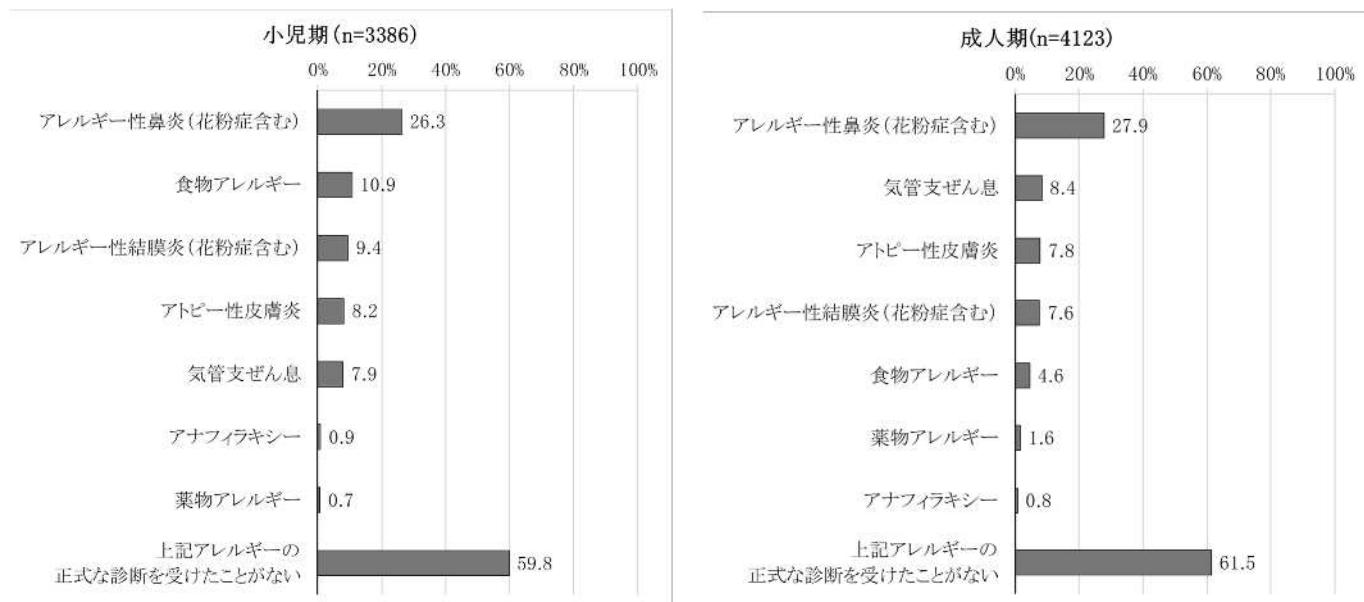


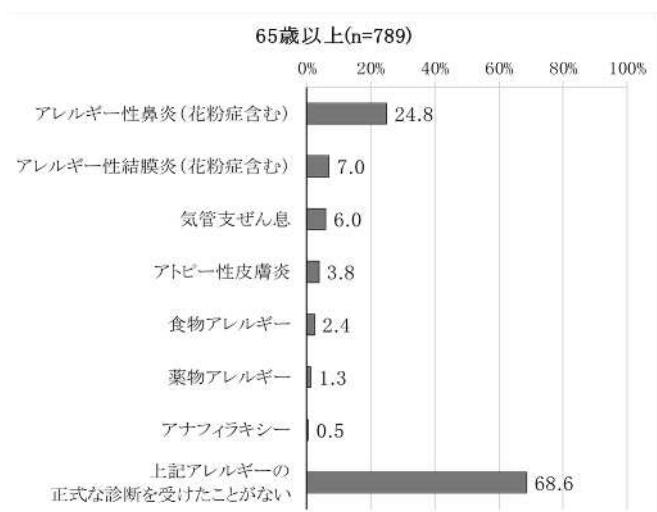
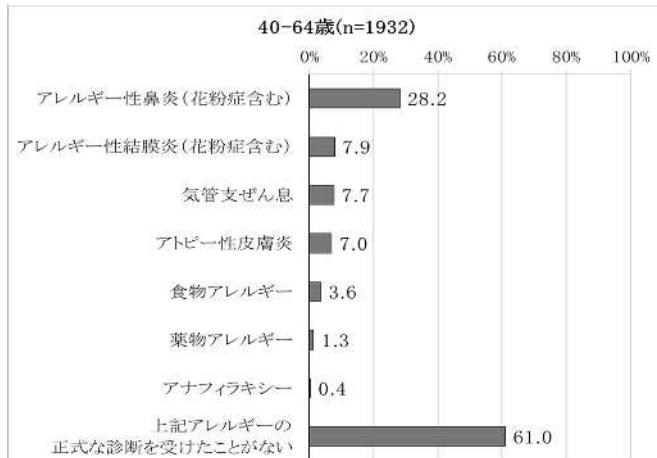
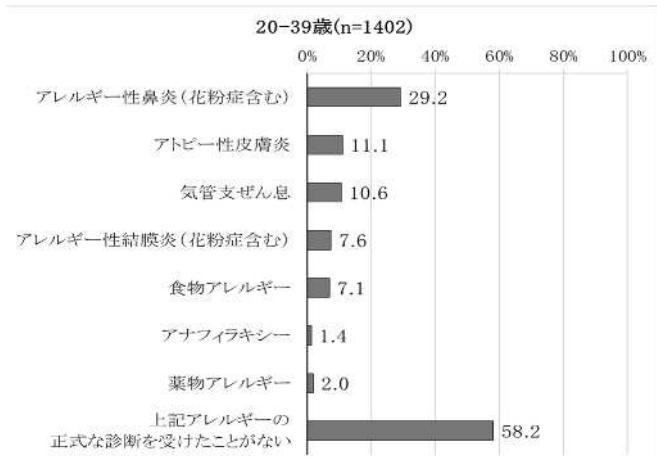
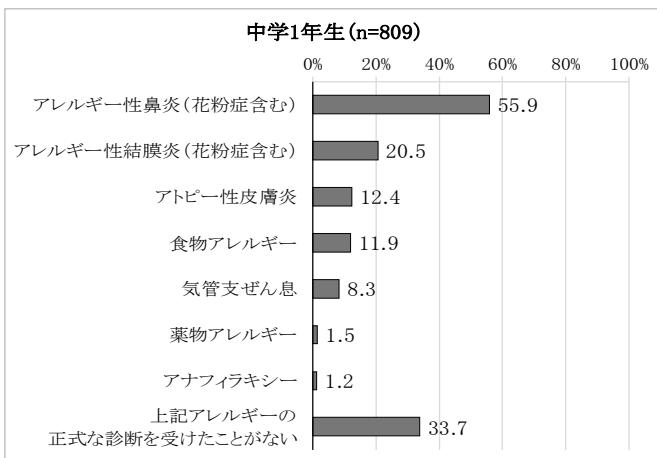
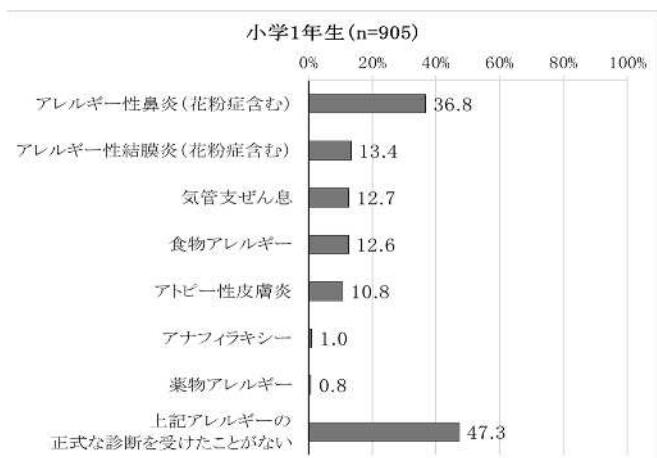
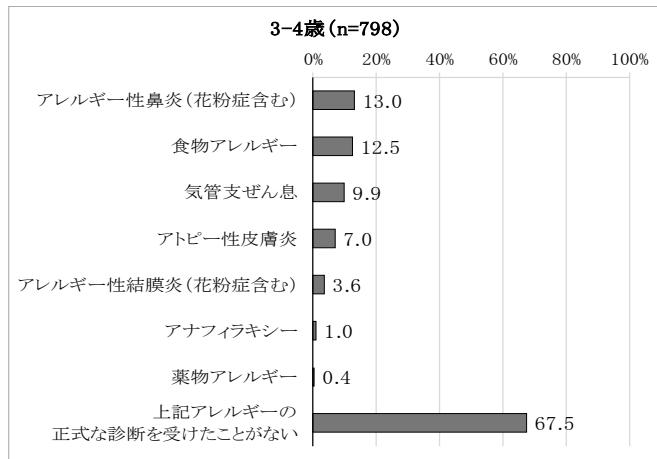
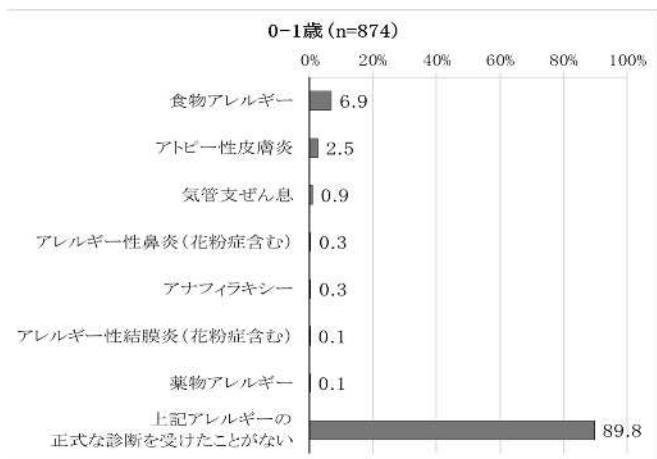
2.2.2 アレルギー症状の把握

問5 これまでのアレルギー疾患の診断

「あなた（成人向け）／お子さま（小児向け）」がこれまでに診断を受けたアレルギー疾患をご回答ください。

小児期、成人期ともに「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」の割合が高く（小児期 59.8%、成人期 61.5%）、次いで「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」の割合が高かった（小児期 26.3%、成人期 27.9%）。特に、年代別では、0・1歳では「食物アレルギー」6.9%の割合が高く、3・4歳では「食物アレルギー」12.5%と「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」13.0%が同程度だが、その他の年代では「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」の割合が高く、中学1年生で55.9%と一番高かった。また、0・1歳では「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」の割合が89.8%と高かったが、中学1年生では33.7%と低かった。





以下では、各疾患について、ほかの疾患との合併頻度（%）を示した。

小児期		気管支 ぜん息 (n=269)	アトピー性 皮膚炎 (n=276)	アレルギー性 鼻炎 (花粉症含む) (n=892)	アレルギー性 結膜炎 (花粉症含む) (n=317)	食物アレ ルギー (n=370)	アナフィラ キシー (n=30)	薬物アレ ルギー (n=23)
合 併 し て い る ア レ ル ギ ー 疾 患	気管支 ぜん息	-	21.0	14.1	14.8	17.0	26.7	21.7
	アトピー性 皮膚炎	21.6	-	15.1	17.4	20.3	23.3	4.3
	アレルギー性 鼻炎 (花粉症含む)	46.8	48.9	-	86.1	38.4	36.7	60.9
	アレルギー性 結膜炎 (花粉症含む)	17.5	19.9	30.6	-	13.5	16.7	21.7
	食物アレ ルギー	23.4	27.2	15.9	15.8	-	83.3	8.7
	アナフィラ キシー	3.0	2.5	1.2	1.6	6.8	-	0.0
	薬物アレ ルギー	1.9	0.4	1.6	1.6	0.5	0.0	-

成人期		気管支 ぜん息 (n=345)	アトピー性 皮膚炎 (n=321)	アレルギー性 鼻炎 (花粉症含む) (n=1150)	アレルギー性 結膜炎 (花粉症含む) (n=314)	食物アレ ルギー (n=188)	アナフィラ キシー (n=31)	薬物アレ ルギー (n=64)
合 併 し て い る ア レ ル ギ ー 疾 患	気管支 ぜん息	-	20.9	13.4	18.5	24.5	22.6	21.9
	アトピー性 皮膚炎	19.4	-	14.8	19.1	21.8	35.5	28.1
	アレルギー性 鼻炎 (花粉症含む)	44.6	53.0	-	84.4	50.0	54.8	67.2
	アレルギー性 結膜炎 (花粉症含む)	16.8	18.7	23.0	-	20.7	35.5	32.8
	食物アレ ルギー	13.3	12.8	8.2	12.4	-	54.8	45.3
	アナフィラ キシー	2.0	3.4	1.5	3.5	9.0	-	18.8
	薬物アレ ルギー	4.1	5.6	3.7	6.7	15.4	38.7	-

0-1歳		気管支ぜん息 (n=8)	アトピー性皮膚炎 (n=22)	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) (n=3)	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む) (n=1)	食物アレルギー [†] (n=60)	アナフィラキシー (n=3)	薬物アレルギー [†] (n=1)
合併しているアレルギー疾患	気管支ぜん息	-	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	100.0
	アトピー性皮膚炎	0.0	-	33.3	100.0	3.3	0.0	0.0
	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)	0.0	4.5	-	100.0	1.7	0.0	0.0
	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む)	0.0	4.5	33.3	-	0.0	0.0	0.0
	食物アレルギー [†]	12.5	9.1	33.3	0.0	-	66.7	0.0
	アナフィラキシー [†]	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	-	0.0
	薬物アレルギー [†]	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-

小学1年生		気管支ぜん息 (n=115)	アトピー性皮膚炎 (n=98)	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) (n=333)	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む) (n=121)	食物アレルギー [†] (n=114)	アナフィラキシー [†] (n=9)	薬物アレルギー [†] (n=7)
合併しているアレルギー疾患	気管支ぜん息	-	24.5	18.0	19.0	23.7	33.3	42.9
	アトピー性皮膚炎	20.9	-	14.7	18.2	22.8	22.2	14.3
	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)	52.2	50.0	-	84.3	53.5	44.4	71.4
	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む)	20.0	22.4	30.6	-	21.9	22.2	14.3
	食物アレルギー [†]	23.5	26.5	18.3	20.7	-	88.9	0.0
	アナフィラキシー [†]	2.6	2.0	1.2	1.7	7.0	-	0.0
	薬物アレルギー [†]	2.6	1.0	1.5	0.8	0.0	0.0	-

20-39歳		気管支ぜん息 (n=149)	アトピー性皮膚炎 (n=155)	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) (n=410)	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む) (n=106)	食物アレルギー [†] (n=99)	アナフィラキシー [†] (n=19)	薬物アレルギー [†] (n=28)
合併しているアレルギー疾患	気管支ぜん息	-	22.6	18.8	27.4	26.3	21.1	32.1
	アトピー性皮膚炎	23.5	-	22.4	33.0	31.3	47.4	39.3
	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)	51.7	59.4	-	89.6	50.5	57.9	71.4
	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む)	19.5	22.6	23.2	-	21.2	42.1	32.1
	食物アレルギー [†]	17.4	20.0	12.2	19.8	-	63.2	57.1
	アナフィラキシー [†]	2.7	5.8	2.7	7.5	12.1	-	32.1
	薬物アレルギー [†]	6.0	7.1	4.9	8.5	16.2	47.4	-

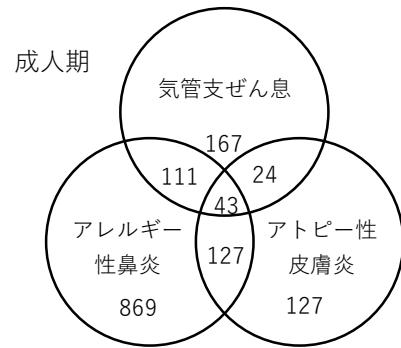
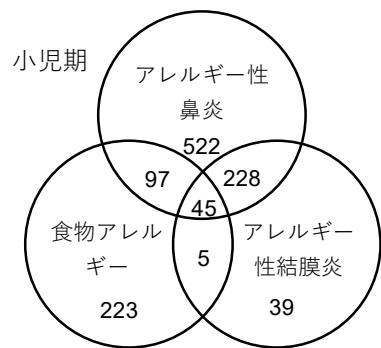
65歳以上		気管支ぜん息 (n=47)	アトピー性皮膚炎 (n=30)	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) (n=196)	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む) (n=55)	食物アレルギー [†] (n=19)	アナフィラキシー [†] (n=4)	薬物アレルギー [†] (n=10)
合併しているアレルギー疾患	気管支ぜん息	-	23.3	9.7	10.9	36.8	0.0	10.0
	アトピー性皮膚炎	14.9	-	9.2	12.7	5.3	25.0	30.0
	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)	40.4	60.0	-	87.3	42.1	50.0	40.0
	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む)	12.8	23.3	24.5	-	21.1	50.0	40.0
	食物アレルギー [†]	14.9	3.3	4.1	7.3	-	25.0	40.0
	アナフィラキシー [†]	0.0	3.3	1.0	3.6	5.3	-	20.0
	薬物アレルギー [†]	2.1	10.0	2.0	7.3	21.1	50.0	-

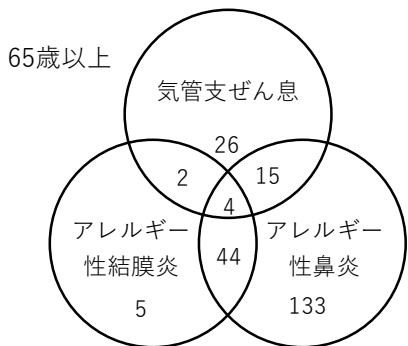
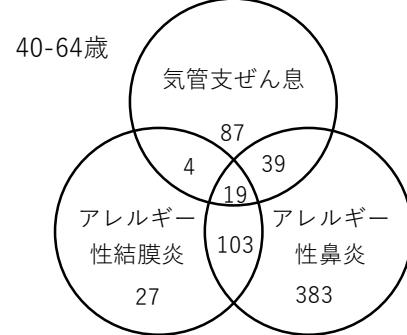
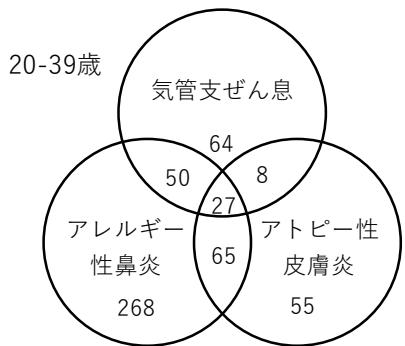
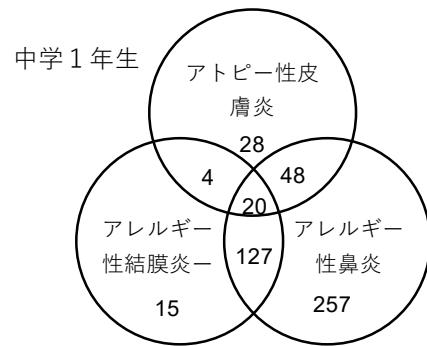
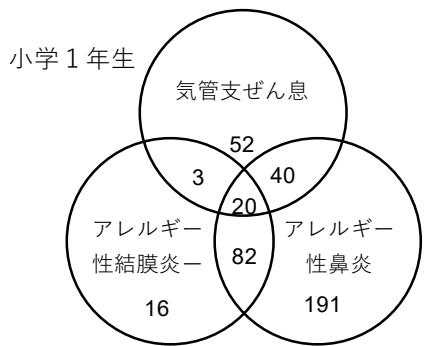
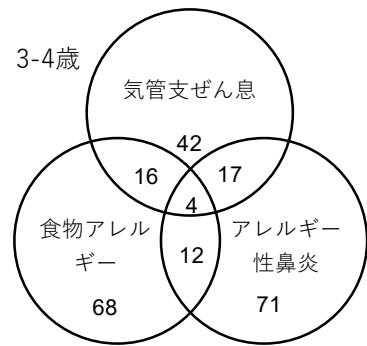
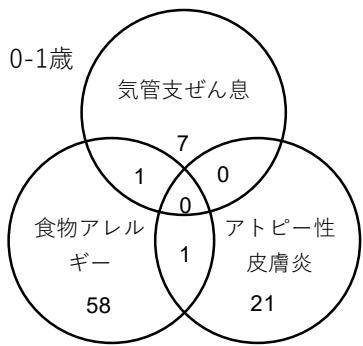
3-4歳		気管支ぜん息 (n=79)	アトピー性皮膚炎 (n=56)	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) (n=104)	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む) (n=29)	食物アレルギー [†] (n=100)	アナフィラキシー [†] (n=8)	薬物アレルギー [†] (n=3)
合併しているアレルギー疾患	気管支ぜん息	-	21.4	20.2	17.2	20.0	37.5	0.0
	アトピー性皮膚炎	15.2	-	16.3	27.6	15.0	0.0	0.0
	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)	26.6	30.4	-	79.3	16.0	12.5	33.3
	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む)	6.3	14.3	22.1	-	4.0	0.0	0.0
	食物アレルギー [†]	25.3	26.8	15.4	13.8	-	75.0	33.3
	アナフィラキシー [†]	3.8	0.0	1.0	0.0	6.0	-	0.0
	薬物アレルギー [†]	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	-

中学1年生		気管支ぜん息 (n=67)	アトピー性皮膚炎 (n=100)	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) (n=452)	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む) (n=166)	食物アレルギー [†] (n=96)	アナフィラキシー [†] (n=10)	薬物アレルギー [†] (n=12)
合併しているアレルギー疾患	気管支ぜん息	-	22.0	10.0	11.4	15.6	20.0	8.3
	アトピー性皮膚炎	32.8	-	15.0	14.5	33.3	50.0	0.0
	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)	67.2	68.0	-	88.6	66.7	60.0	66.7
	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む)	28.4	24.0	32.5	-	21.9	30.0	33.3
	食物アレルギー [†]	22.4	32.0	14.2	12.7	-	90.0	8.3
	アナフィラキシー [†]	3.0	5.0	1.3	1.8	9.4	-	0.0
	薬物アレルギー [†]	1.5	0.0	1.8	2.4	1.0	0.0	-

40-64歳		気管支ぜん息 (n=149)	アトピー性皮膚炎 (n=136)	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) (n=544)	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む) (n=153)	食物アレルギー [†] (n=70)	アナフィラキシー [†] (n=8)	薬物アレルギー [†] (n=26)
合併しているアレルギー疾患	気管支ぜん息	-	18.4	10.7	15.0	18.6	37.5	15.4
	アトピー性皮膚炎	16.8	-	11.0	11.8	12.9	12.5	15.4
	アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)	38.9	44.1	-	79.7	51.4	50.0	73.1
	アレルギー性結膜炎 (花粉症含む)	15.4	13.2	22.4	-	20.0	12.5	30.8
	食物アレルギー [†]	8.7	6.6	6.6	9.2	-	50.0	34.6
	アナフィラキシー [†]	2.0	0.7	0.7	0.7	5.7	-	3.8
	薬物アレルギー [†]	2.7	2.9	3.5	5.2	12.9	12.5	-

また、年代別に割合が高い3疾患について、複数の疾患を回答されている回答者の数を表したベン図を示す。

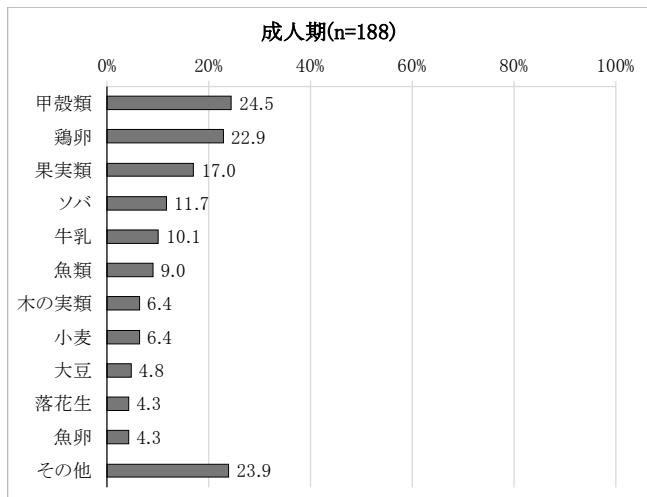
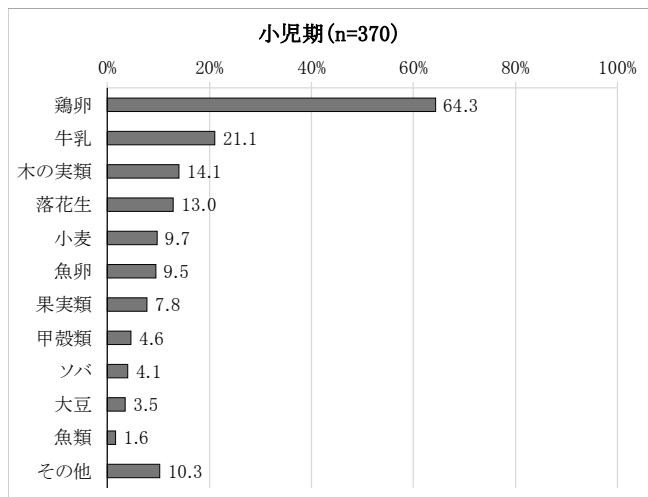


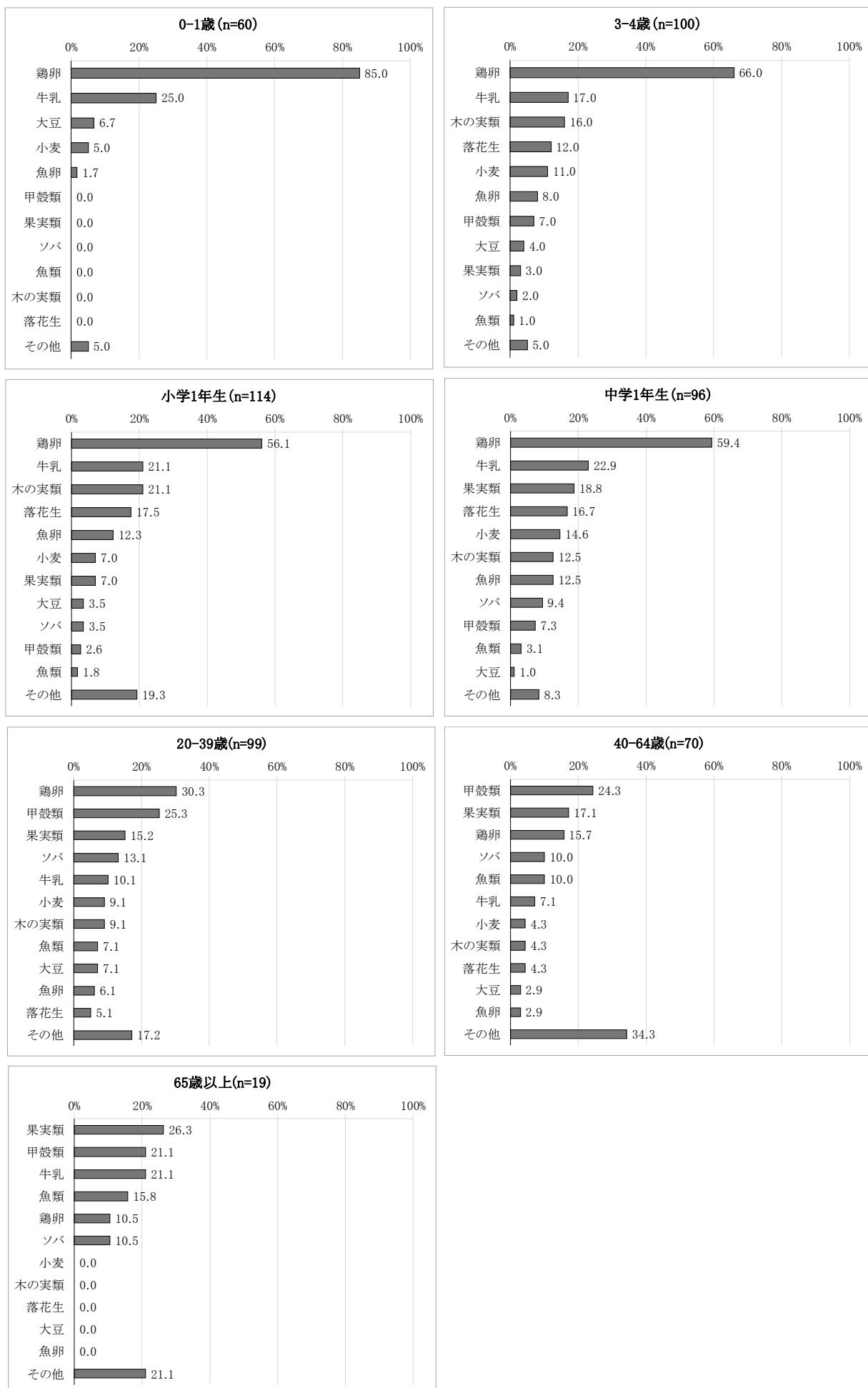


問6 食物アレルギーの種類

「あなた（成人向け）／お子さま（小児向け）」がこれまでに診断を受けた食物アレルギーの種類をご回答ください。

小児期では「鶏卵」64.3%、成人期では「甲殻類」24.5%の割合が高かった。また、年代別では、0-1歳児から中学1年生までは「鶏卵」の割合が高い一方で、20-39歳から「鶏卵」の割合は減少し、「甲殻類」や「果実類」の割合が増加していた。

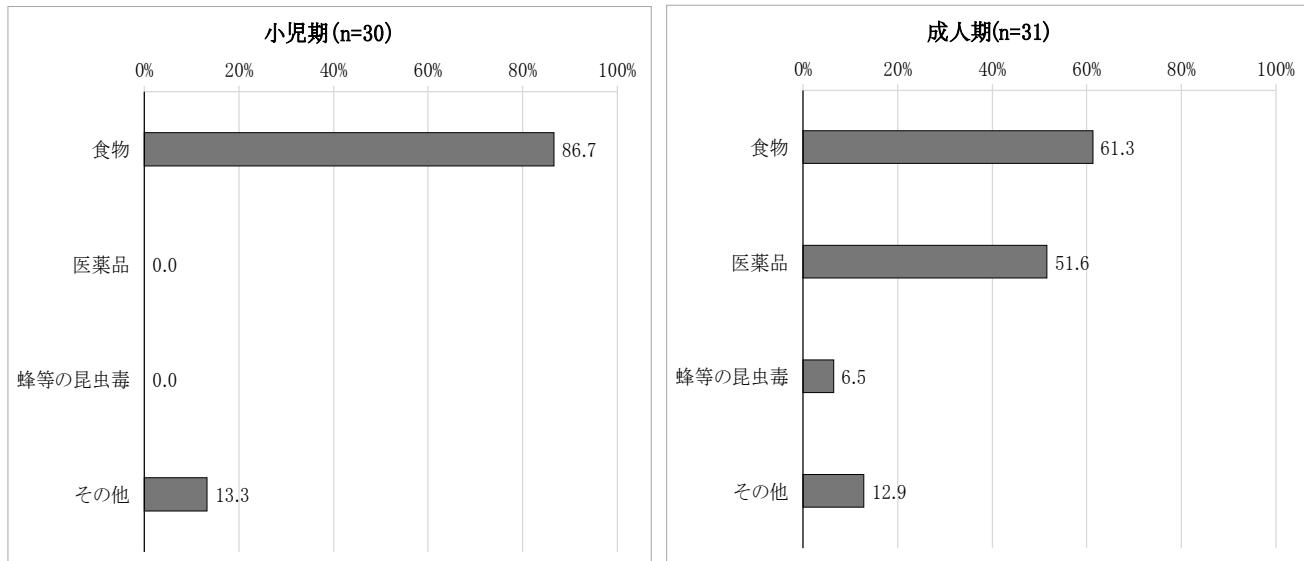


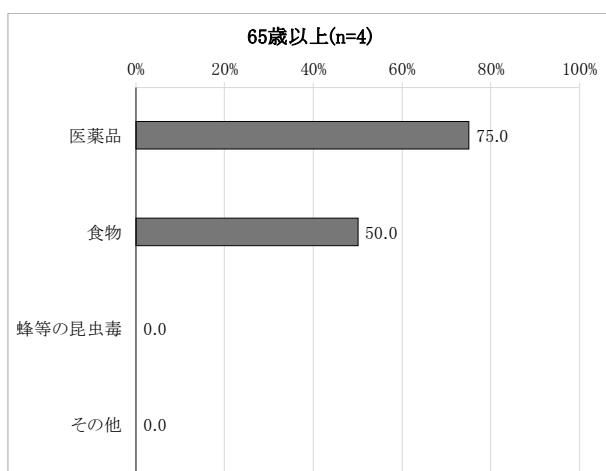
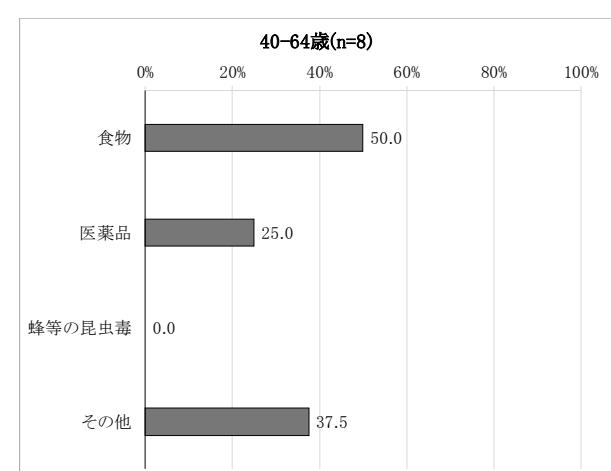
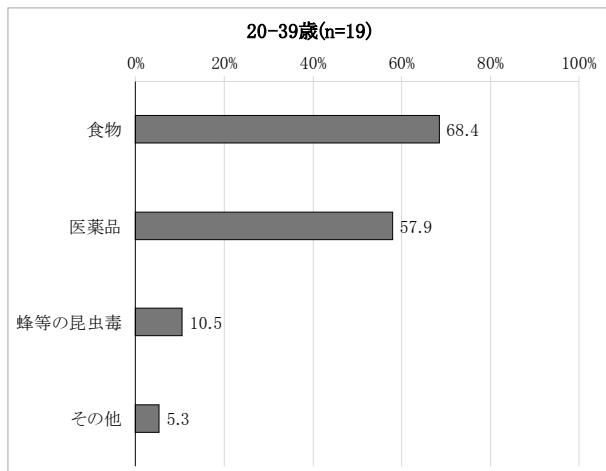
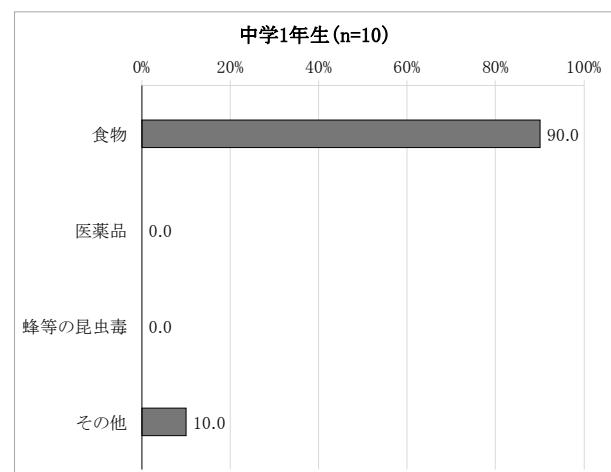
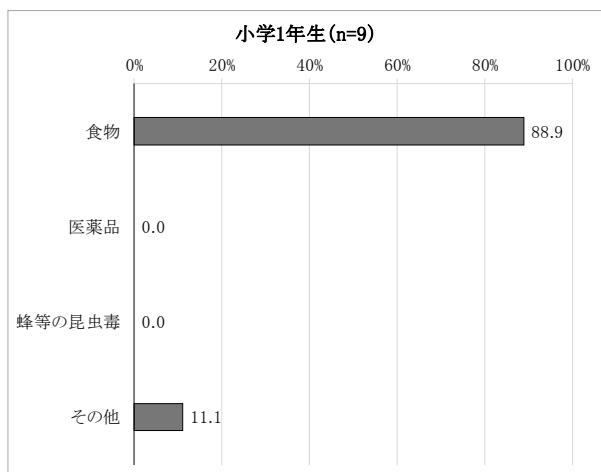
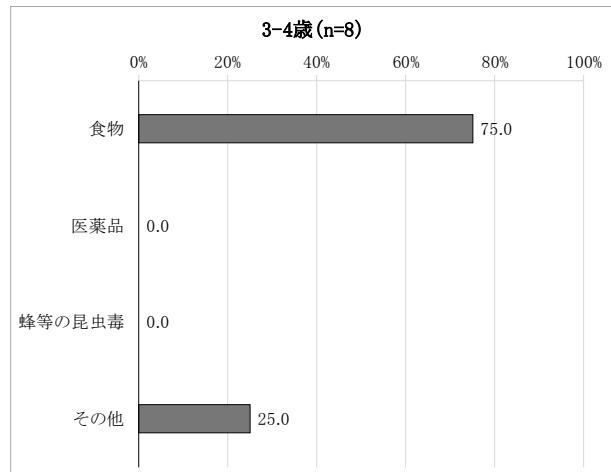
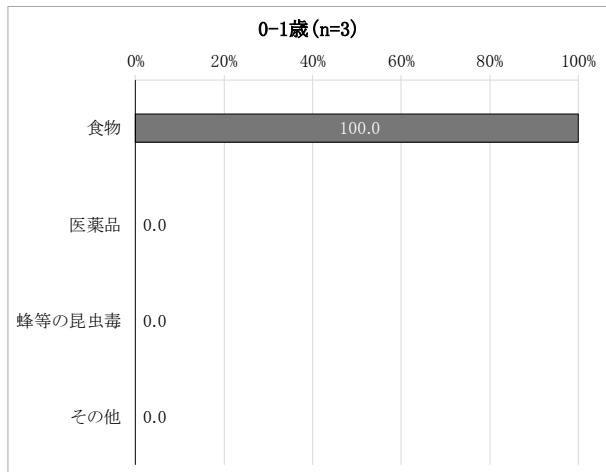


問7 アナフィラキシーの種類

「あなた（成人向け）／お子さま（小児向け）」がこれまでに診断を受けたアナフィラキシーの種類をご回答ください。

小児期、成人期ともに「食物」の割合が高かった（小児期 86.7%、成人期 61.3%）。また、成人期では「食物」に次いで「医薬品」の割合が高かった（51.6%）



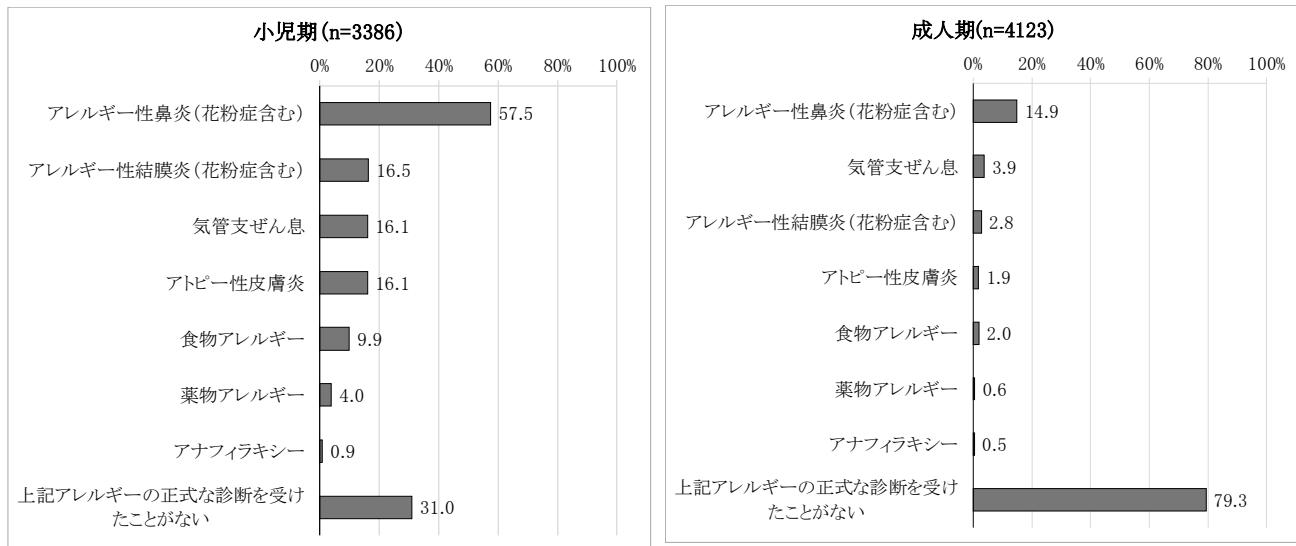


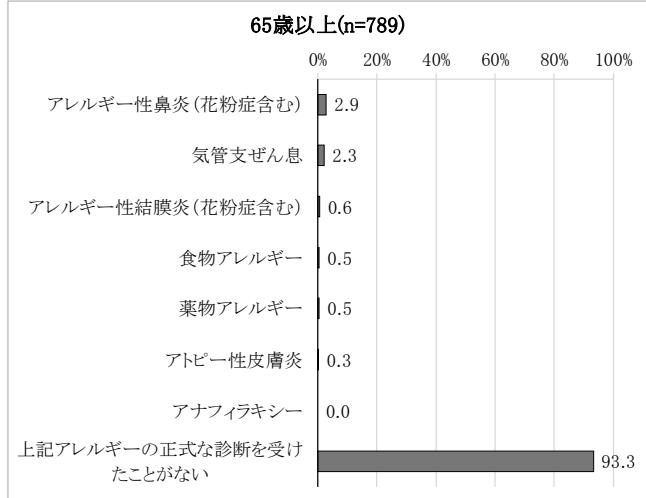
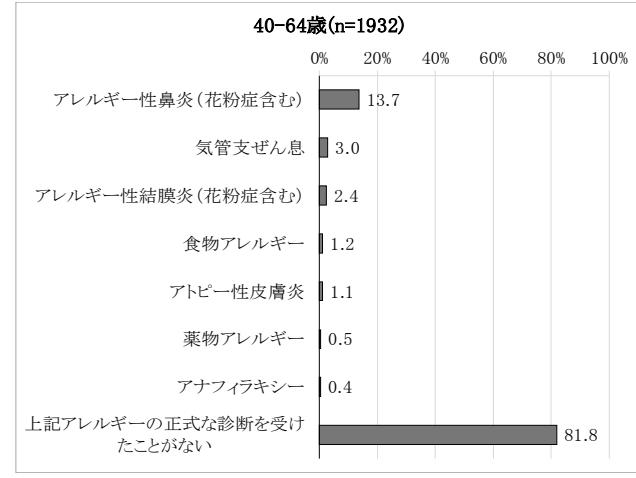
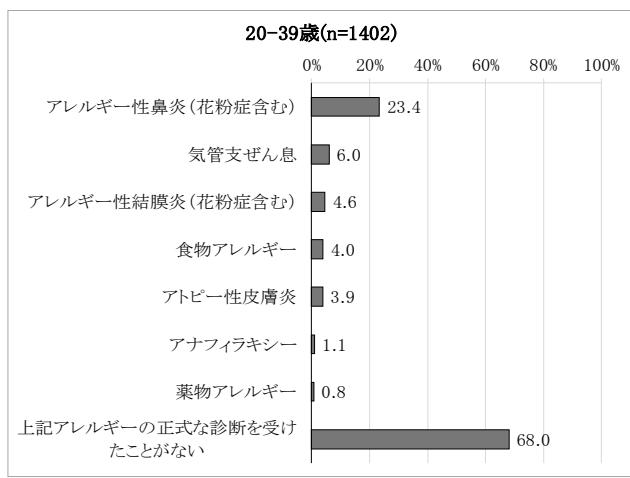
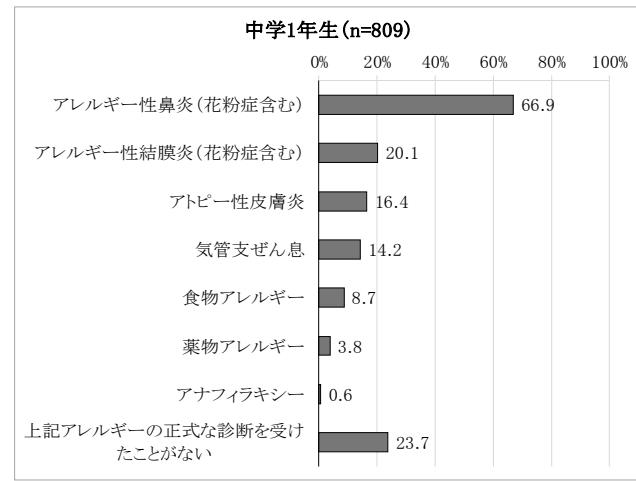
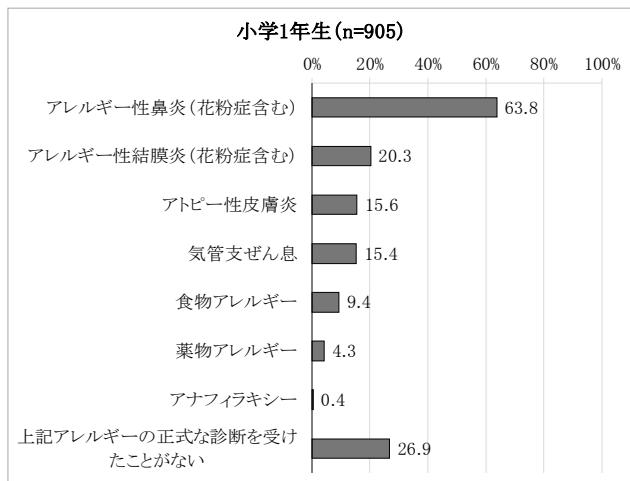
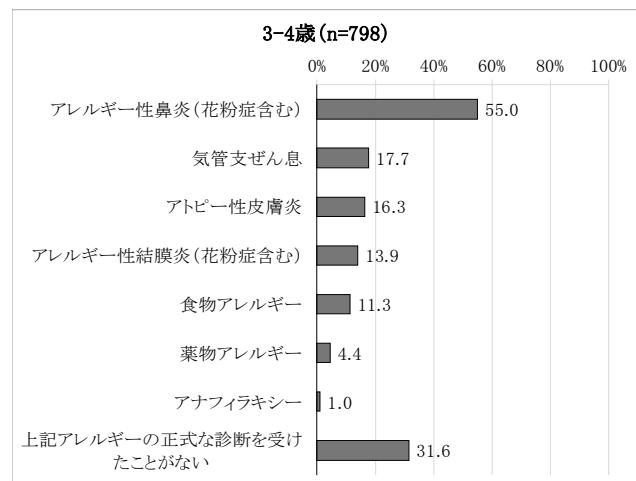
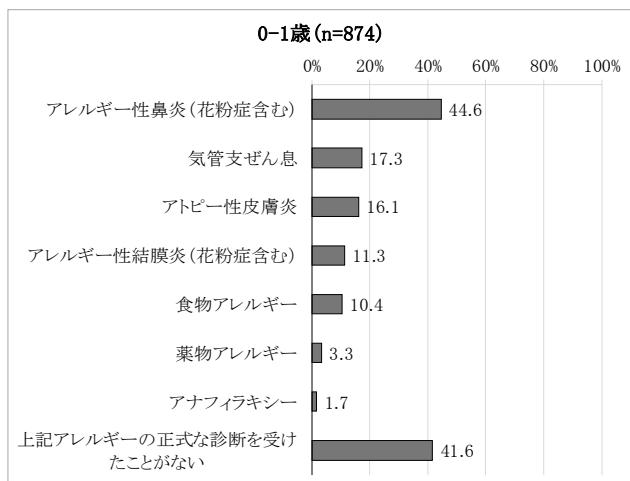
問8 ご家族のアレルギー疾患・症状

「あなた（成人向け）／お子さま（小児向け）」のご家族がこれまでに診断を受けたアレルギー疾患をご回答ください。

（1）親

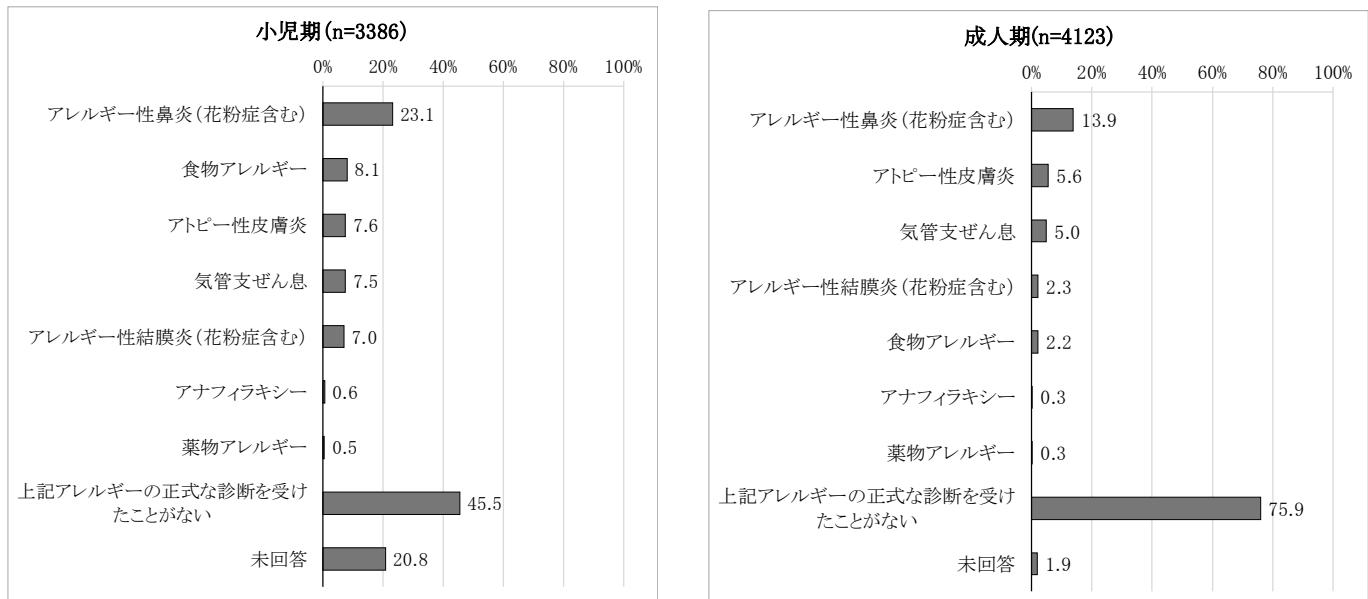
小児期では「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」57.5%、成人期では「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」79.3%の割合が高かった。

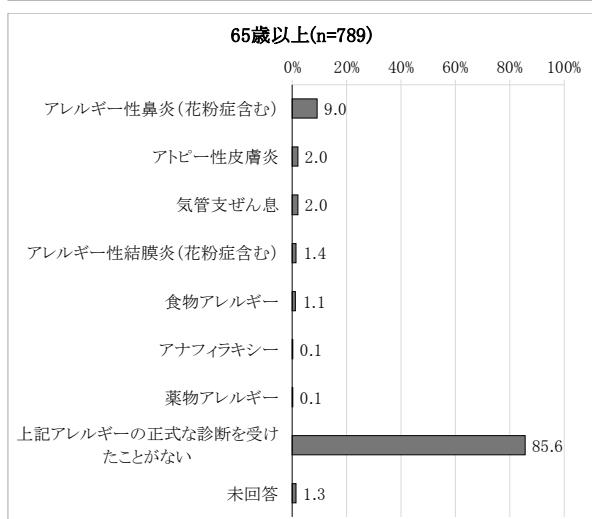
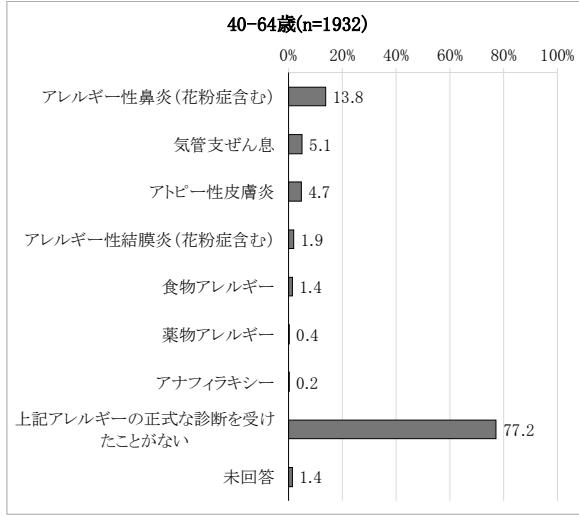
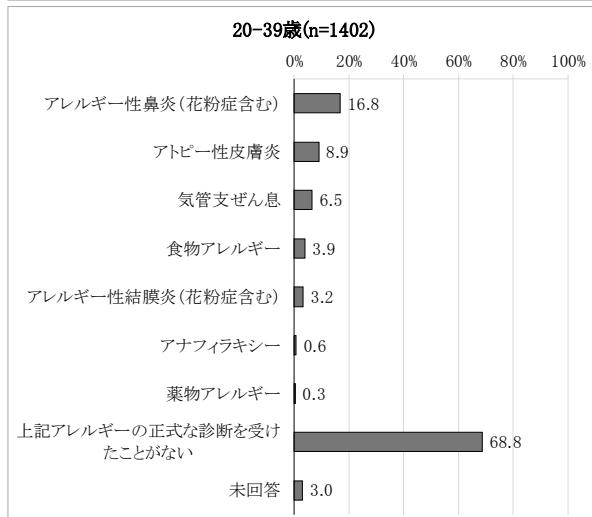
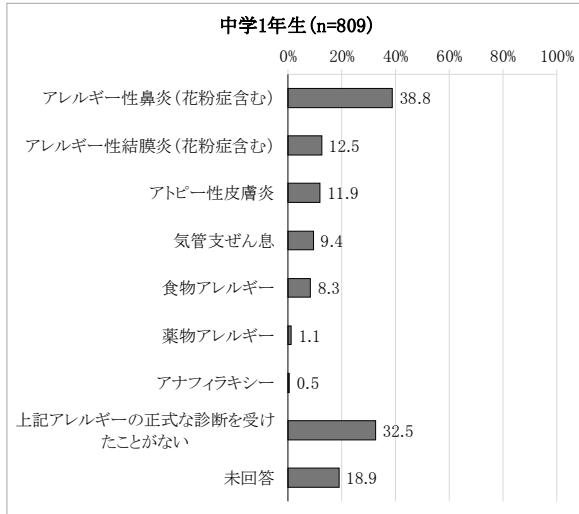
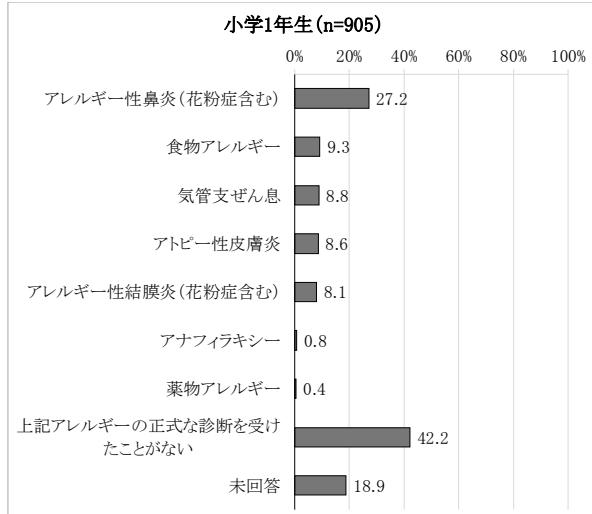
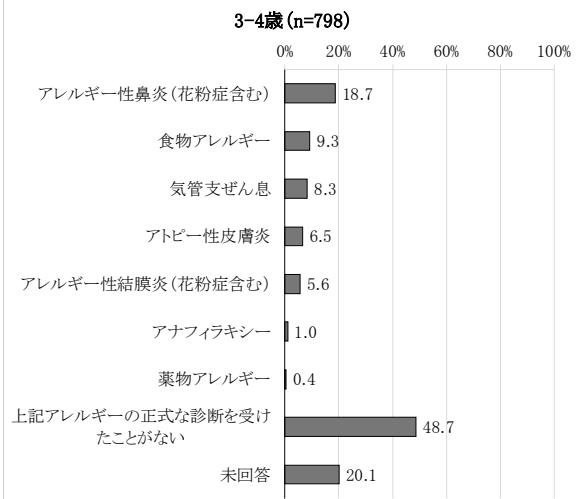
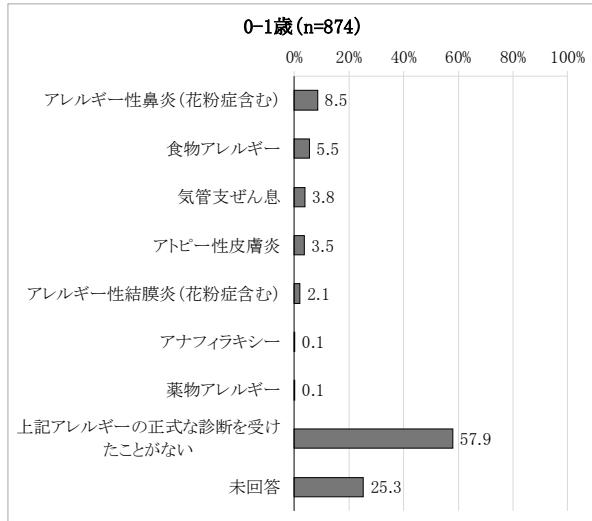




(2) きょうだい

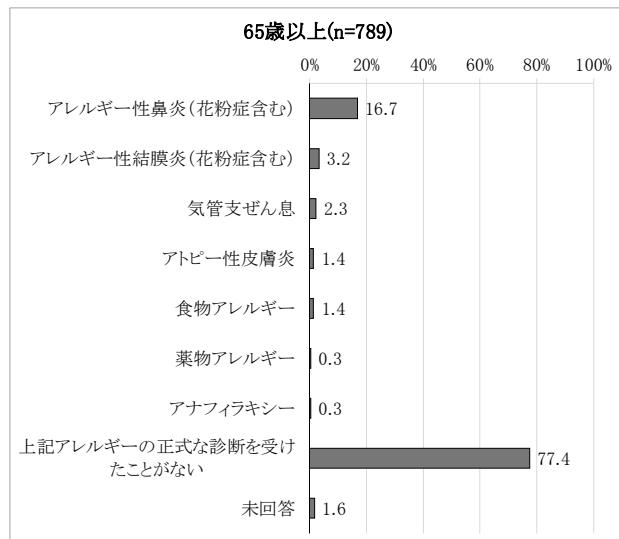
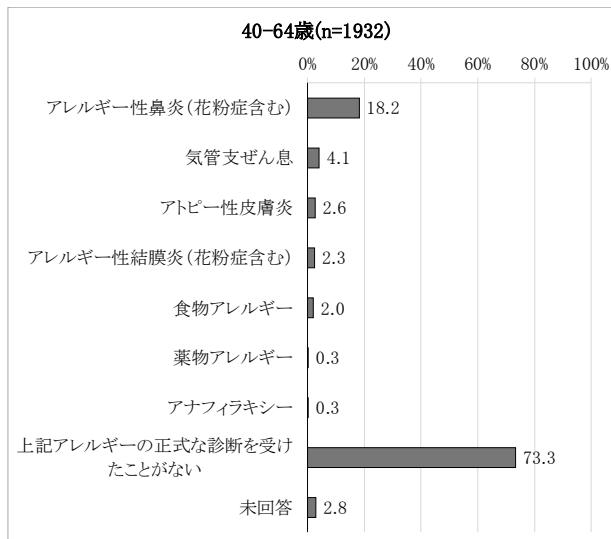
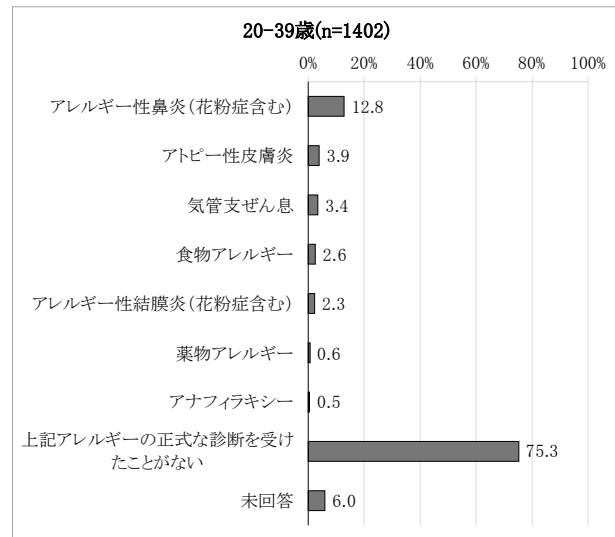
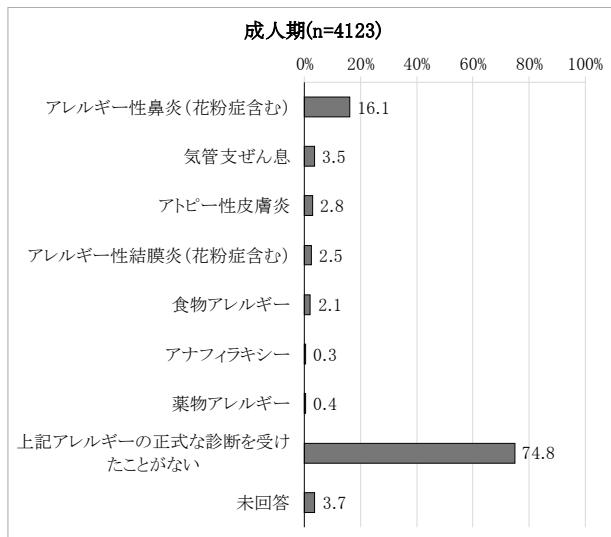
小児期、成人期ともに「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」の割合が高く（小児期 45.5%、成人期 75.9%）、次いで「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」の割合が高かった（小児期 23.1%、成人期 13.9%）。





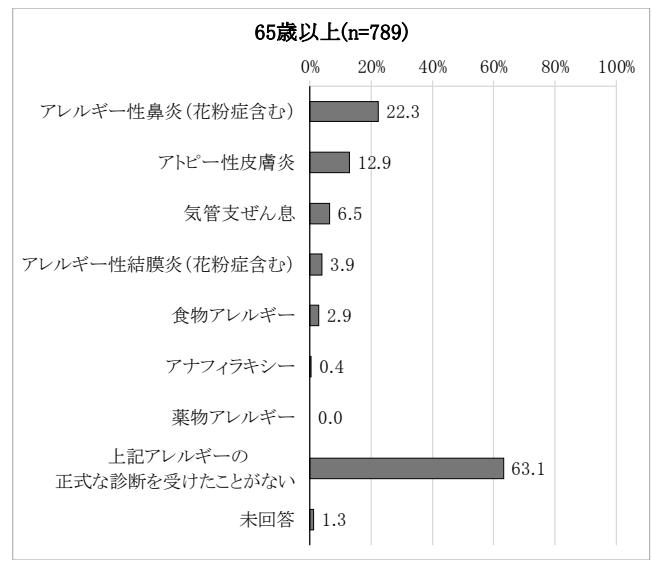
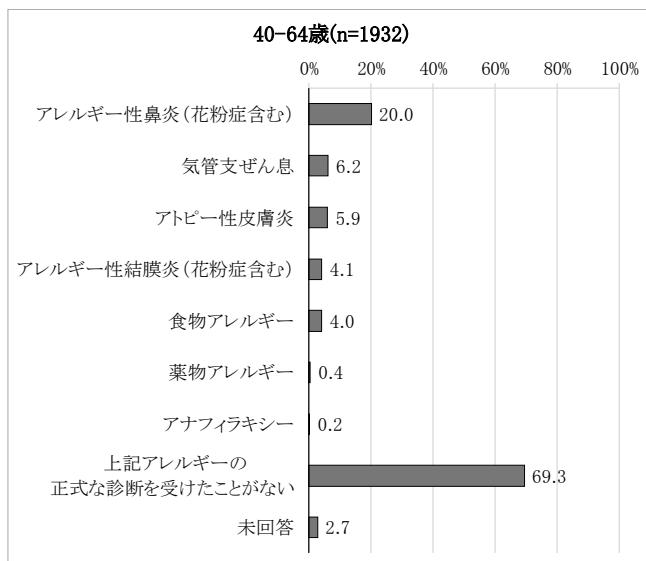
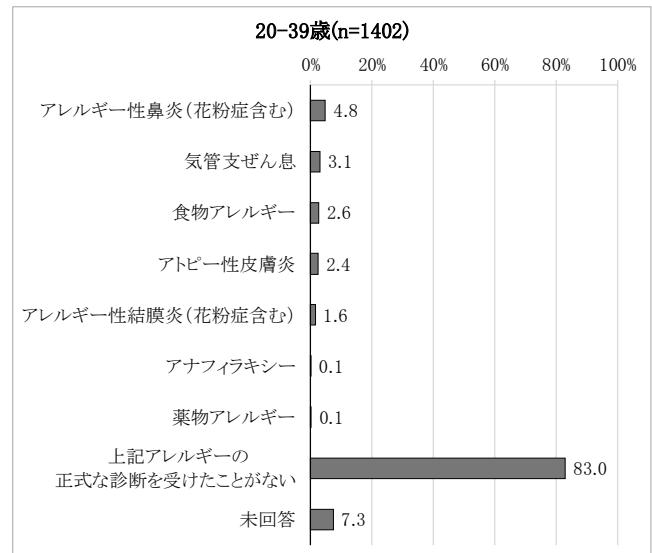
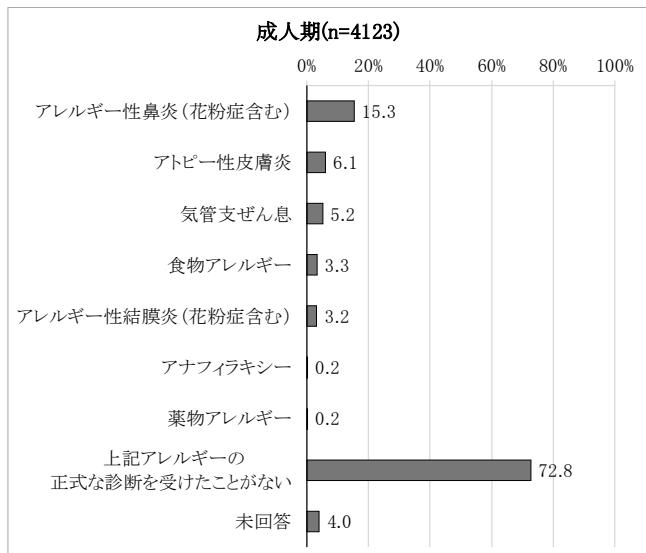
(3) 配偶者（成人のみに対する問）

「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」74.8%の割合が高く、次いで「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」16.1%の割合が高かった。また、年代別では、40-64歳で「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」の割合が18.2%と一番高かった。



(4) お子様（成人のみに対する問）

「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」 72.8%の割合が高く、次いで「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」 15.3%の割合が高かった。



2.2.3 検査・治療・症状のコントロール不良時の対応の状況

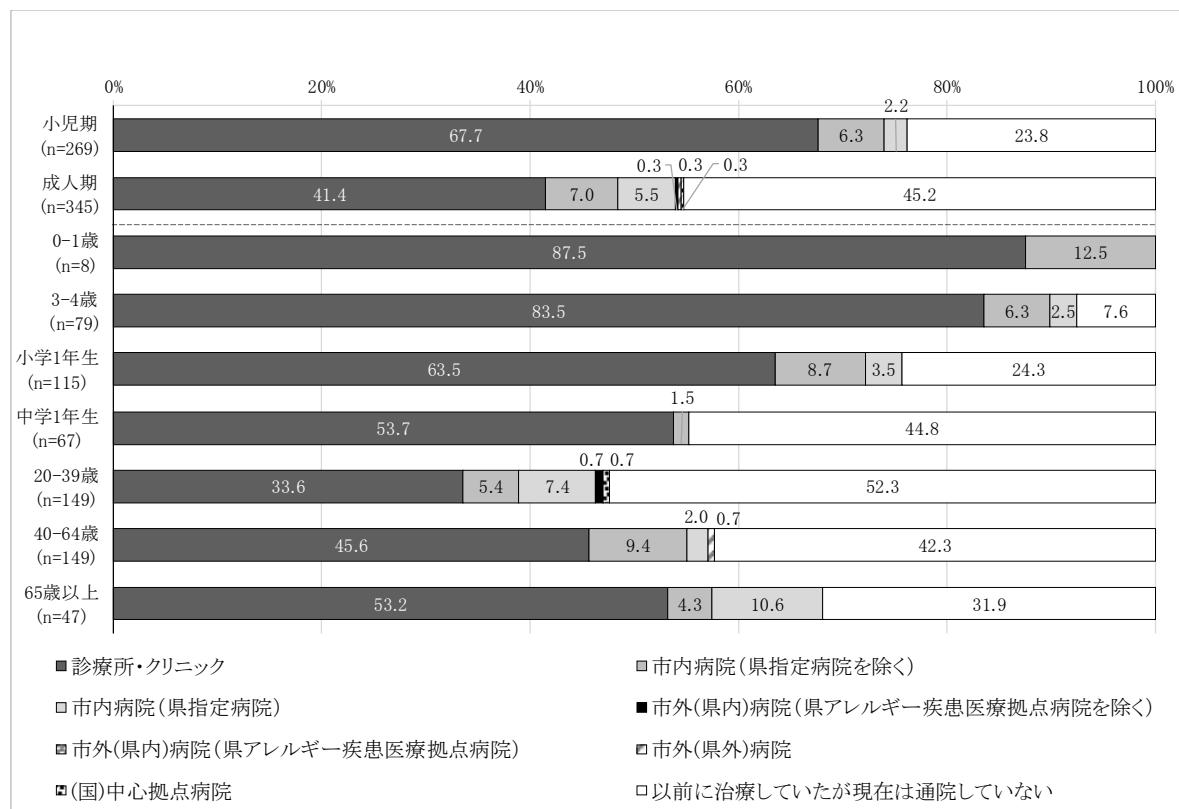
問9 医療機関の種別

「あなた（成人向け）／お子さま（小児向け）」が現在アレルギー疾患で通院している医療機関の種別をご回答ください。

通院している医療機関の種別はいずれの疾患においても「診療所・クリニック」が多かった。

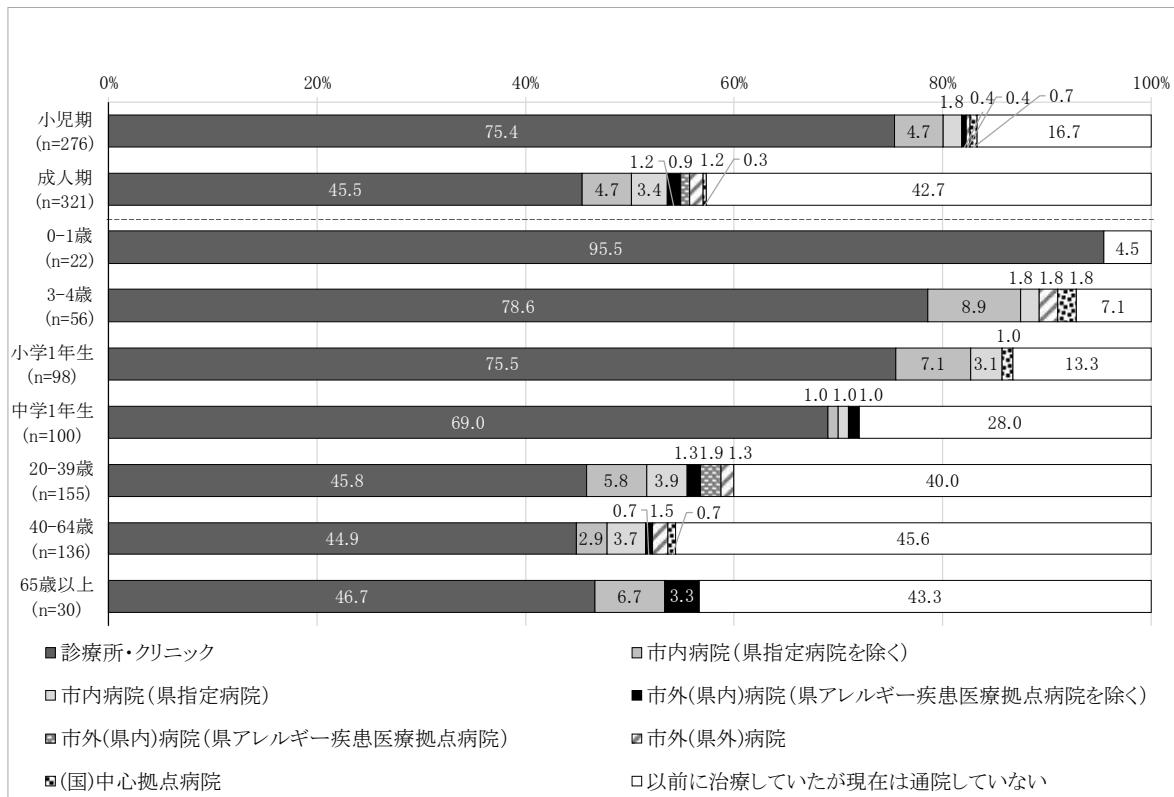
（1）気管支ぜん息

小児期では「診療所・クリニック」67.7%の割合が高かった。成人期では「以前に治療していたが現在は通院していない」45.2%の割合が高かった。また、年代別では、0-1歳から中学1年生にかけて、「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が増加していた。一方、20-39歳から65歳以上にかけて、「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が減少し、「診療所・クリニック」の割合が増加した。



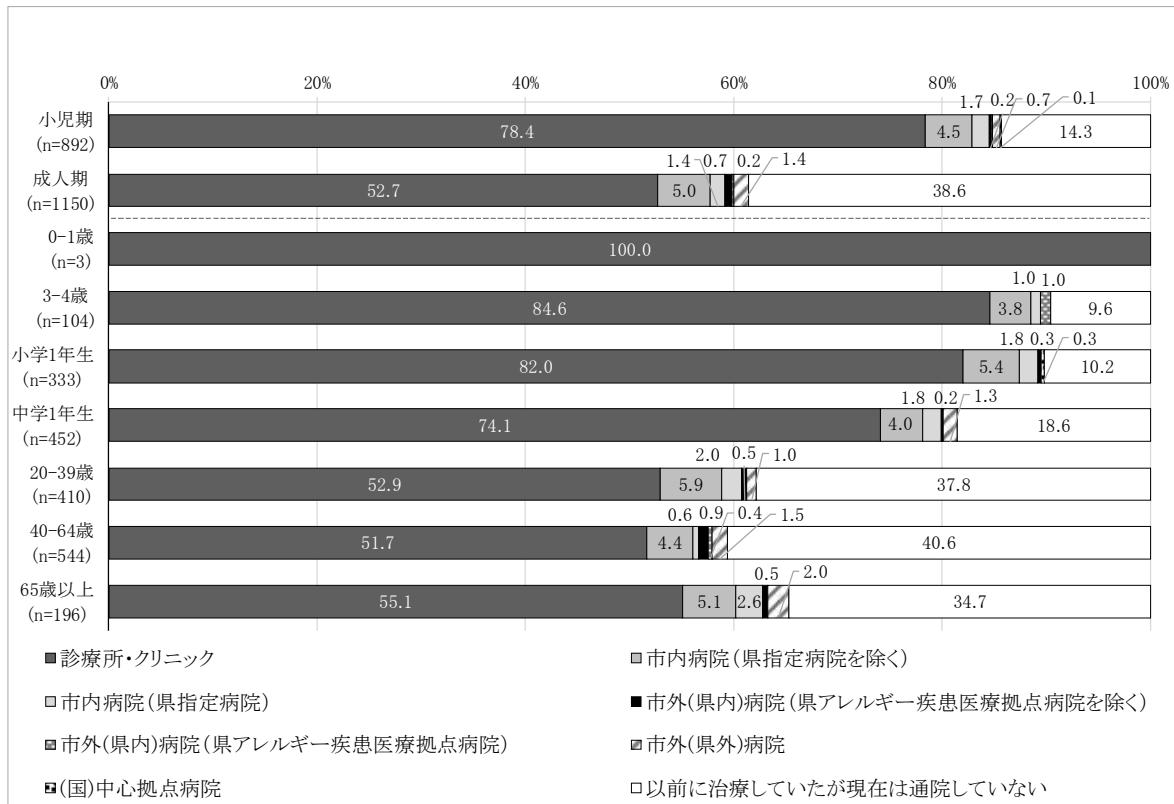
(2) アトピー性皮膚炎

小児期、成人期ともに「診療所・クリニック」の割合が高かった（小児期 75.4%、成人期 45.5%）。また、年代別では、0-1 歳から 40-64 歳にかけて、「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が増加していた。



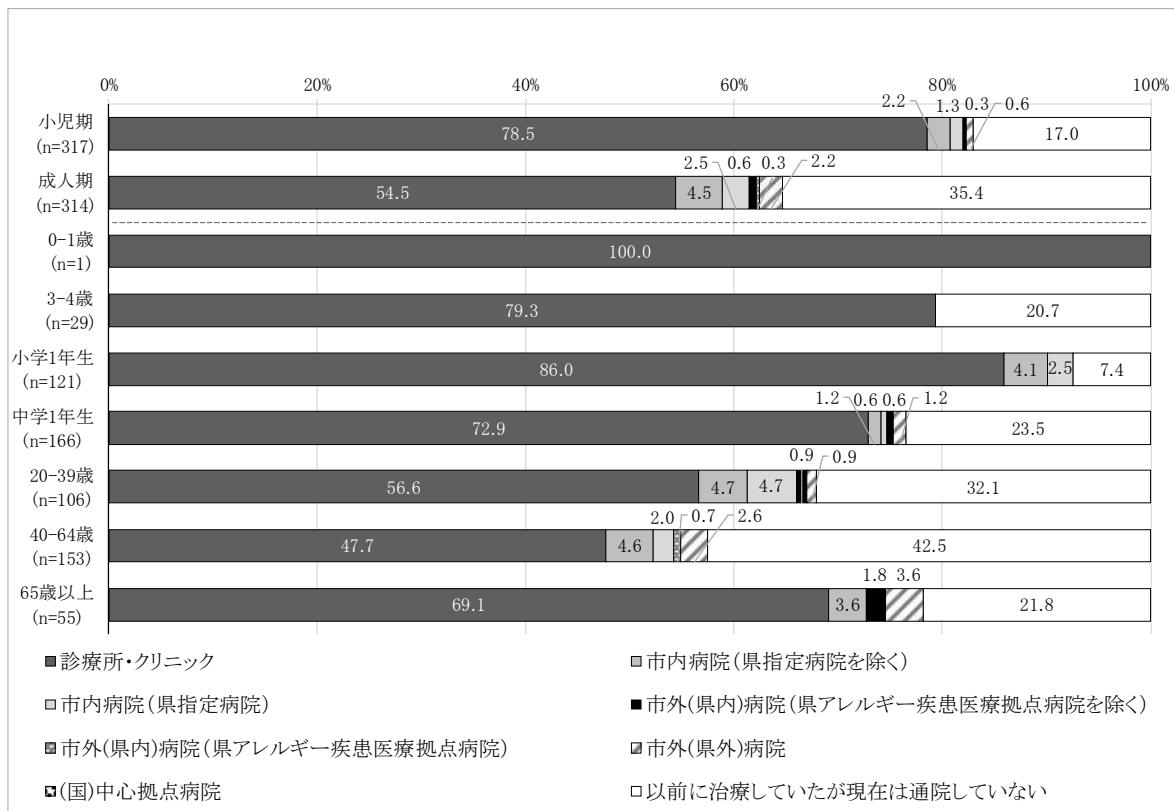
(3) アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）

小児期、成人期ともに「診療所・クリニック」の割合が高かった（小児期 78.4%、成人期 52.7%）。また、年代別では、3-4 歳から 40-64 歳にかけて、「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が増加し、65 歳以上ではやや減少していた。



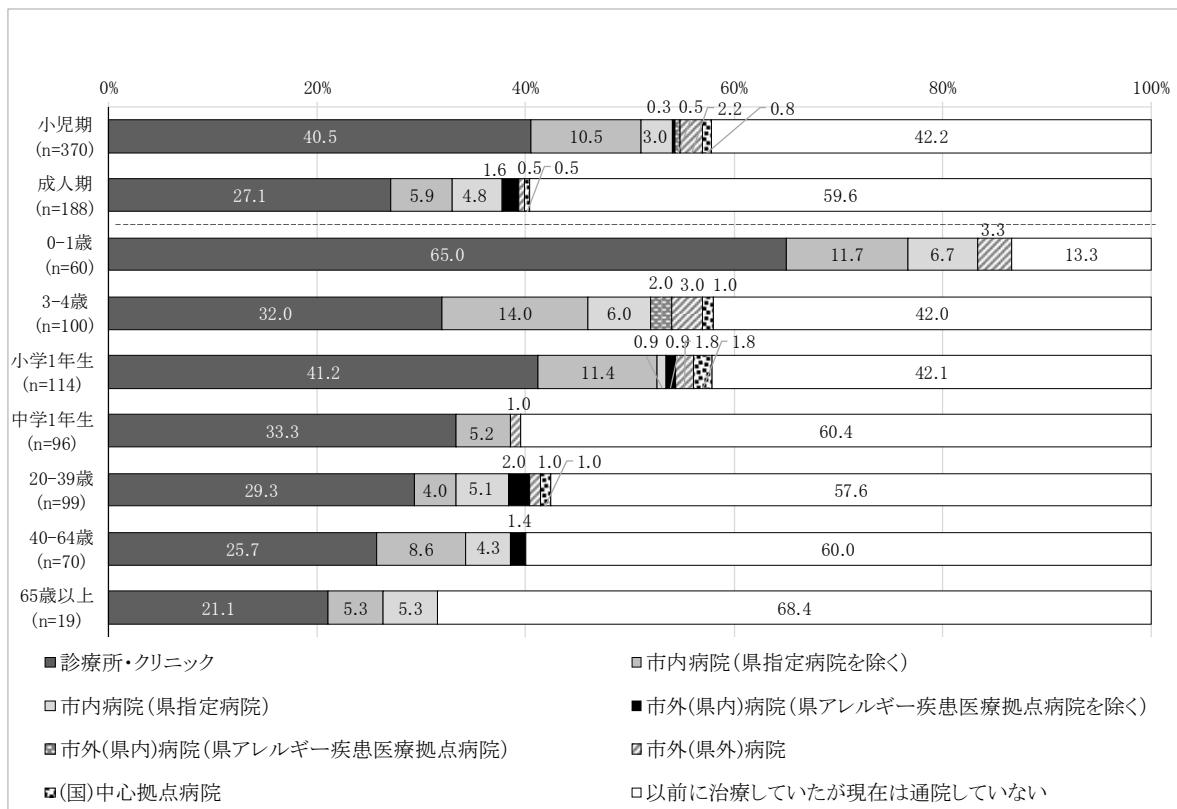
(4) アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）

小児期、成人期ともに「診療所・クリニック」の割合が高かった（小児期 78.5%、成人期 54.5%）。また、年代別では、小学1年生から40-64歳にかけて、「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が増加し、65歳以上では減少していた。



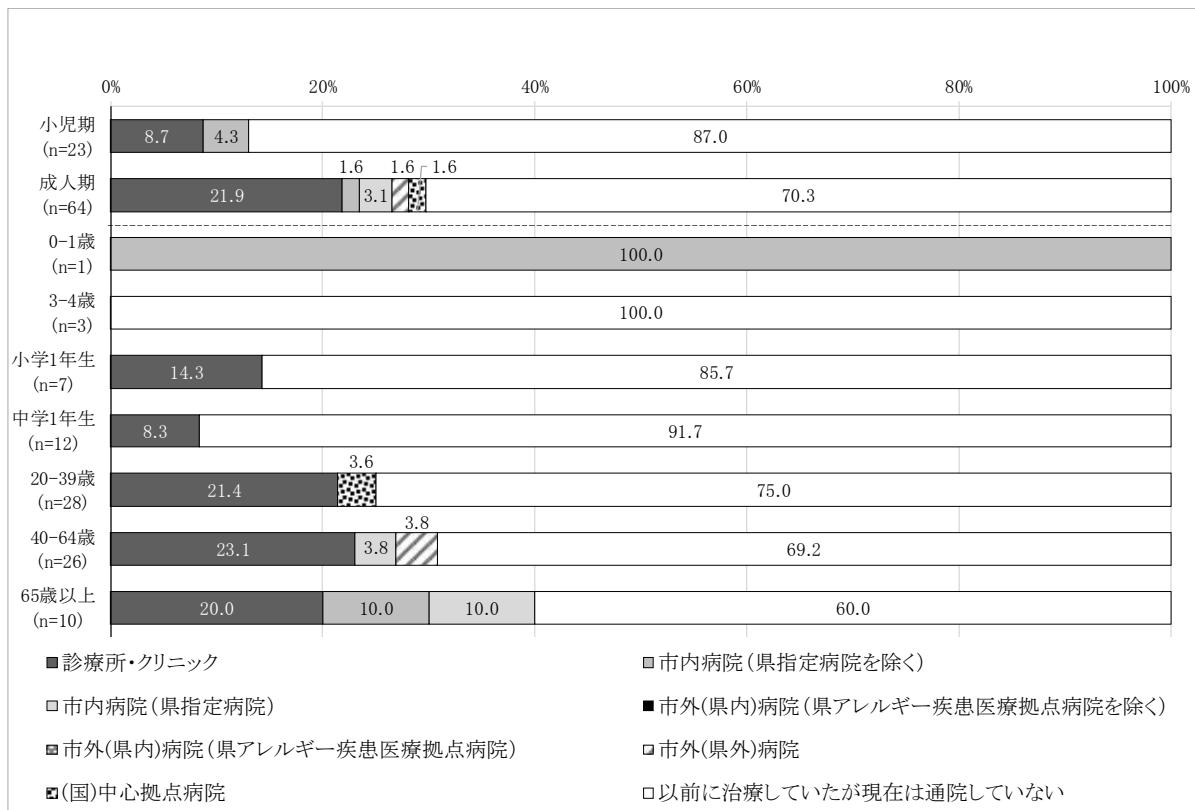
(5) 食物アレルギー

小児期、成人期ともに「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が高かった（小児期42.2%、成人期59.6%）。また、年代別では、0・1歳では「診療所・クリニック」の割合が65.0%と高かつたが、3・4歳以降は「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が高く、65歳以上にかけて割合が増加していた。



(6) 薬物アレルギー

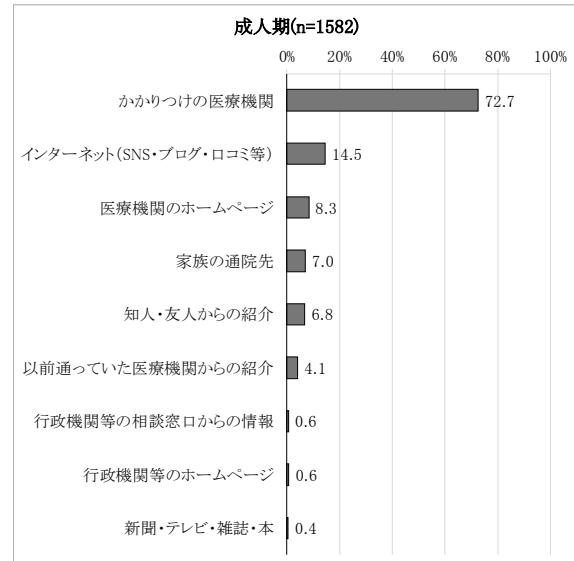
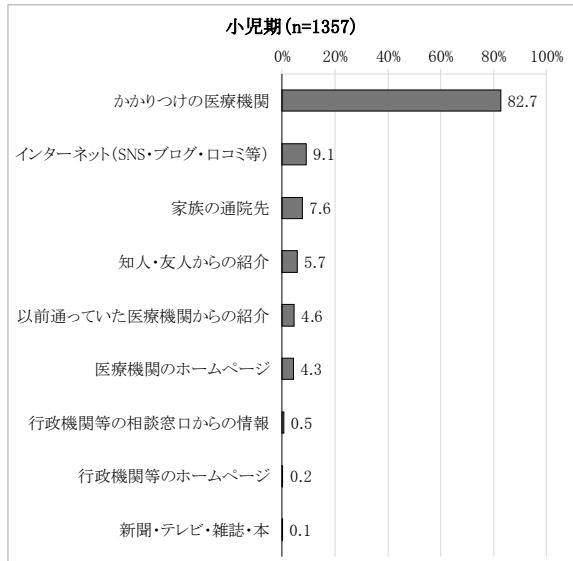
小児期、成人期ともに「以前に治療していたが現在は通院していない」の割合が高く（小児期 87.0%、成人期 70.3%）次いで、「診療所・クリニック」が高かった（小児期 8.7%、成人期 21.9%）。

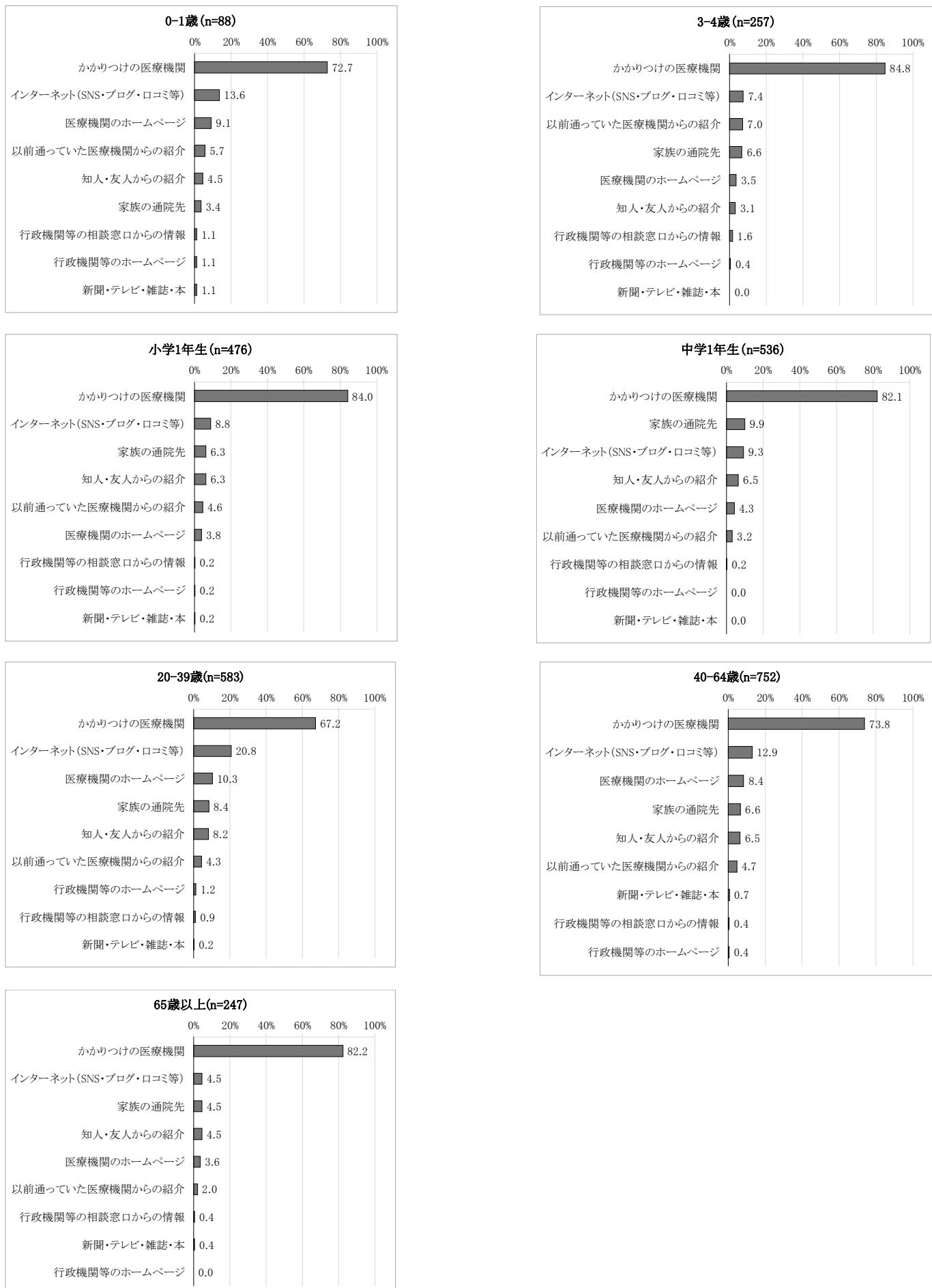


問10 医療機関の選定方法（問9で対象の疾患をもつ回答者のみ）

「あなた（成人向け）／お子さま（小児向け）」が現在アレルギー疾患で通院している（していた）医療機関の選定方法をご回答ください。

小児期、成人期ともに「かかりつけの医療機関」の割合が高かった（小児期 82.7%、成人期 72.7%）。また、年代別では、「かかりつけの医療機関」以外の選択肢では、「インターネット（SNS・ブログ・口コミ等）」が 20-39 歳と 40-64 歳で高く（20-39 歳 20.8%、40-64 歳 12.9%）、「以前から通っていた医療機関の紹介」はいずれの年代も 5% 前後であった。



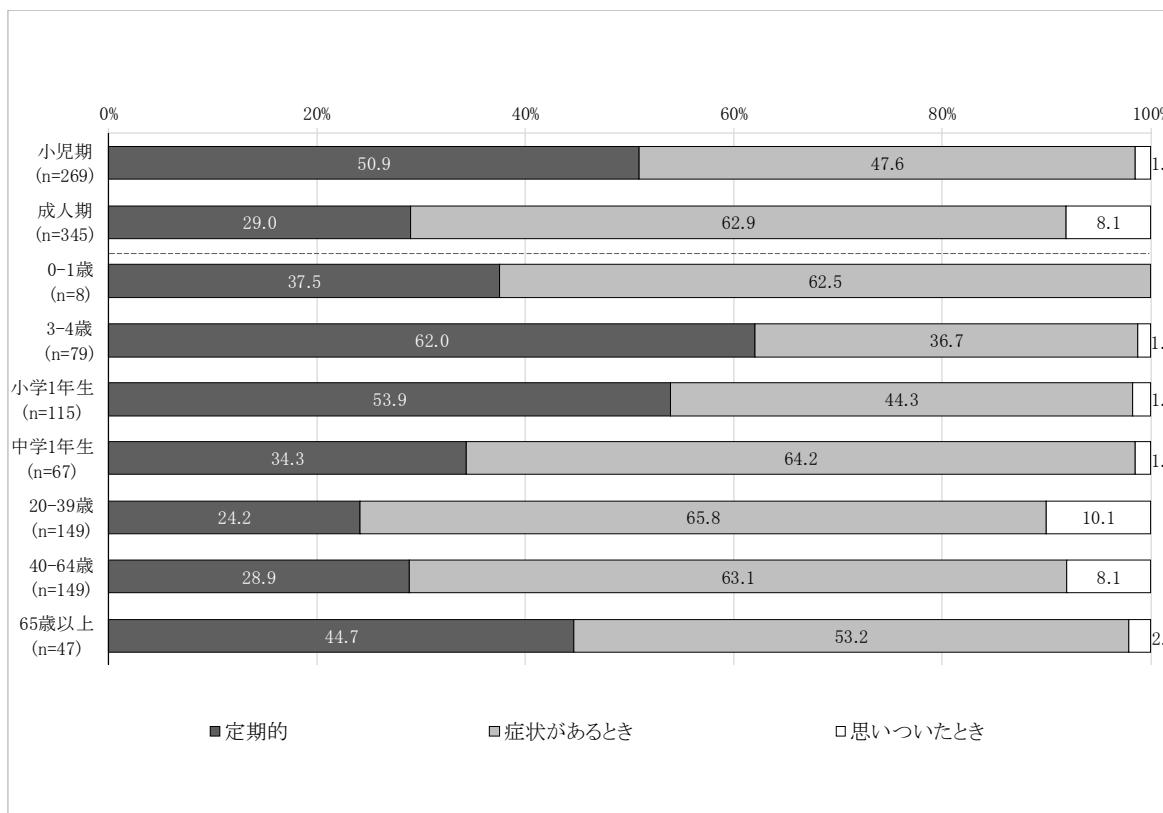


問11 受診頻度（問9で対象の疾患をもつ回答者のみ）

「あなた（成人向け）／お子さま（小児向け）」が現在アレルギー疾患で通院している（していた）医療機関の受診頻度をご回答ください。

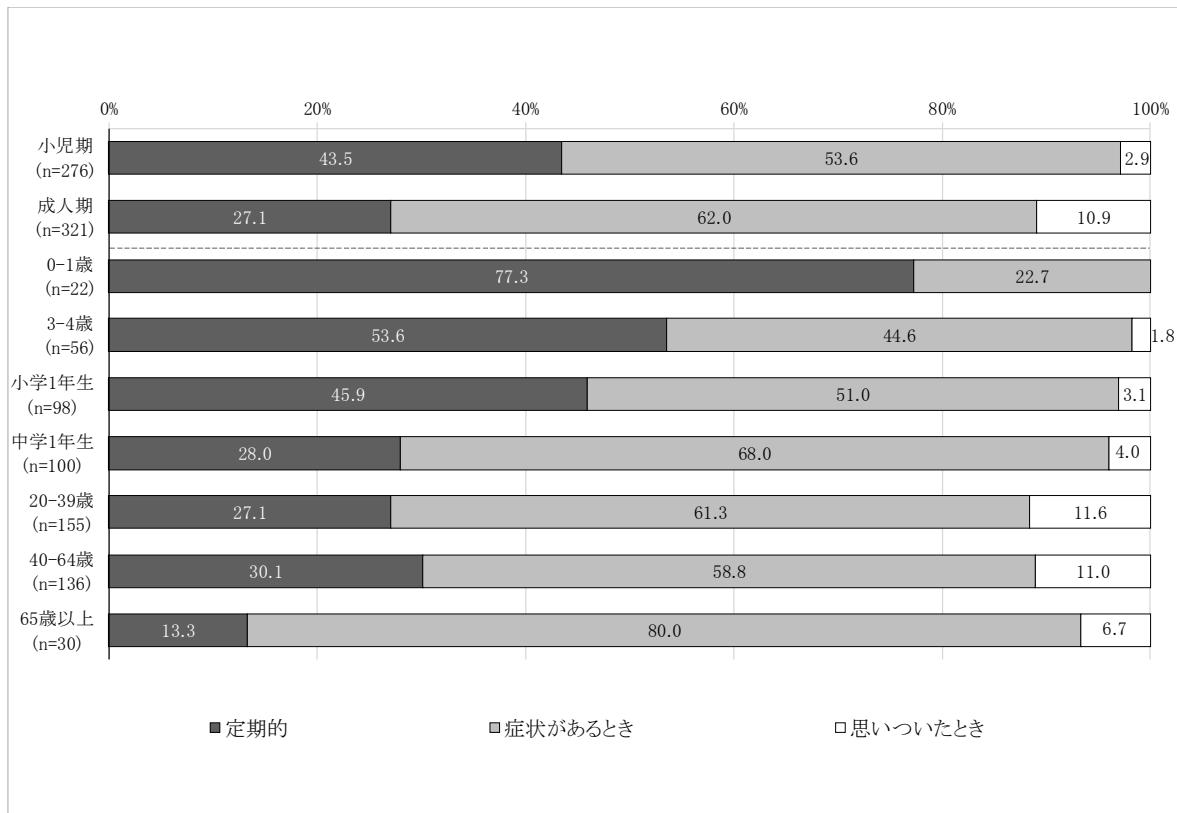
（1）気管支ぜん息

小児期では「定期的」50.9%、成人期では「症状があるとき」62.9%の割合が高かった。また、年代別では、0・1歳、中学1年生、20・39歳、40・64歳では「症状があるとき」の割合が高く（0・1歳62.5%、中学1年生64.2%、20・39歳65.8%、40・64歳63.1%）、一方で、3・4歳と小学1年生では「定期的」の割合が高かった（3・4歳62.0%、小学1年生53.9%）。65歳以上では、「定期的」と「症状があるとき」の割合が同程度であった（定期的44.7%、症状があるとき53.2%）。



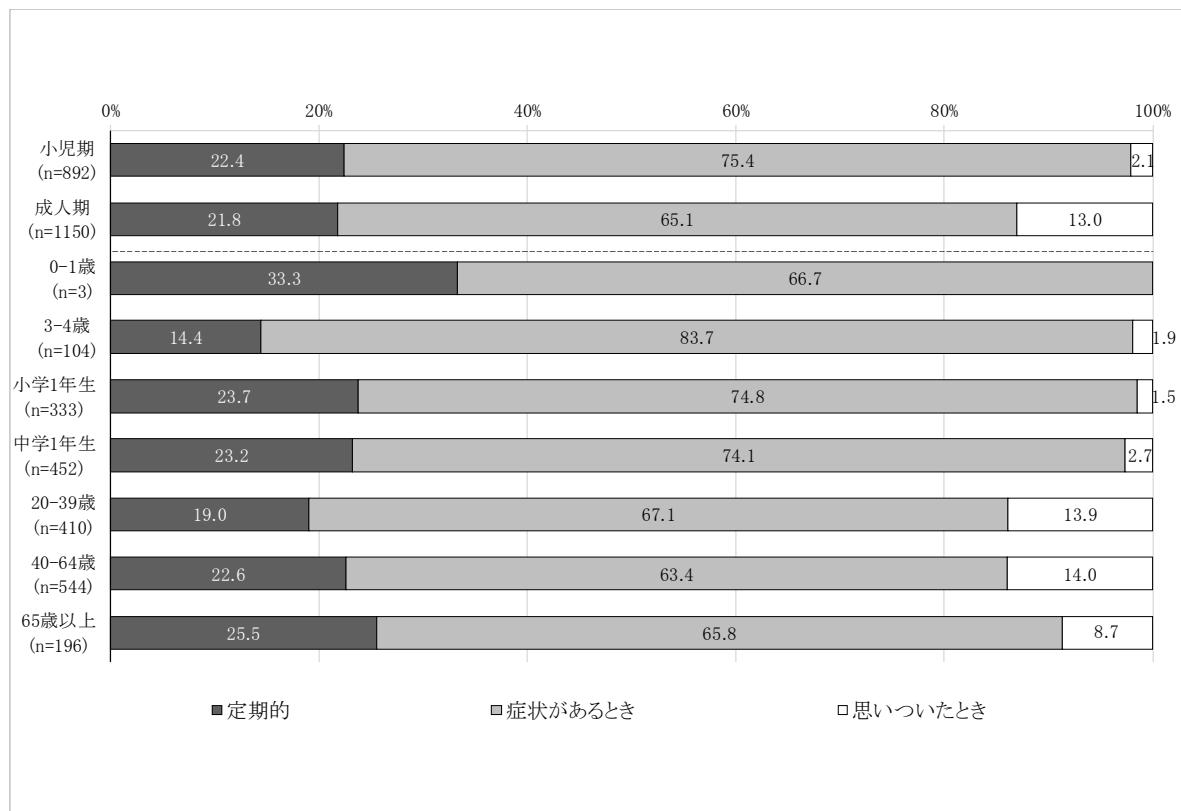
(2) アトピー性皮膚炎

小児期、成人期とともに「症状があるとき」の割合が高かった（小児期 53.6%、成人期 62.0%）。また、年代別では、0-1 歳から中学 1 年生にかけて、「定期的」の割合が減少した。さらに、20-39 歳と 40-64 歳では、「思いついたとき」の割合が他の年代よりも高かった（20-39 歳 11.6%、40-64 歳 11.0%）。



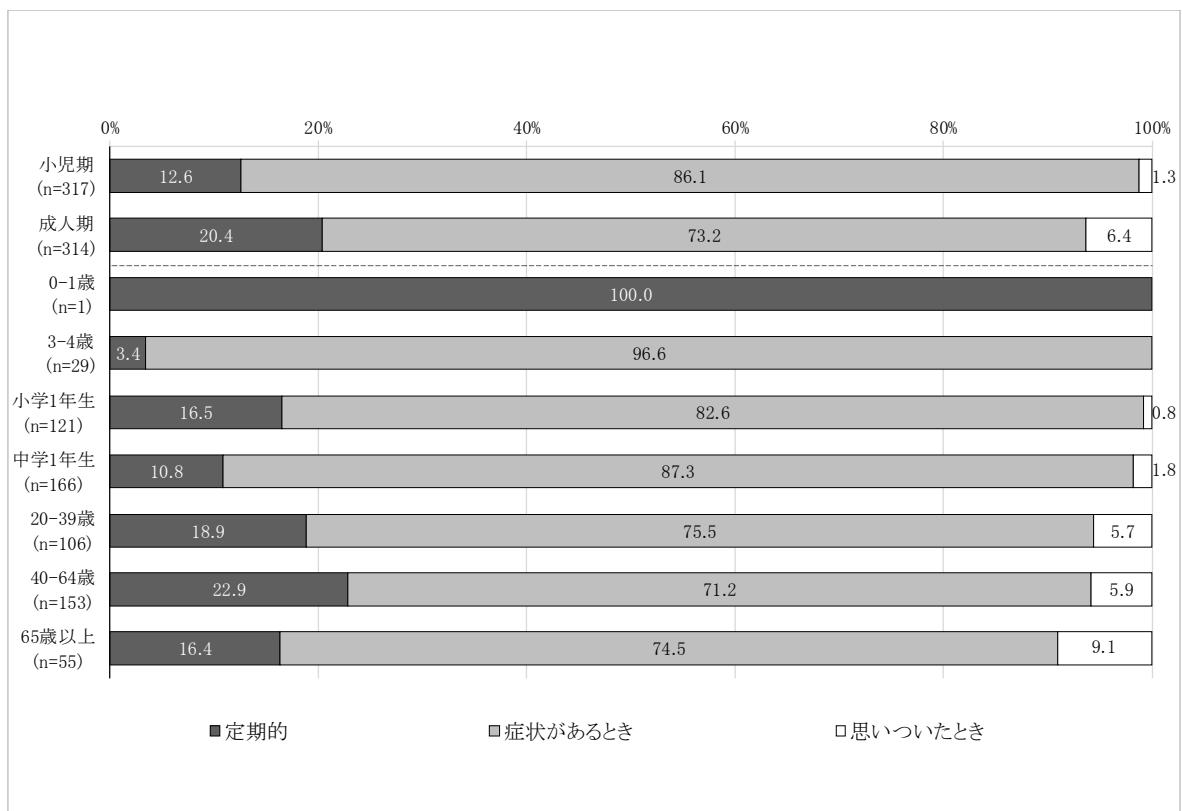
(3) アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）

小児期、成人期とともに「症状があるとき」の割合が高かった（小児期 75.4%、成人期 65.1%）。また、年代別では、0・1歳の「定期的」の割合はその他の年代より高かった（33.3%）。一方で、3・4歳の「症状があるとき」の割合はその他の年代より高かった（83.7%）。さらに、20・39歳から65歳以上にかけて、「定期的」の割合が増加していた。



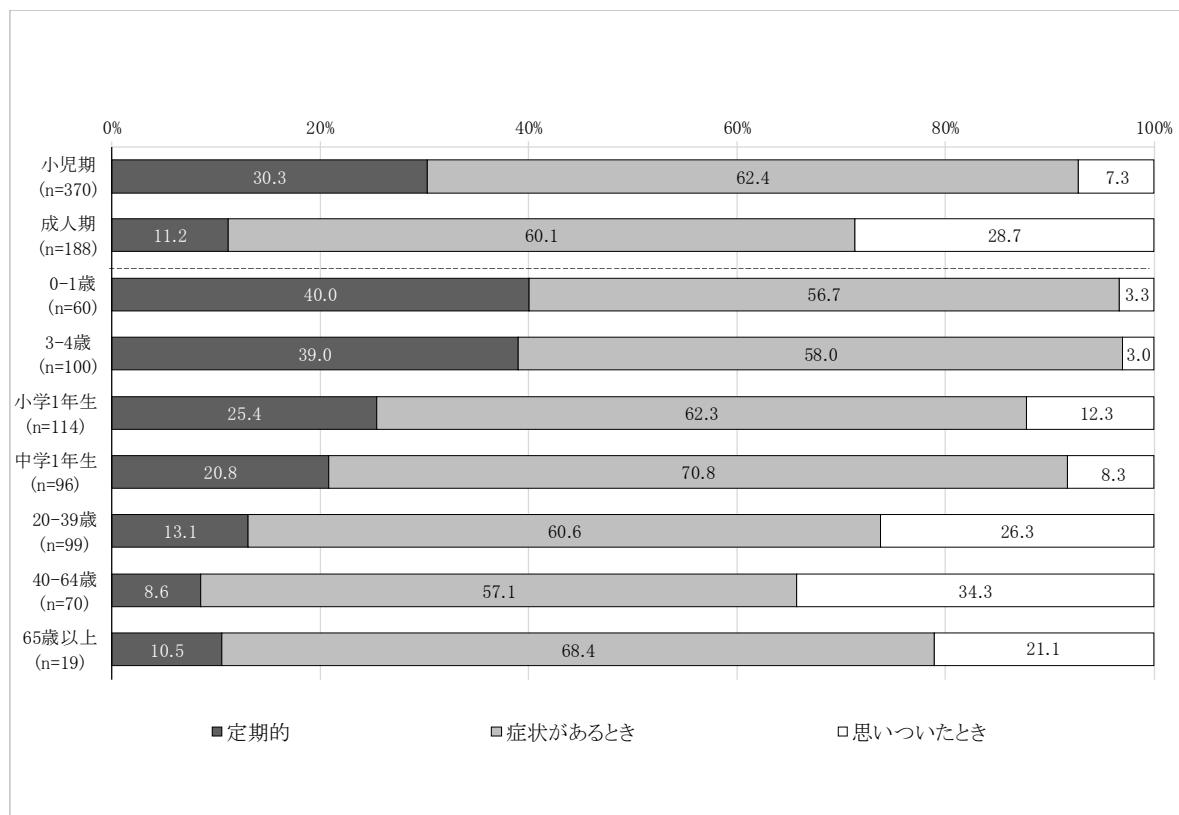
(4) アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）

小児期、成人期ともに「症状があるとき」の割合が高かった（小児期 86.1%、成人期 73.2%）。また、年代別では、小学1年生から65歳以上にかけて、「思いついたとき」の割合が増加していた。



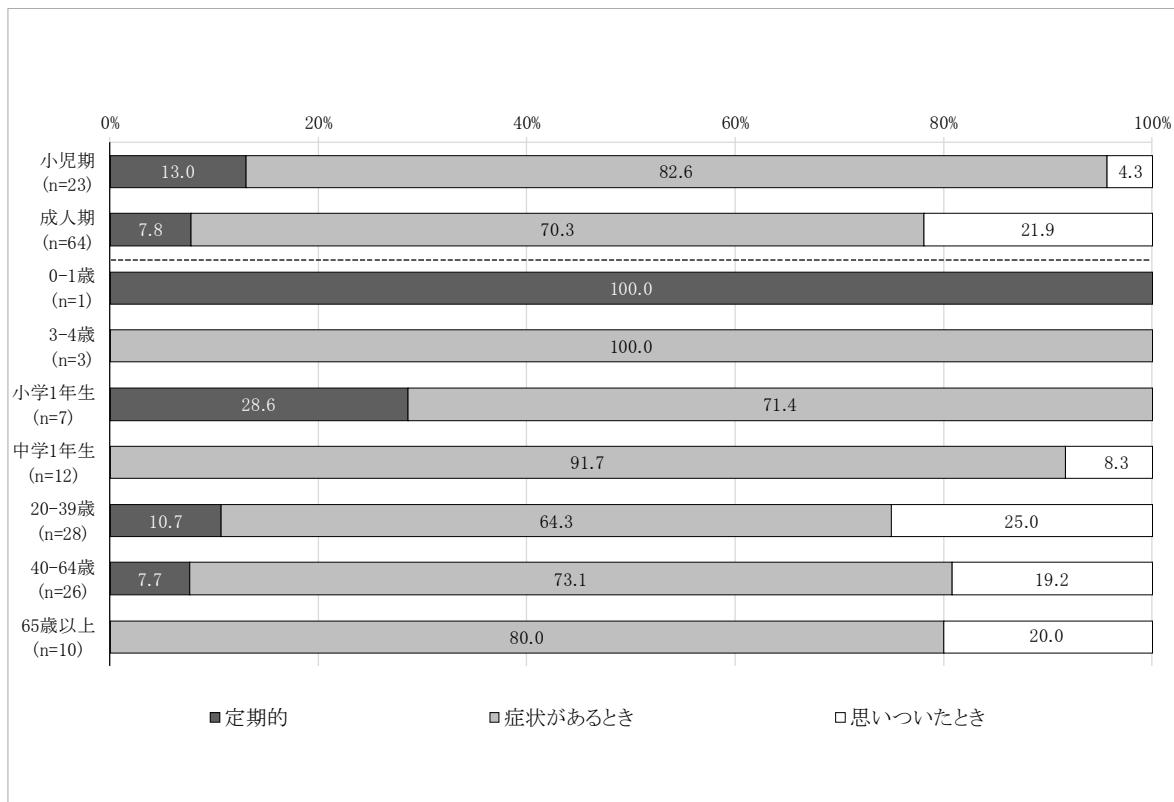
(5) 食物アレルギー

小児期、成人期ともに「症状があるとき」の割合が高かった（小児期 62.4%、成人期 60.1%）。成人期では、次いで「思いついたとき」の割合が高かった（28.7%）。また、年代別では、0-1歳から中学1年生にかけて、「症状があるとき」の割合が増加していた一方で、「定期的」の割合が減少していた。



(6) 薬物アレルギー

小児期、成人期ともに「症状があるとき」の割合が高かった（小児期 82.6%、成人期 70.3%）。

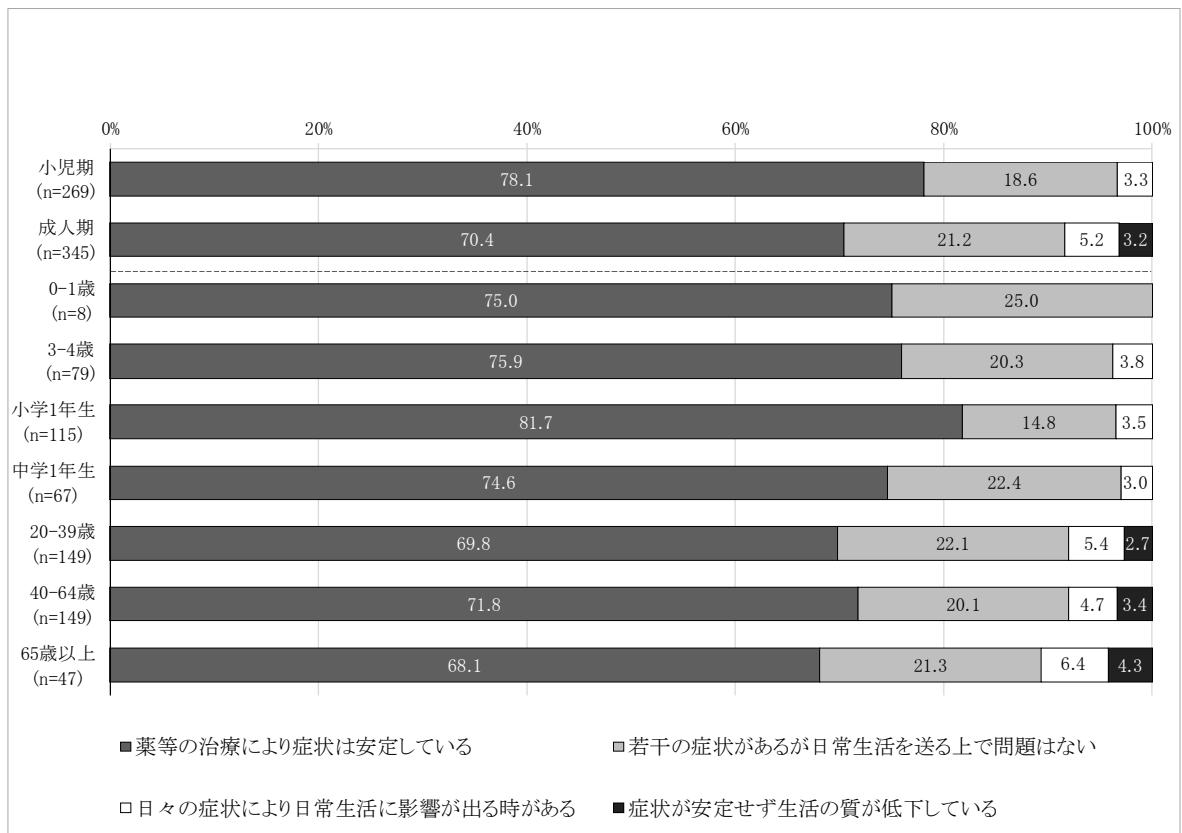


問12 現在の症状

現在の症状をご回答ください。

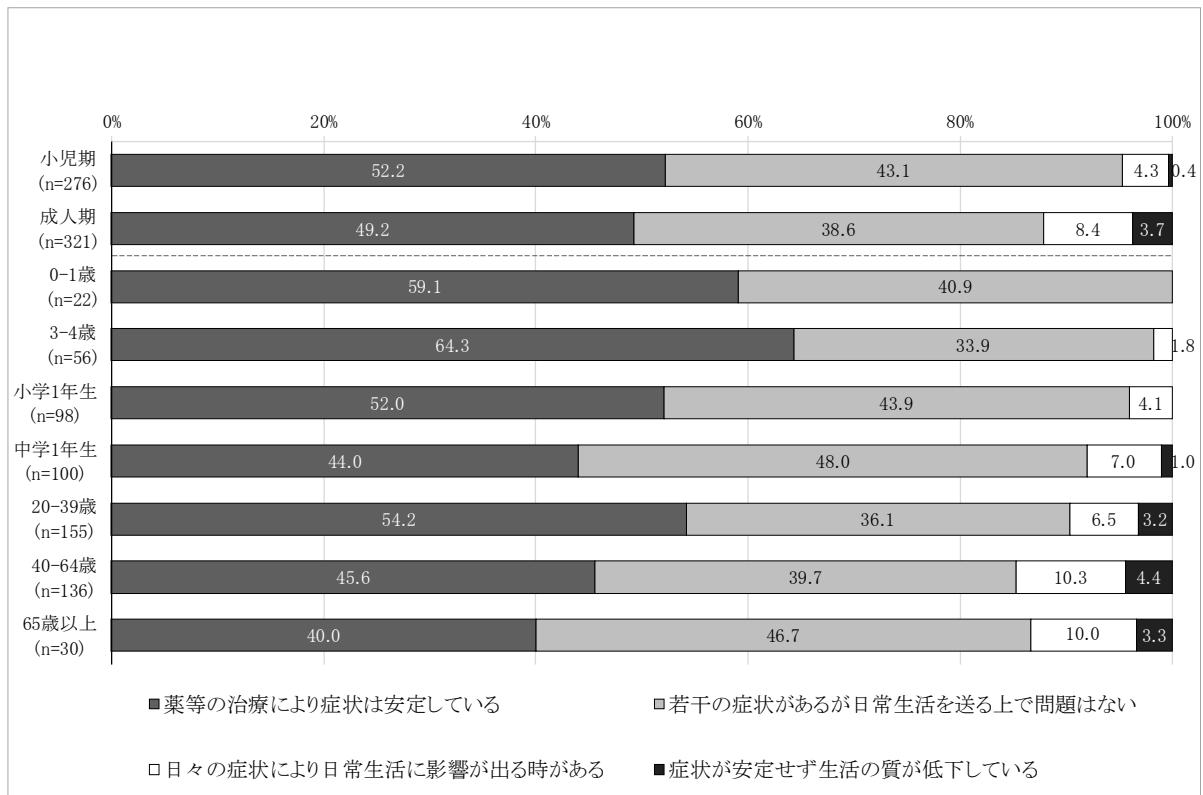
(1) 気管支ぜん息

小児期、成人期ともに「薬等の治療により症状は安定している」の割合が高く（小児期 78.1%、成人期 70.4%）、次いで「若干の症状があるが日常生活を送る上で問題はない」の割合が高かった（小児期 18.6%、成人期 21.2%）。また、年代別では、20-39 歳から 65 歳以上にかけて、「症状が安定せず生活の質が低下している」の割合が増加していた。



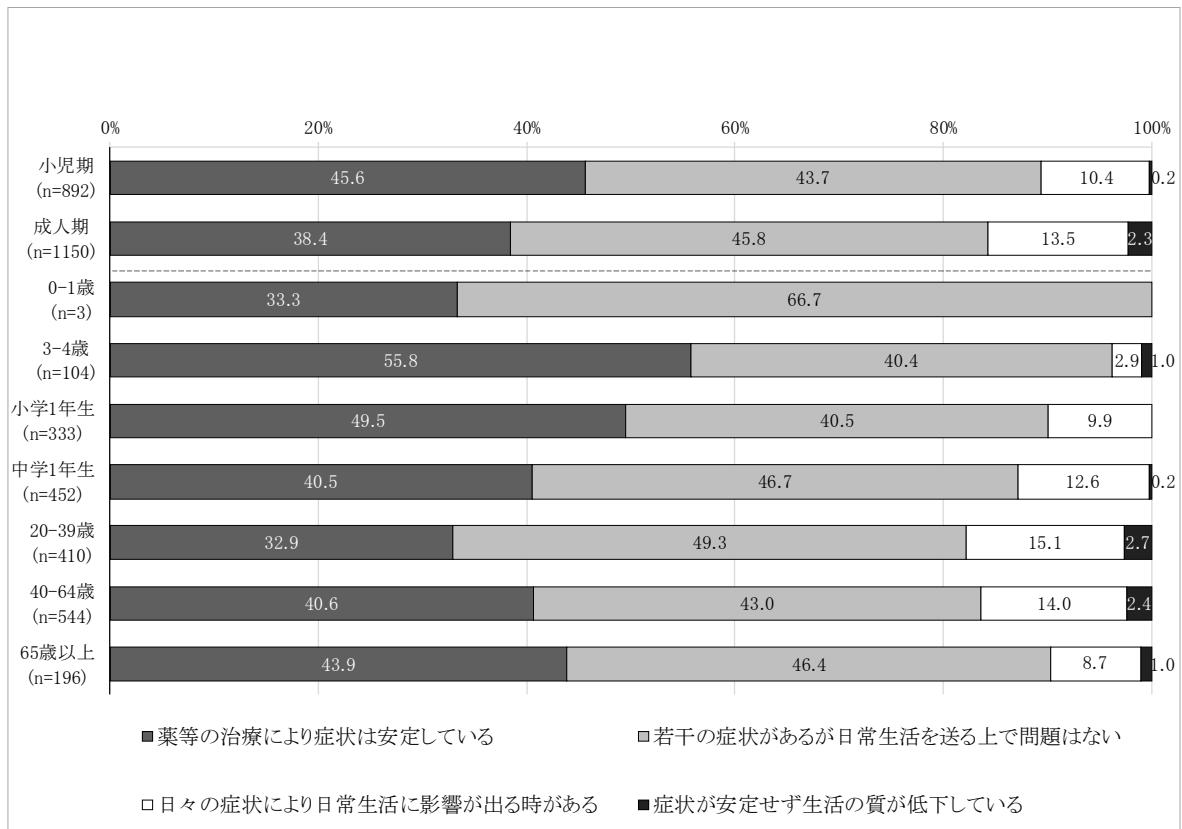
(2) アトピー性皮膚炎

小児期、成人期ともに「薬等の治療により症状は安定している」の割合が高かった（小児期 52.2%、成人期 49.2%）。成人期では小児期よりも「日々の症状により日常生活に影響が出る時がある」(8.4%)、「症状が安定せず生活の質が低下している」(3.7%) の割合が高かった。また、年代別では、20-39 歳から 65 歳以上にかけて、「薬等の治療により症状は安定している」の割合が減少していた。



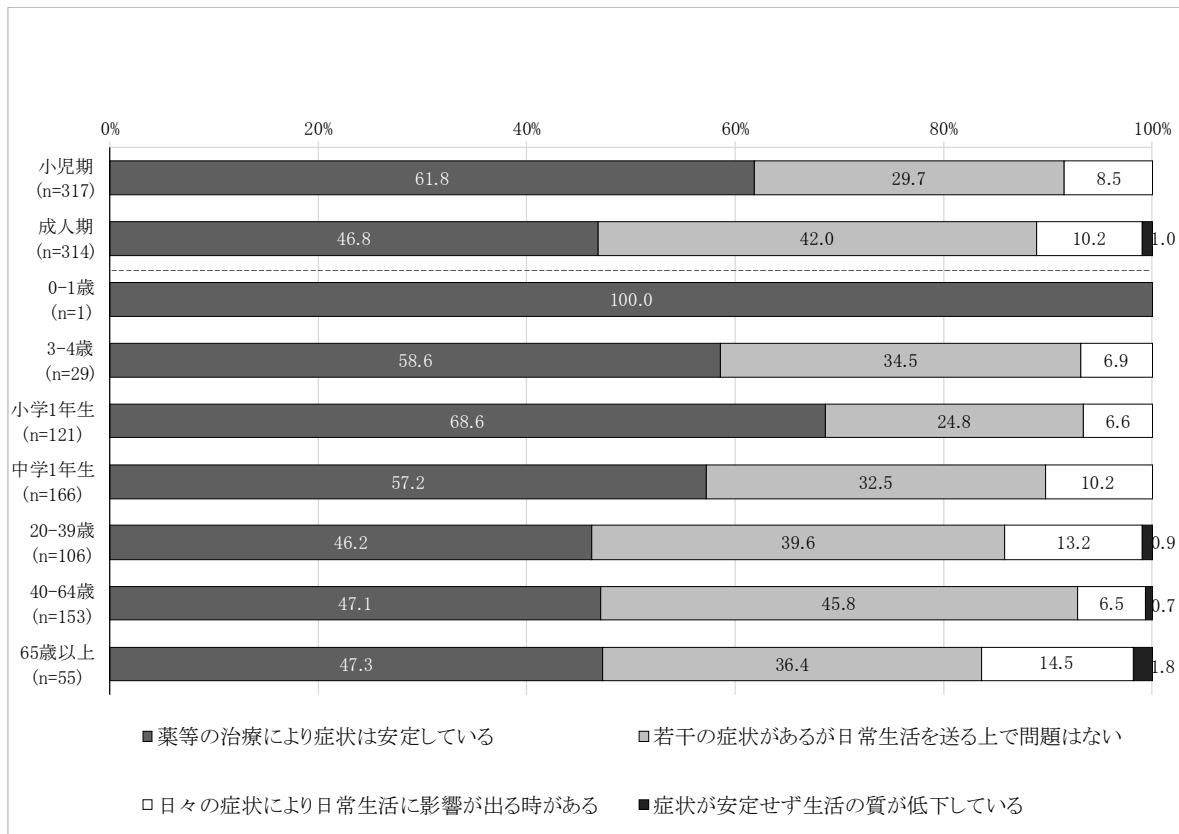
(3) アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）

小児期では「薬等の治療により症状は安定している」45.6%、成人期では「若干の症状があるが日常生活を送る上で問題はない」45.8%の割合が高かった。また、年代別では、3・4歳から20・39歳にかけて、「薬等の治療により症状は安定している」の割合が減少し、「日々の症状により日常生活に影響が出る時がある」の割合が増加していた。さらに、20・39歳から65歳以上にかけて、「薬等の治療により症状は安定している」の割合が増加し、「日々の症状により日常生活に影響が出る時がある」「症状が安定せず生活の質が低下している」の割合が減少していた。



(4) アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）

小児期、成人期ともに「薬等の治療により症状は安定している」の割合が高かった（小児期 61.8%、成人期 46.8%）。また、年代別では、小学1年生から20-39歳にかけて、「日々の症状により日常生活に影響が出る時がある」の割合が増加していた。



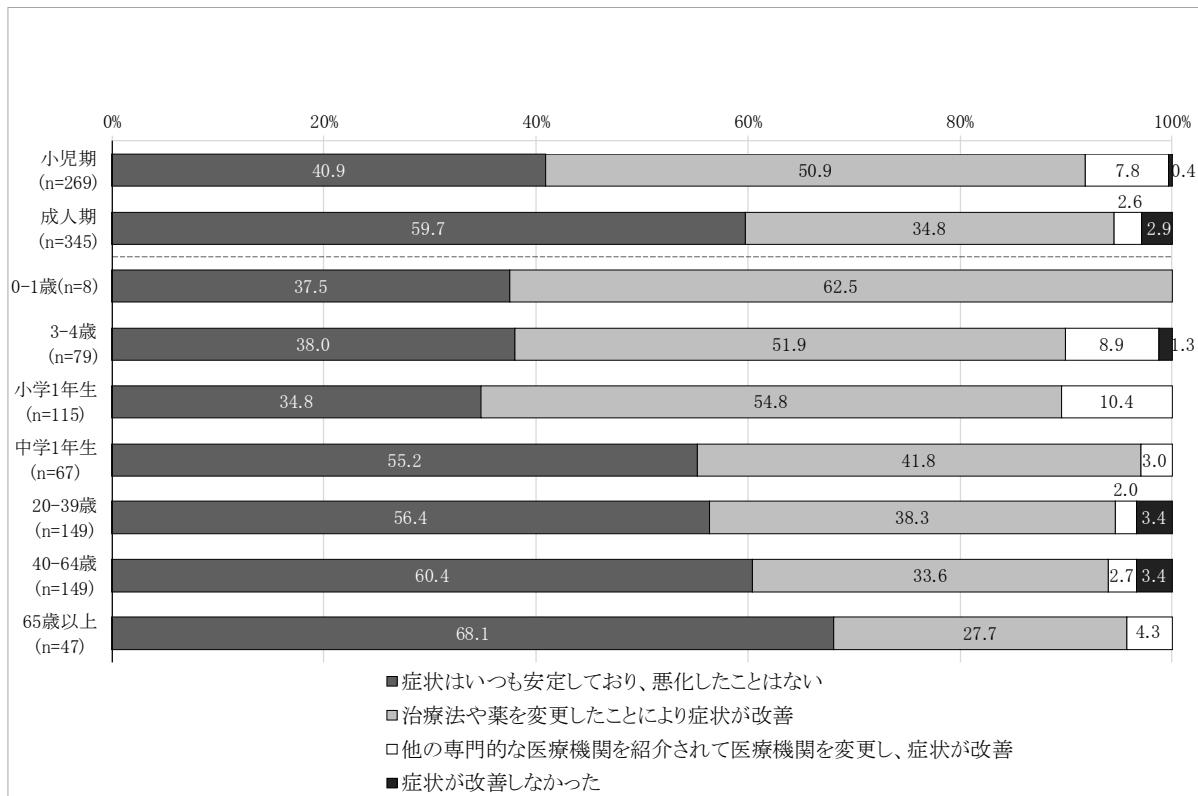
問13 不安定・悪化した場合の医療機関の対応方法

これまでに、症状が安定しない場合や悪化した場合、通院している（していた）医療機関でどのように対応され、その後症状がどのように変化したかご回答ください。

気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎のいずれの疾患においても、「症状が改善しなかった」場合は1割未満で、「治療法や薬を変更したことにより症状が改善」した割合が高かった。小児の気管支ぜん息では、「他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善」した割合が他の疾患に比べて高く、成人のアトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎で、「症状が改善しなかった」割合が他の疾患に比べて高かった。

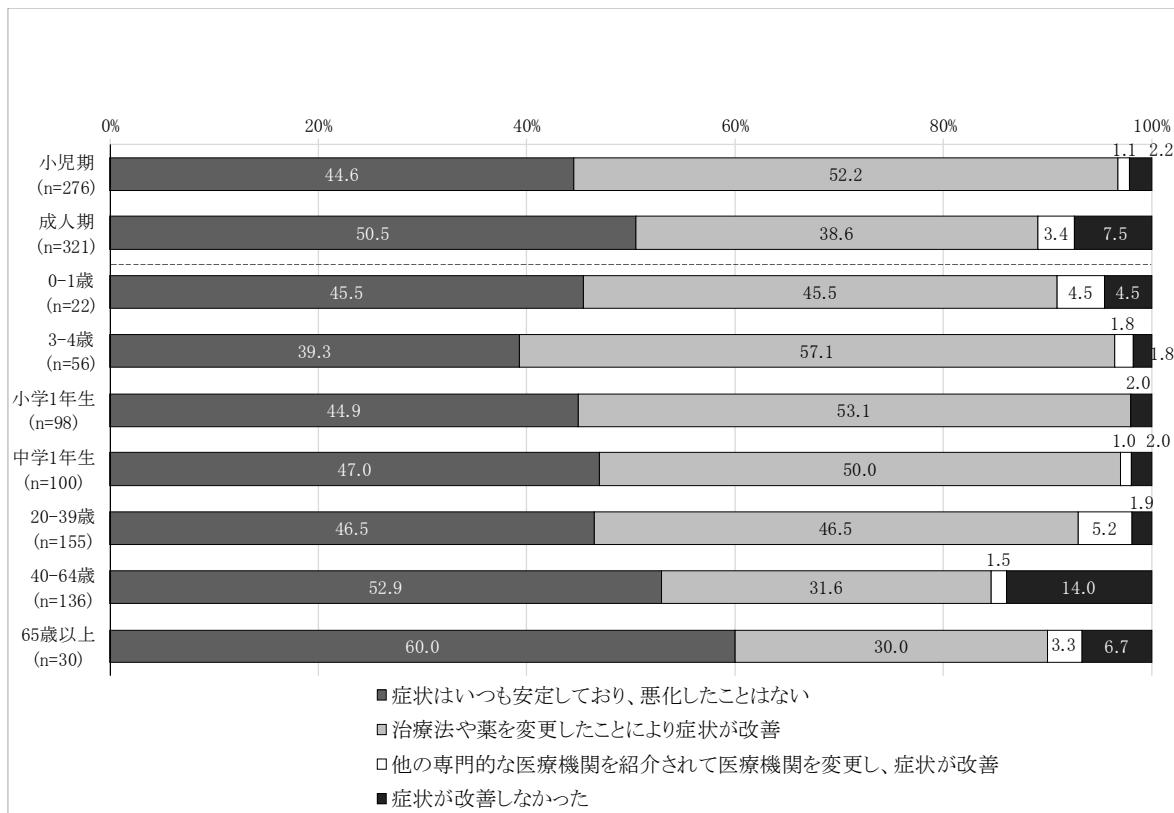
(1) 気管支ぜん息

小児期では「治療法や薬を変更したことにより症状が改善」50.9%、成人期では「症状はいつも安定しており、悪化したことはない」59.7%の割合が高かった。また、年代別では、3・4歳と小学1年生で「他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善」の割合が高かった（8.9%、10.4%）。さらに、小学1年生から65歳以上にかけて、「症状はいつも安定しており、悪化したことはない」の割合が増加していた。



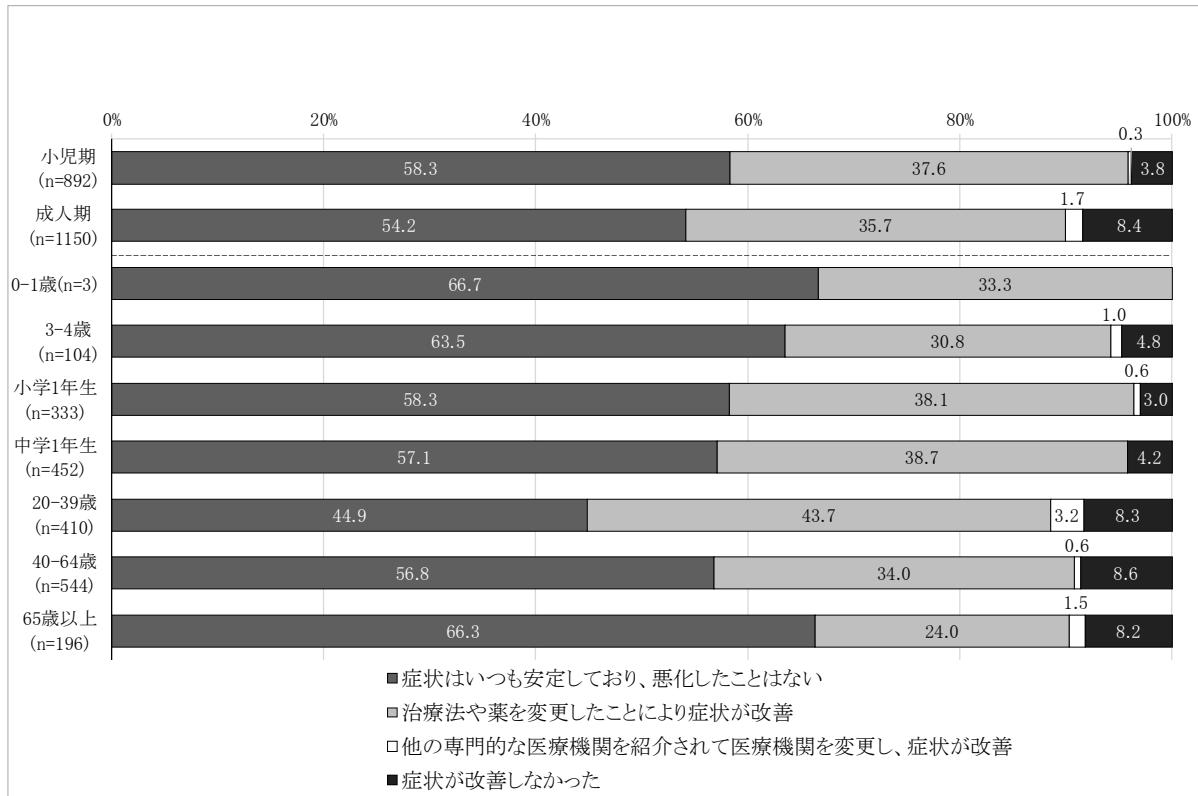
(2) アトピー性皮膚炎

小児期では「治療法や薬を変更したことにより症状が改善」52.2%、成人期では「症状はいつも安定しており、悪化したことはない」50.5%の割合が高かった。また、年代別では、40-64歳で「症状が改善しなかった」の割合が14.0%と高かった。



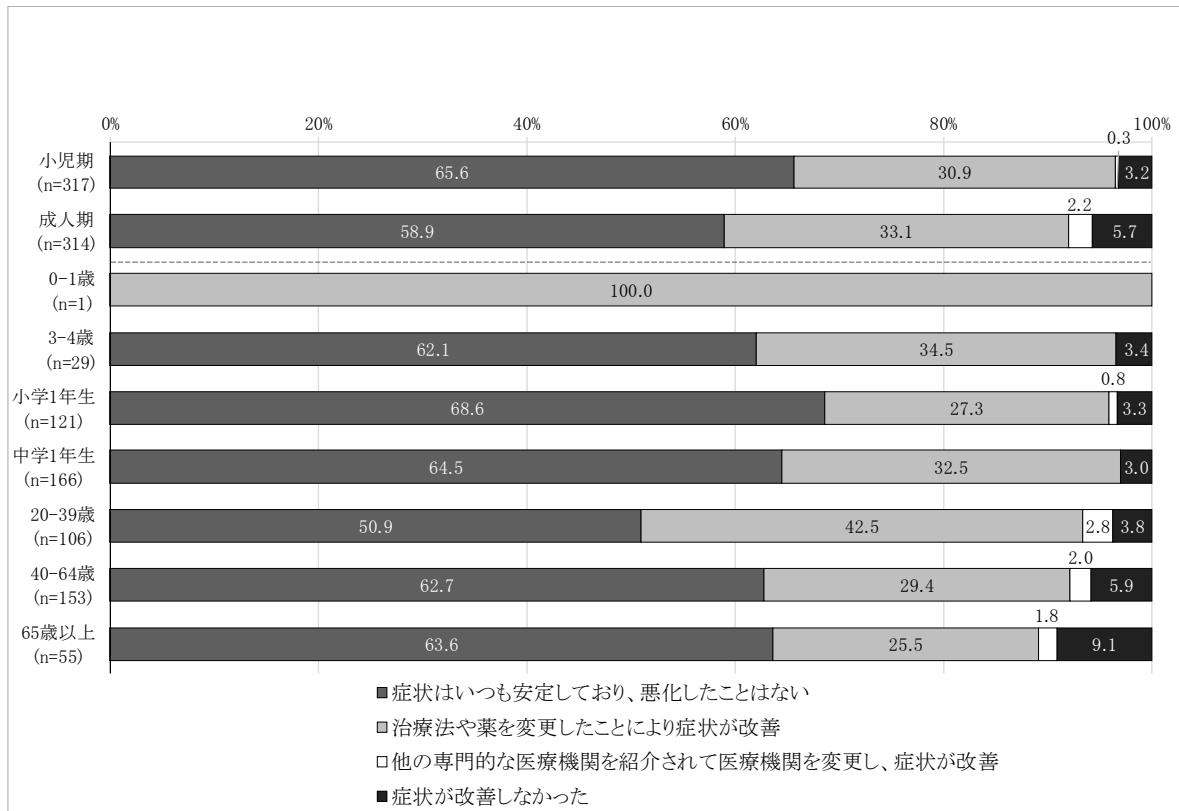
(3) アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）

小児期、成人期ともに「症状はいつも安定しており、悪化したことはない」の割合が高かった（小児期 58.3%、成人期 54.2%）。成人期では小児期よりも「症状が改善しなかった」（8.4%）の割合が高かった。また、年代別では、20-39歳まで、「症状はいつも安定しており、悪化したことはない」の割合が減少していた一方で、20-39歳から 65歳以上にかけて、増加していた。



(4) アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）

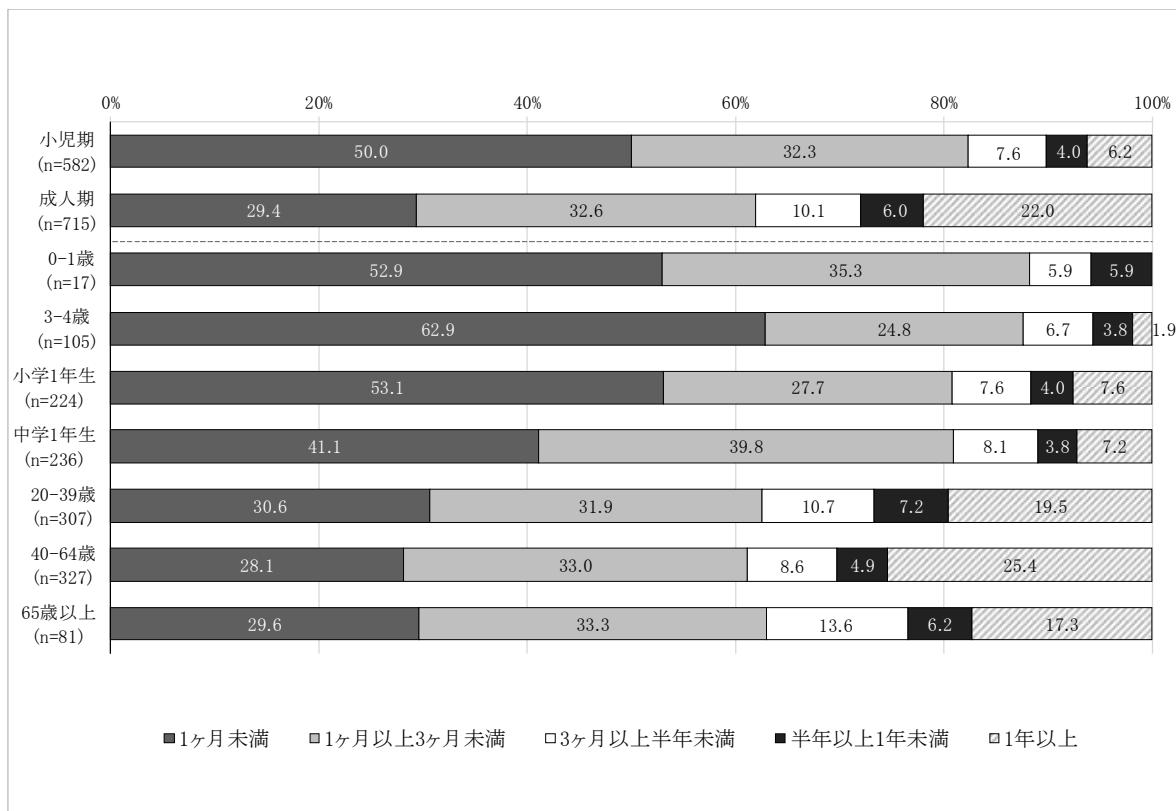
小児期、成人期ともに「症状はいつも安定しており、悪化したことはない」の割合が高かった（小児期 65.6%、成人期 58.9%）。また、年代別では、20-39 歳から 65 歳以上にかけて、「治療法や薬を変更したことにより症状が改善」「他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善」の割合が減少していた一方で、「症状が改善しなかった」の割合が増加していた。



問14 症状が安定していない期間（問5で「正式な診断を受けたことがない」以外で問13で「症状はいつも安定しており、悪化したことではない」以外）

現在またはこれまでに症状が安定しない状況が続いた期間（最長）をご回答ください。

小児期では「1ヶ月未満」50.0%に次いで「1ヶ月以上3ヶ月未満」が32.3%、成人期では「1ヶ月以上3ヶ月未満」32.6%に次いで「1ヶ月未満」が29.4%、「1年以上」が22.0%であった。

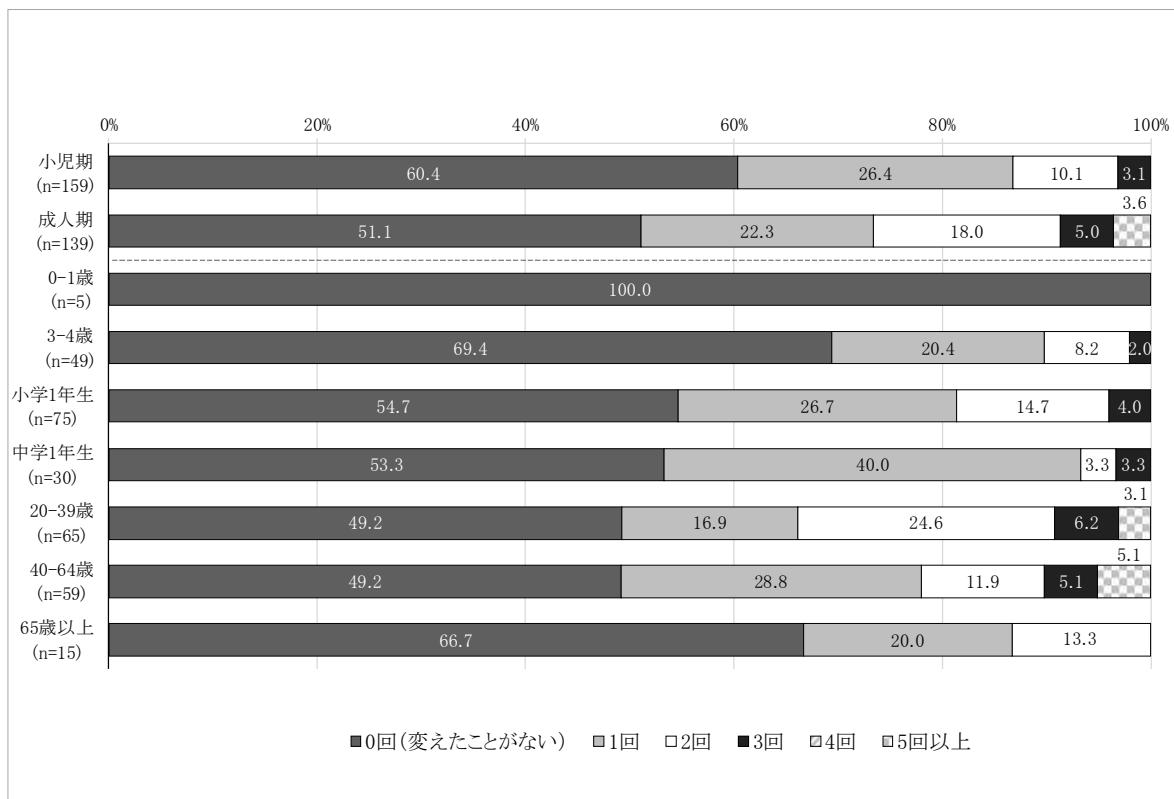


問15 紹介（転院）回数（慢性疾患）（問5で「正式な診断を受けたことがない」以外で、問13で「症状はいつも安定しており、悪化したことはない」以外）

症状が安定しないことなどにより、アレルギー疾患の治療でこれまでに医療機関を何回変えたことがありますか。

(1) 気管支ぜん息

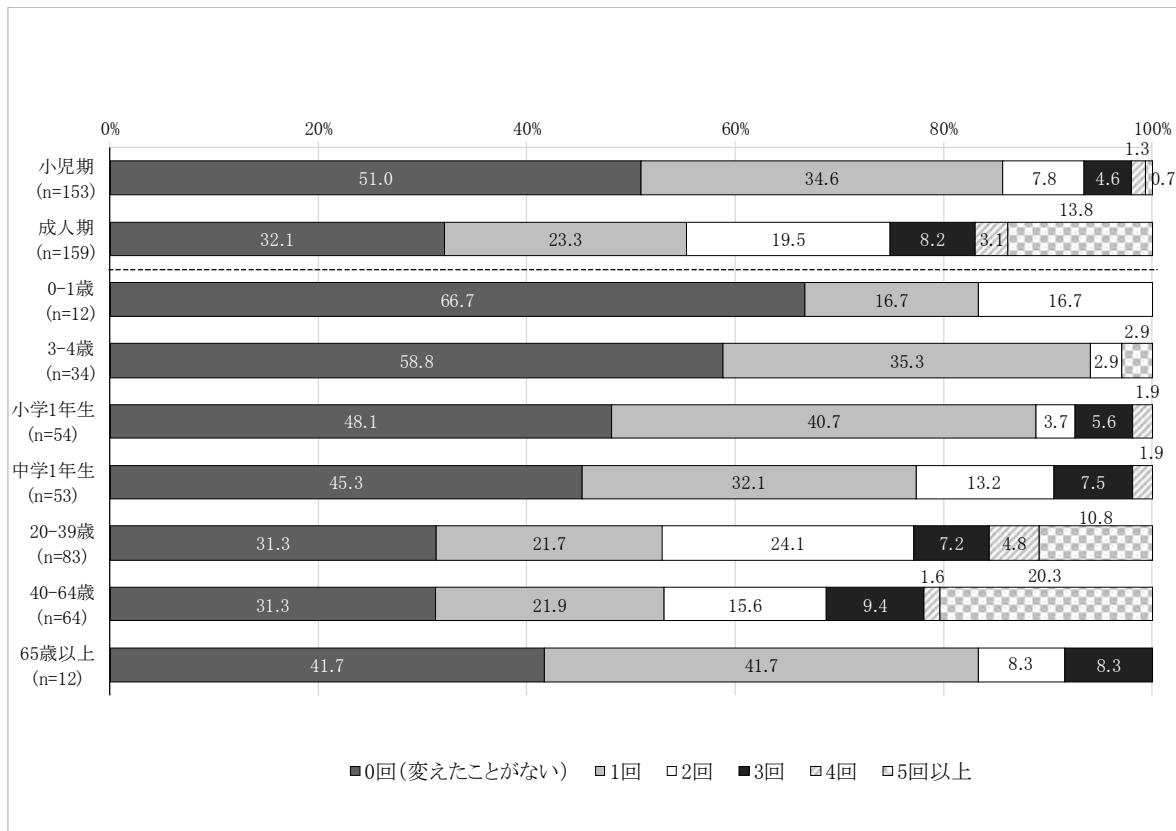
小児期、成人期ともに「0回（変えたことがない）」の割合が高かった（小児期 60.4%、51.1%）。また、年代別では、0歳から中学1年生にかけて「0回（変えたことがない）」の割合が減少していた。20-39歳と40-64歳では他の年代より「3回」「5回以上」の割合が高かった。



■0回(変えたことがない) □1回 □2回 ■3回 □4回 □5回以上

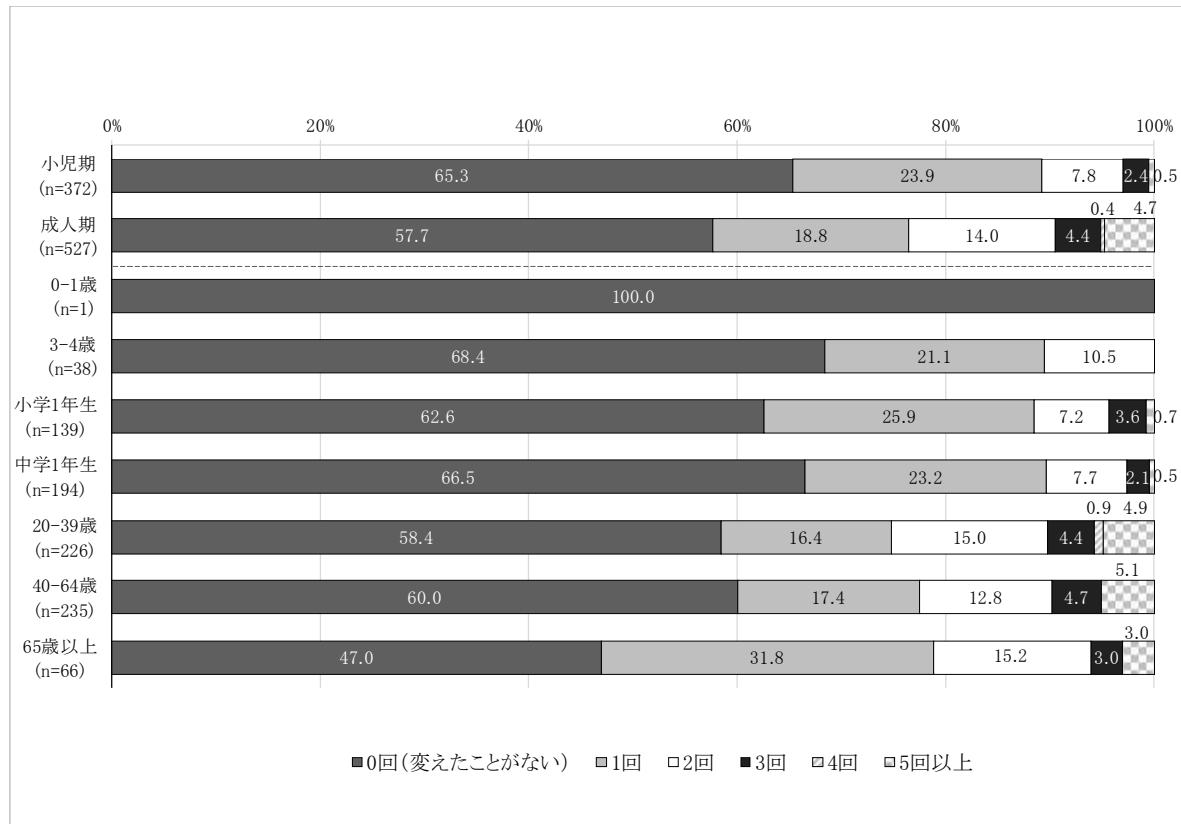
(2) アトピー性皮膚炎

小児期、成人期ともに「0回（変えたことがない）」の割合が高かった（小児期 51.0%、32.1%）。また、年代別では、0歳から40-64歳にかけて「0回（変えたことがない）」の割合が減少していた。さらに、40-64歳は「5回以上」の割合が20.3%と高かった。



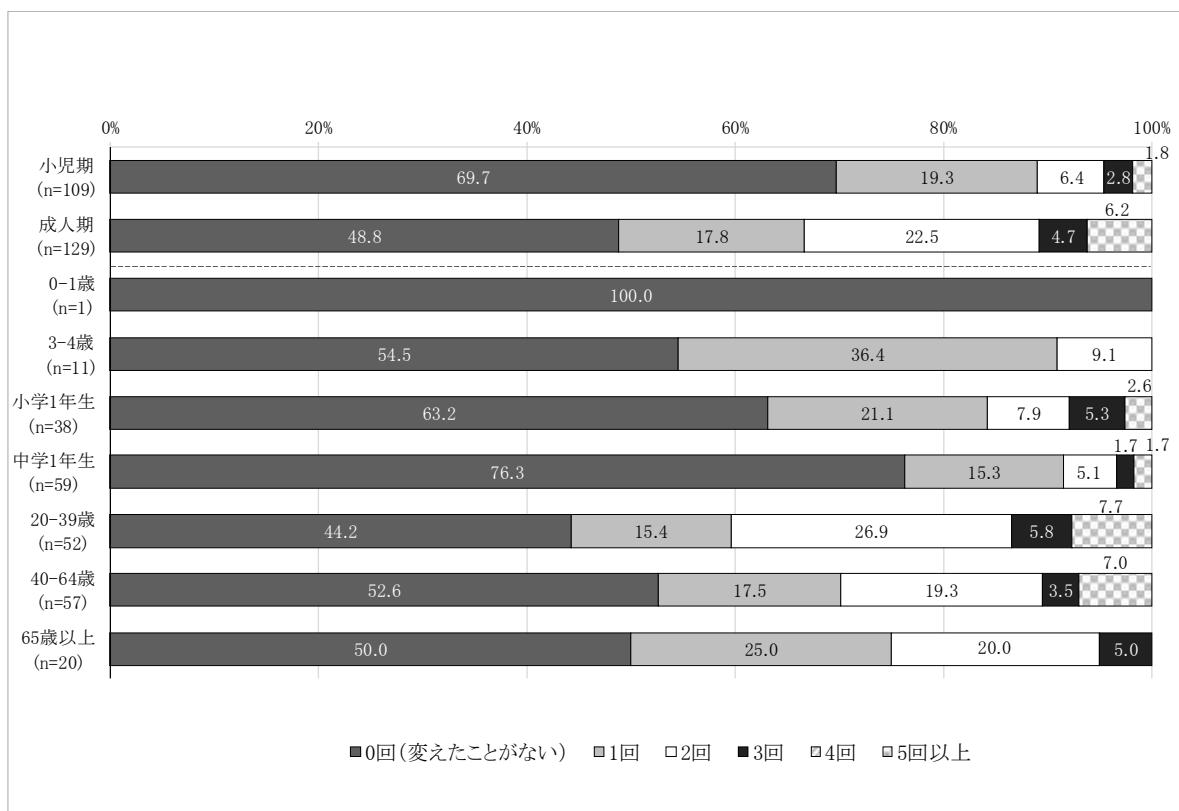
(3) アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）

小児期、成人期ともに「0回（変えたことがない）」の割合が高かった（小児期 65.3%、57.7%）。また、年代別では、20-39歳と40-64歳で「5回以上」の割合が他の年代よりも高かった。さらに、65歳以上では「0回（変えたことがない）」の割合が他の年代よりも低かった。



(4) アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）

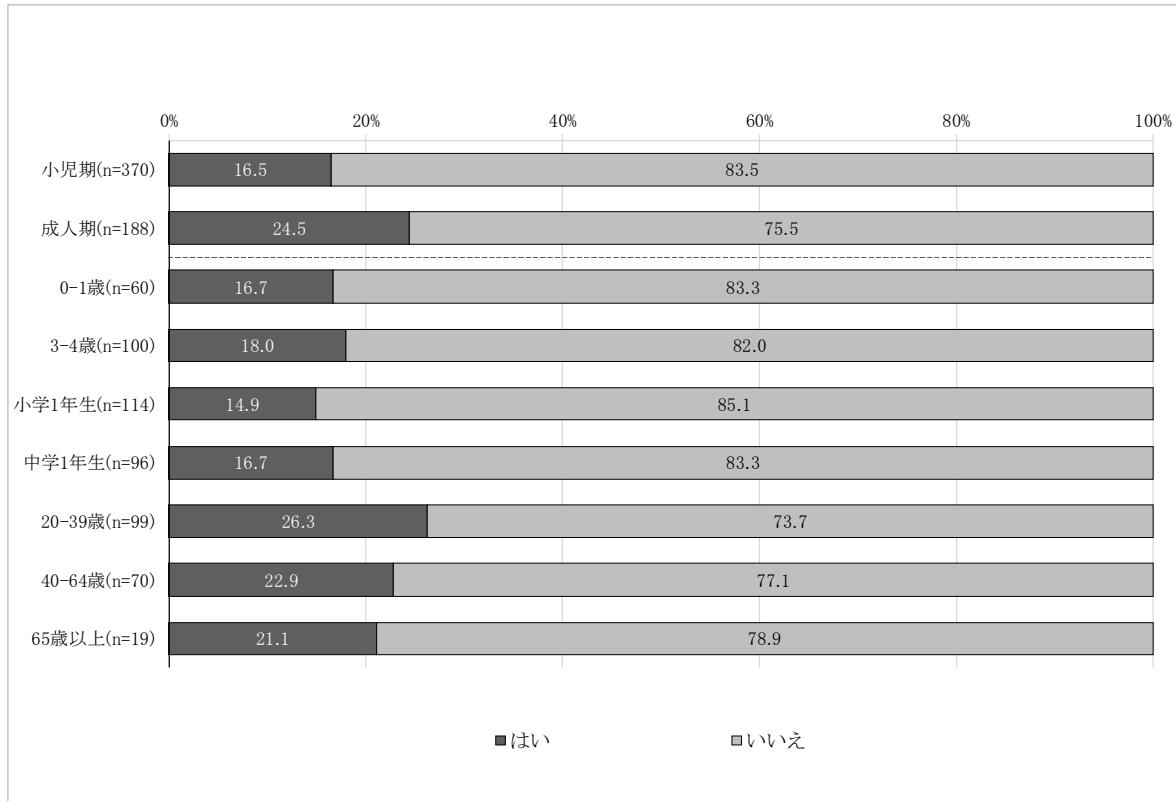
小児期、成人期ともに「0回（変えたことがない）」の割合が高かった（小児期 69.7%、成人期 48.8%）。また、年代別では、20-39 歳と 40-64 歳で「5 回以上」の割合が高かった。



問16 食物アレルギーの治療における問題点の有無

これまで食物アレルギーの治療を進める中で思うように状況が改善しないなど、問題はありましたか。

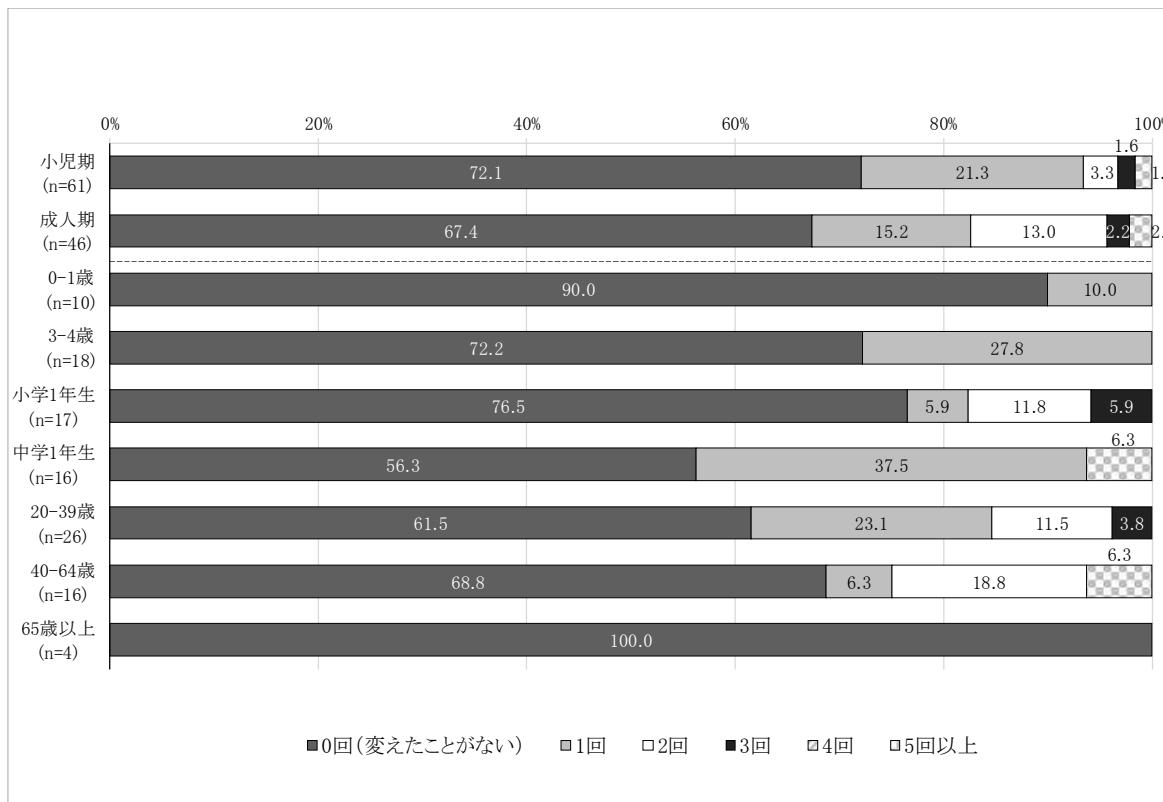
小児期、成人期ともに「いいえ」の割合が高かった（小児期 83.5%、成人期 75.5%）。また、年代別では、20-39 歳で「はい」の割合が 26.3%と他の年代よりも高かった。



問17 食物アレルギーの治療における問題点の有無（問16で「はい」の場合）

紹介（転院）回数（食物アレルギー）

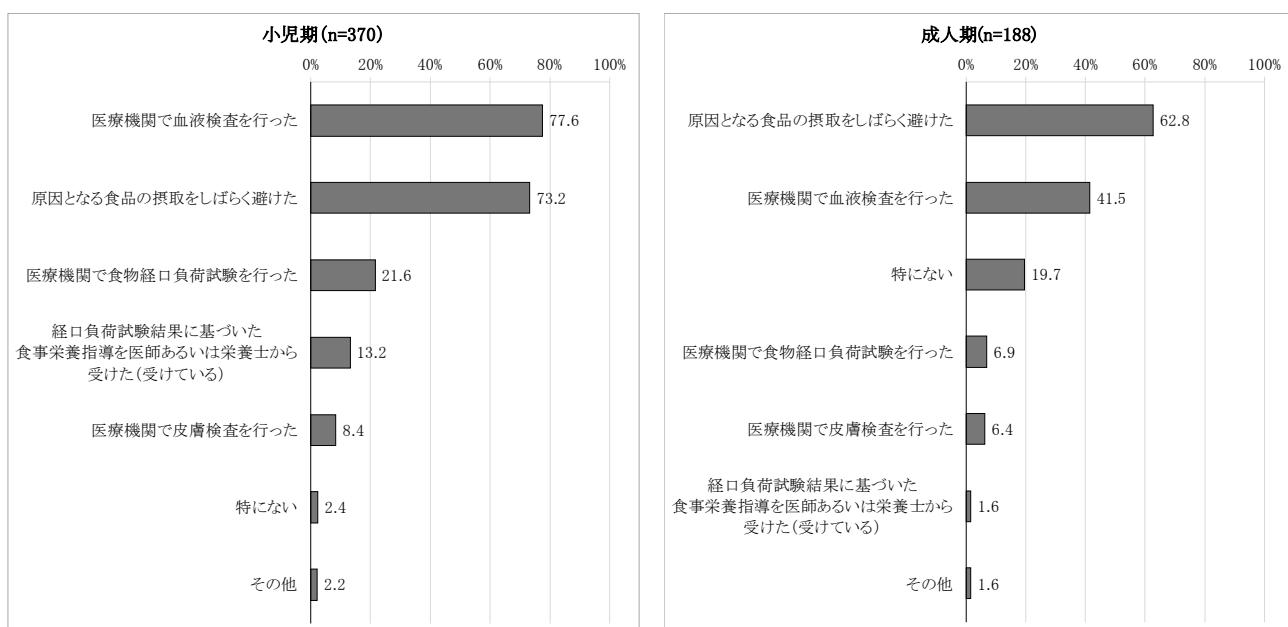
小児期、成人期ともに「0回（変えたことがない）」の割合が高かった（小児期72.1%、成人期67.4%）。

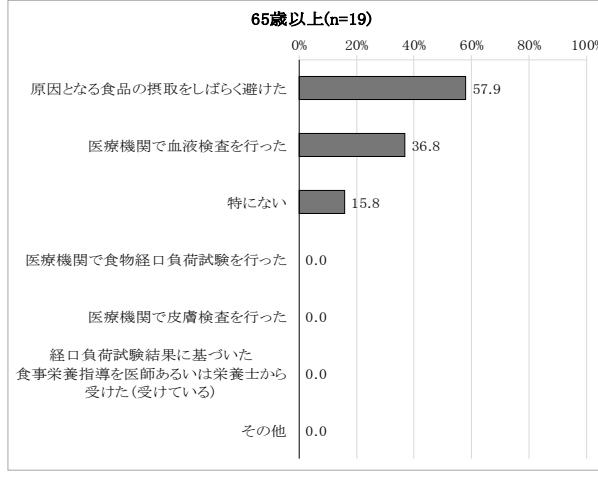
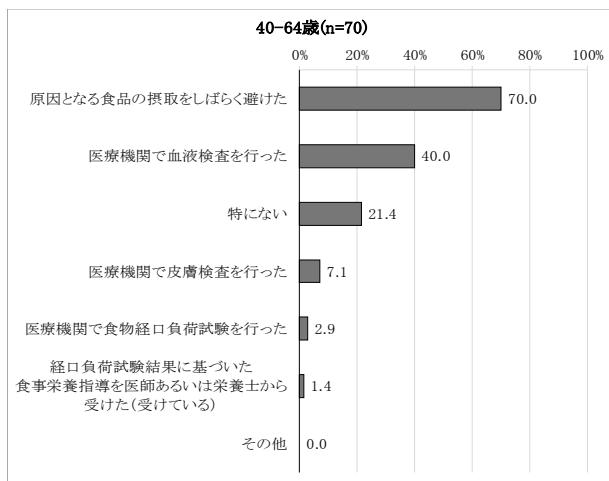
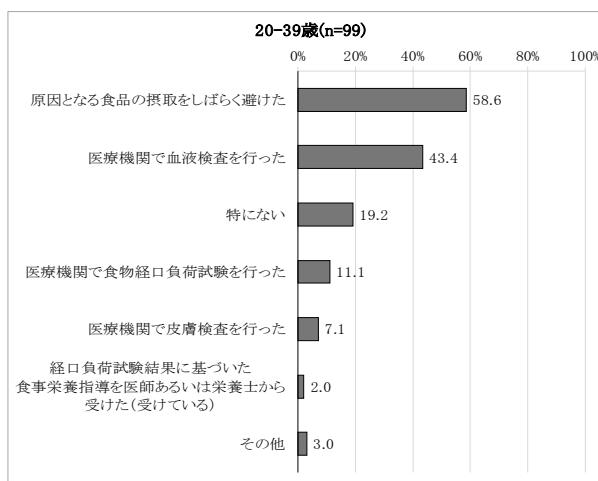
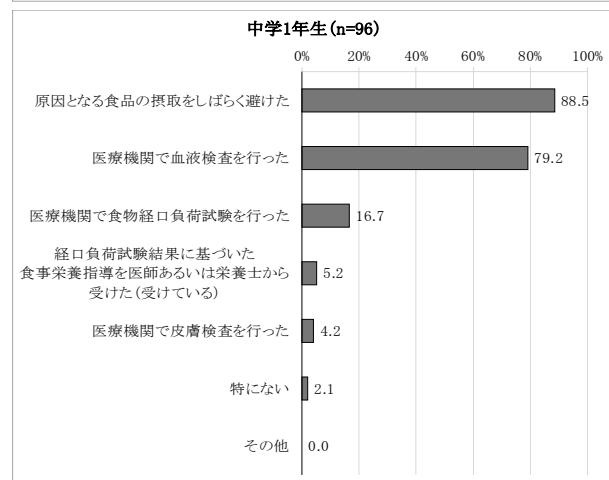
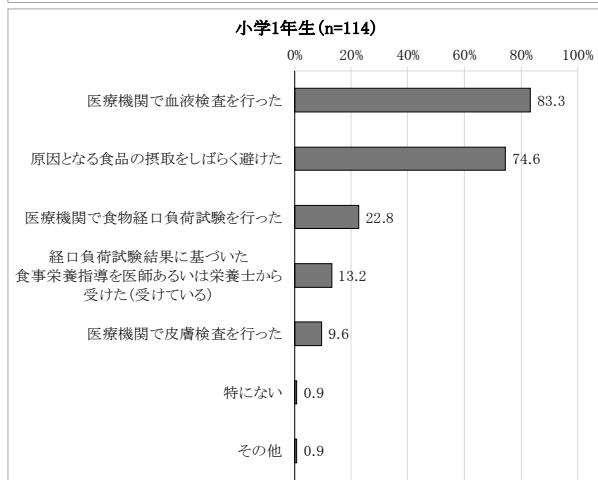
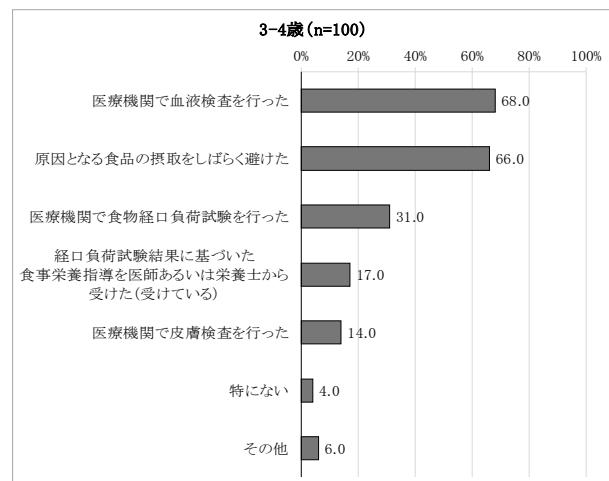
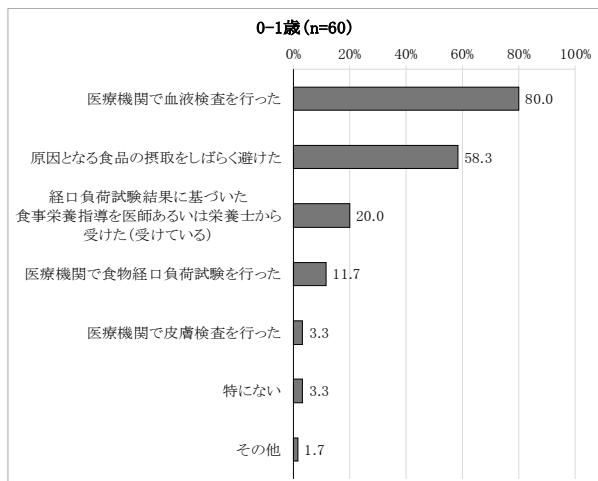


問18 食物アレルギーの検査

食物アレルギーへの対応や検査等について、当てはまる回答を選択ください。

小児期では「医療機関で血液検査を行った」77.6%、成人期では「原因となる食品の摂取をしばらく避けた」62.8%の割合が高かった。

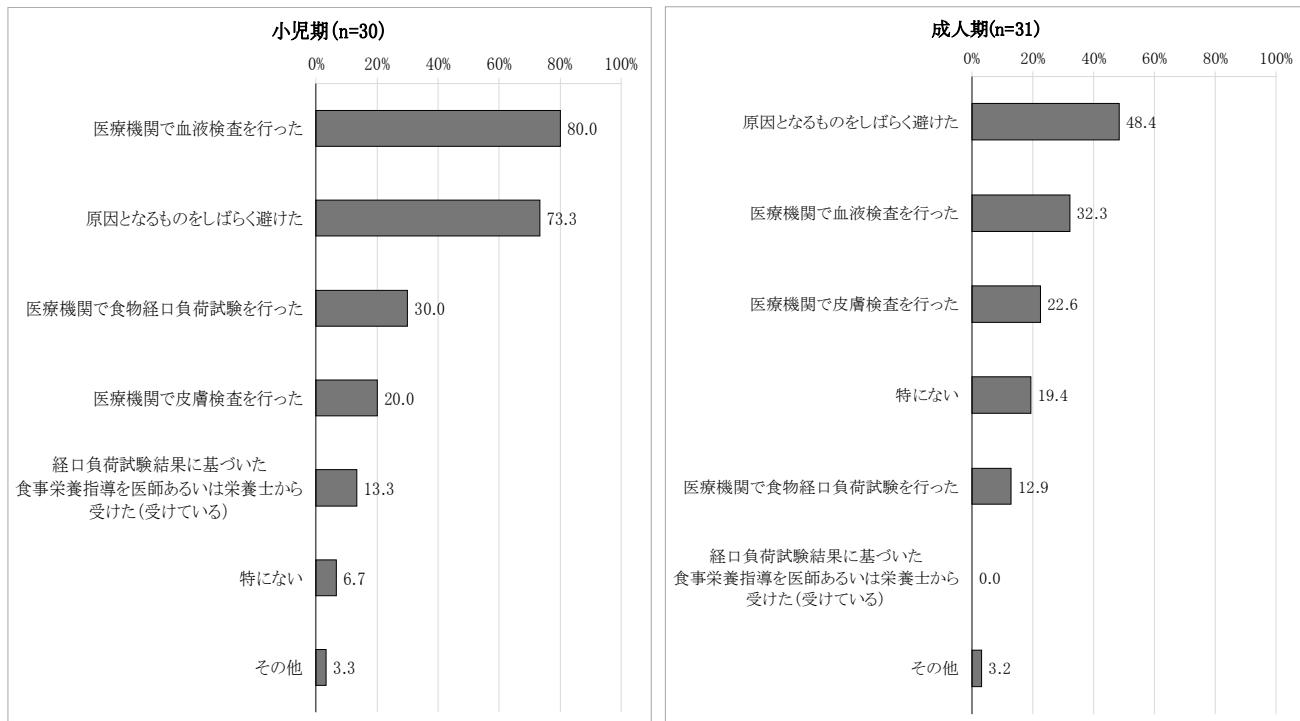


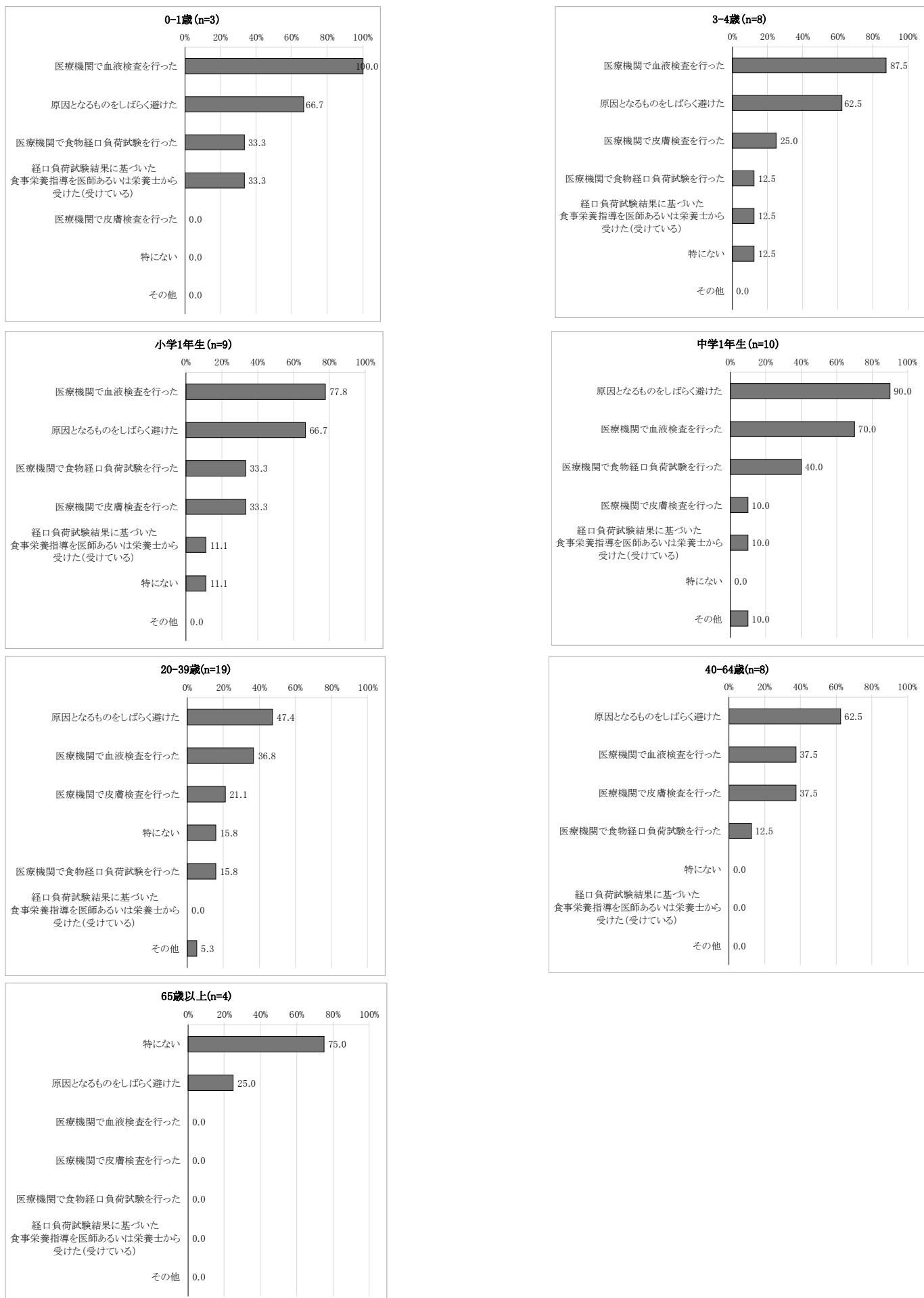


問19 アナフィラキシーの検査

アナフィラキシーへの対応や検査等について、当てはまる回答を選択ください。

小児期では「医療機関で血液検査を行った」80.0%、成人期では「原因となる食品の摂取をしばらく避けた」48.4%の割合が高かった。

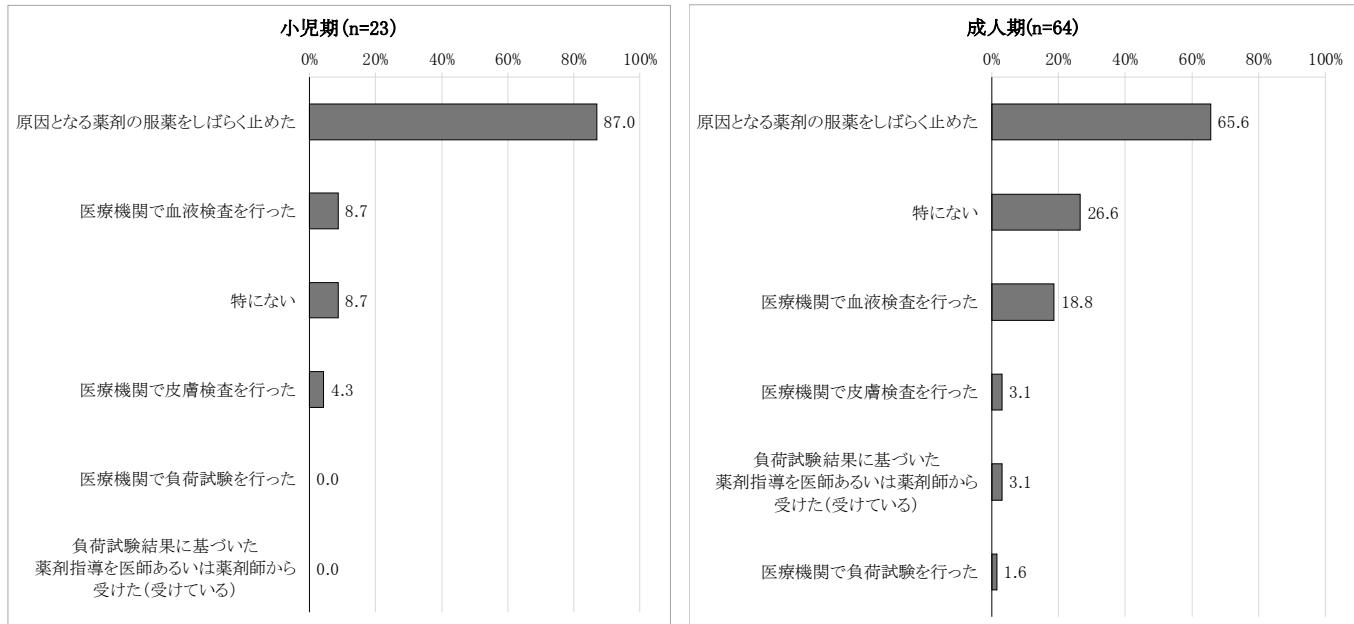


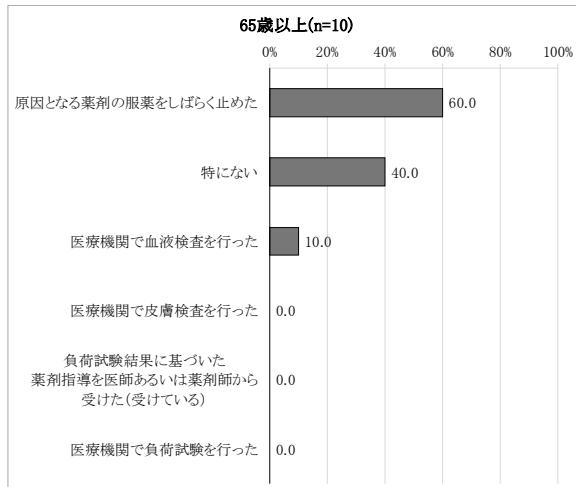
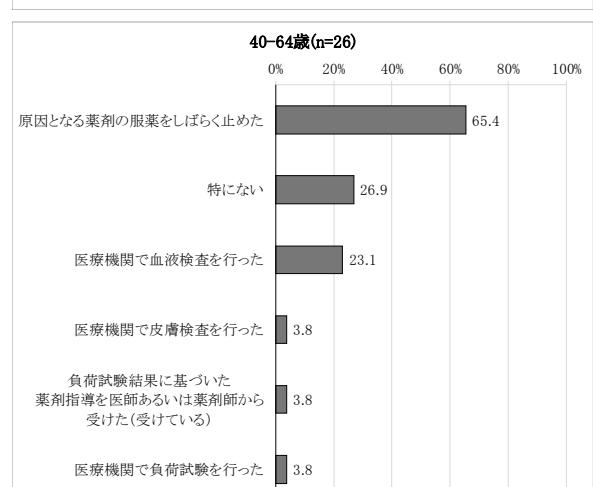
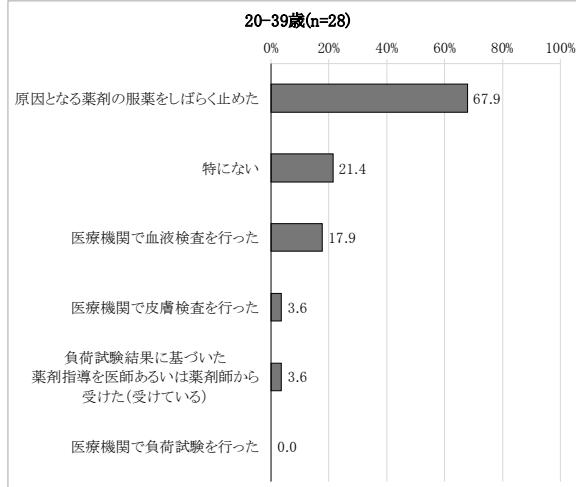
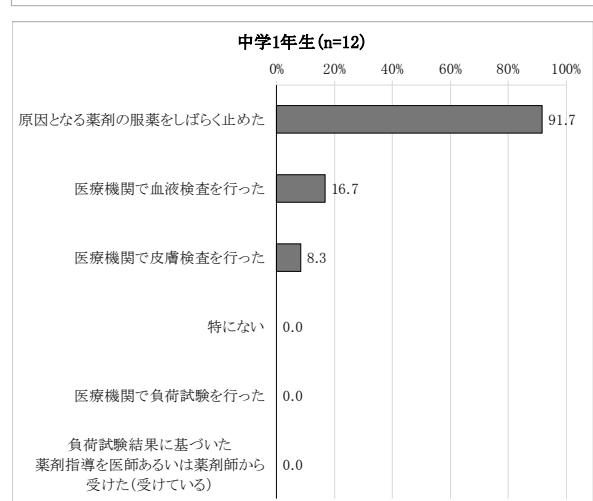
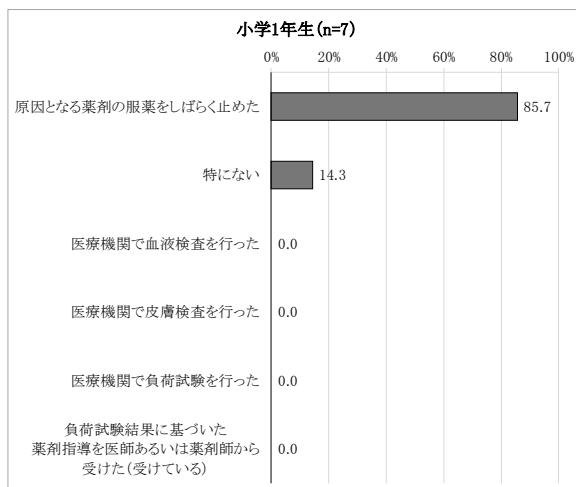
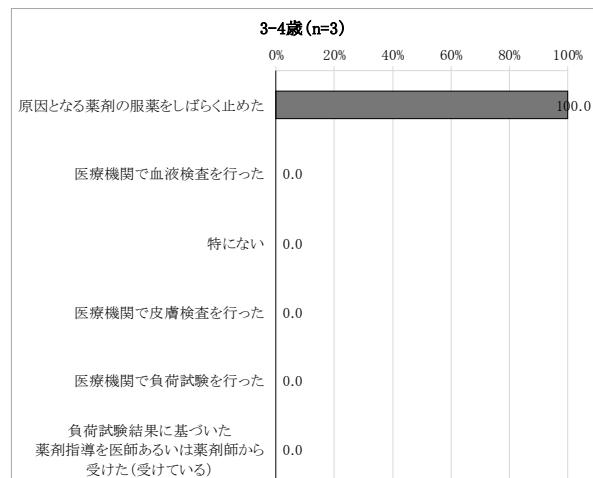
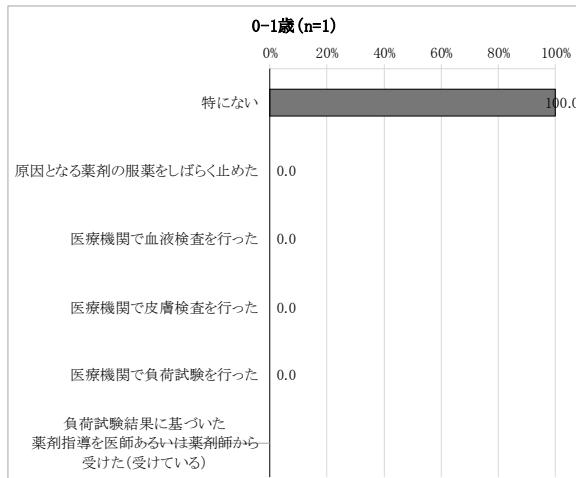


問20 薬物アレルギーの検査

薬物アレルギーへの対応や検査等について、当てはまる回答を選択ください。

小児期、成人期ともに「原因となる薬剤の服薬をしばらく避けた」の割合が高かった（小児期 87.0%、成人期 65.6%）。



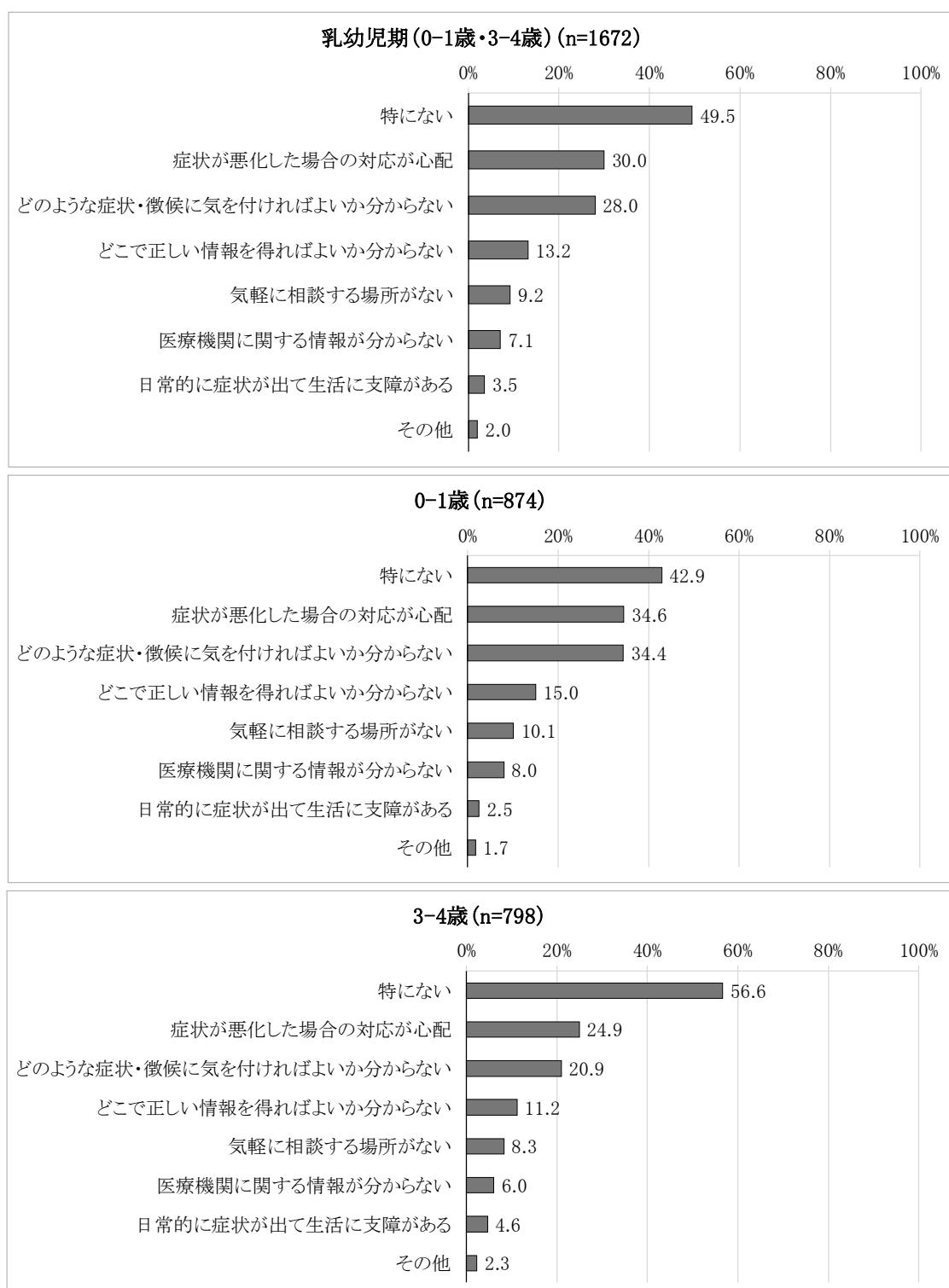


2.2.4 アレルギー疾患関連情報等

問21 乳幼児期のアレルギー疾患で困っている・心配なこと（0-1歳・3-4歳に対する問）

お子さまのアレルギー疾患や気になる症状、日常生活の過ごし方等について心配なことや困っていることを選択ください。

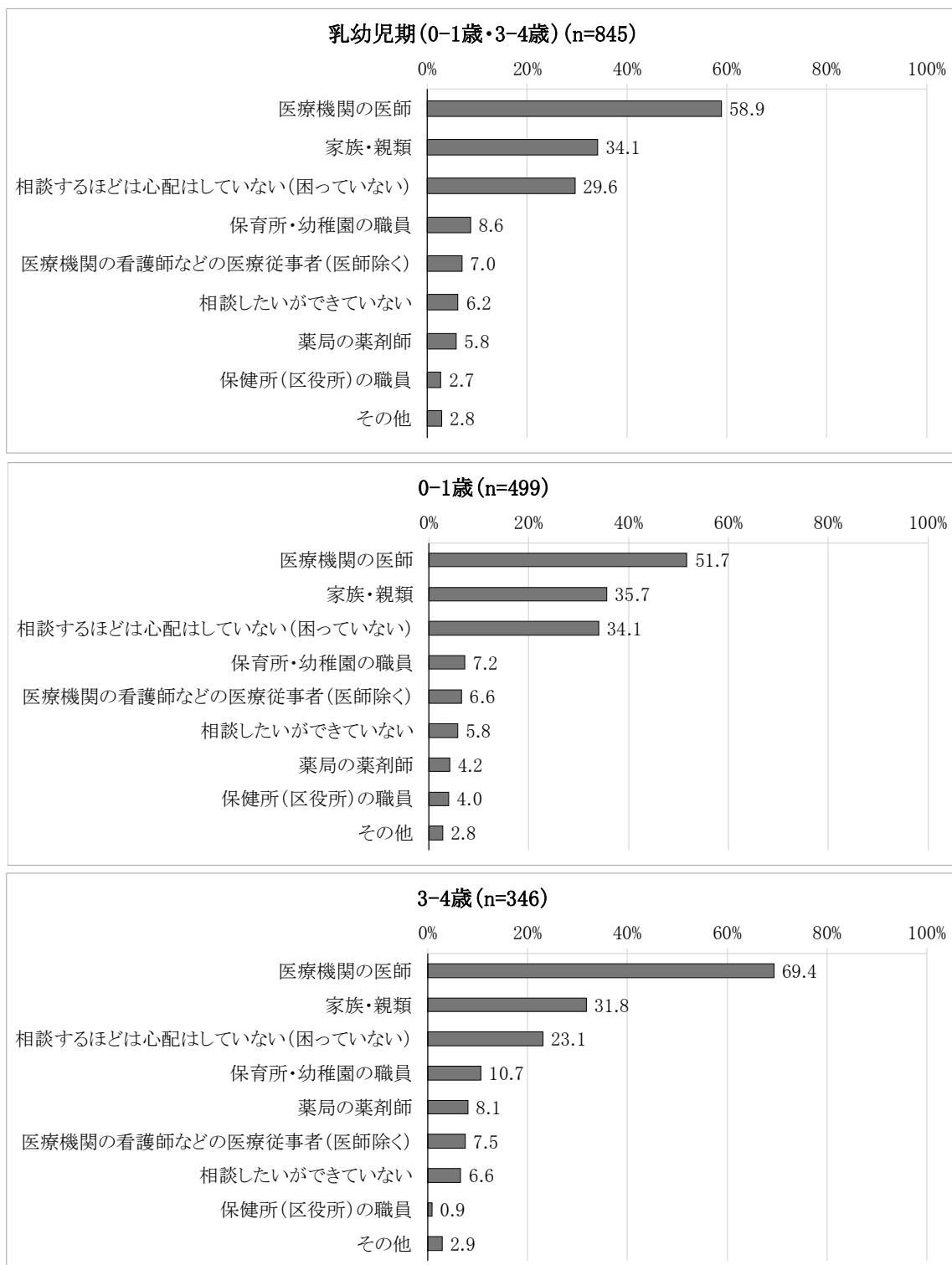
「特にない」49.5%の割合が高く、次いで「症状が悪化した場合の対応が心配」30.0%、「どのような症状・兆候に気をつければよいか分からない」28.0%であった。また、年代別では、0-1歳より3-4歳の方が「特にない」の割合は高かった。



問21① 乳幼児期のアレルギー疾患に関する相談相手（0-1歳・3-4歳に対する問）（問21で「特がない」以外）

上記の相談している（したい）内容について、医療機関以外の窓口で、どのような方法で相談したいか回答ください。

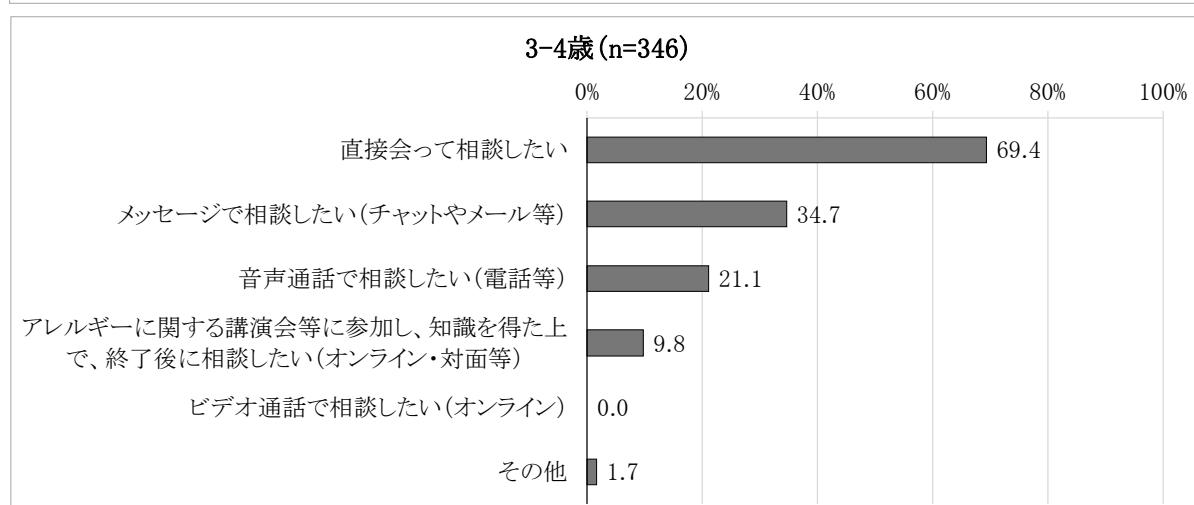
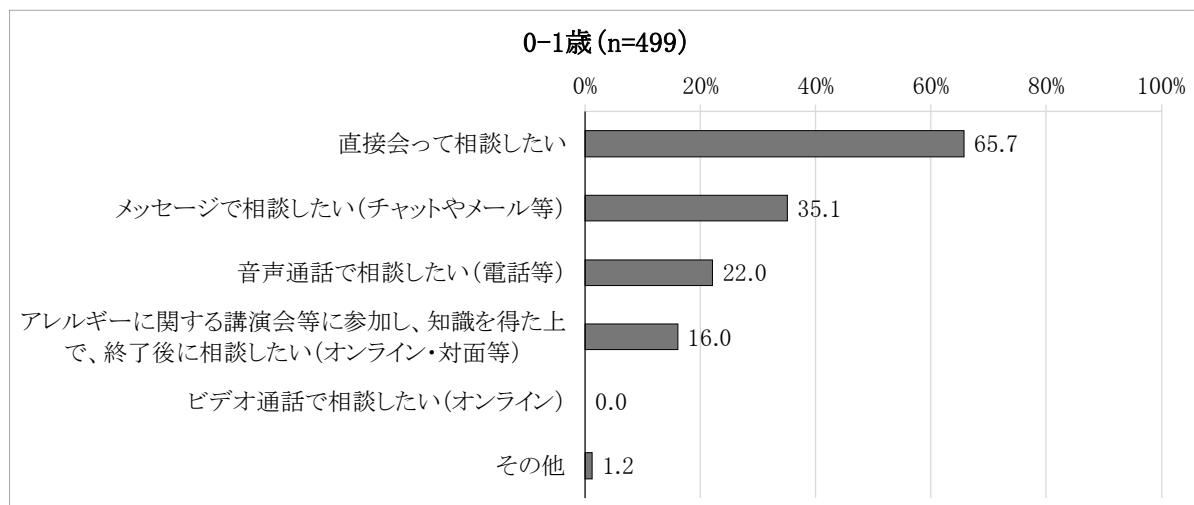
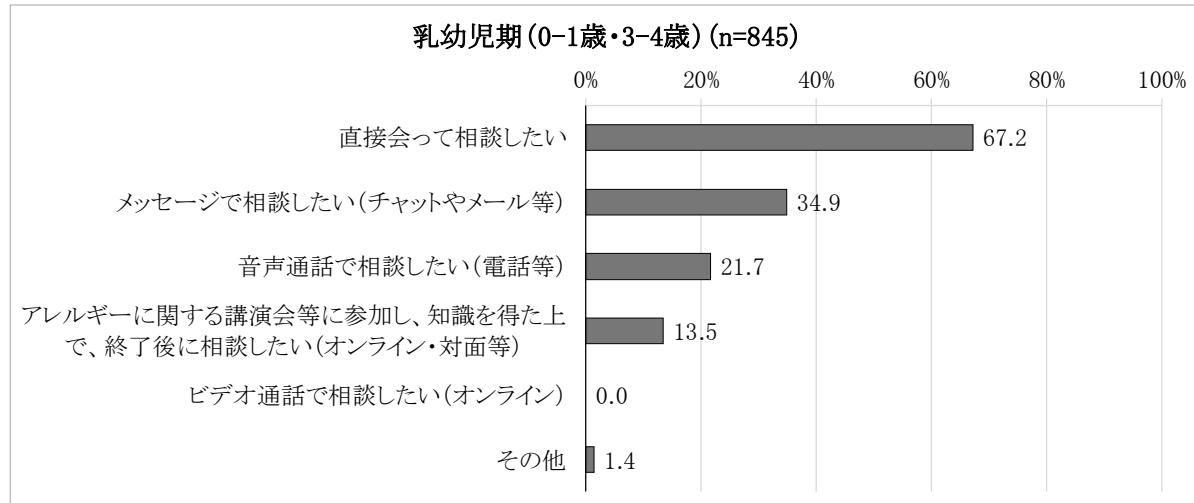
「医療機関の医師」58.9%の割合が高く、次いで「家族・親類」34.1%の割合が高かった。



問21② 乳幼児期のアレルギー疾患に関する相談方法（0-1歳・3-4歳に対する問）（問21で「特がない」以外）

上記の相談している（したい）内容について、医療機関以外の窓口で、どのような方法で相談したいか回答ください。

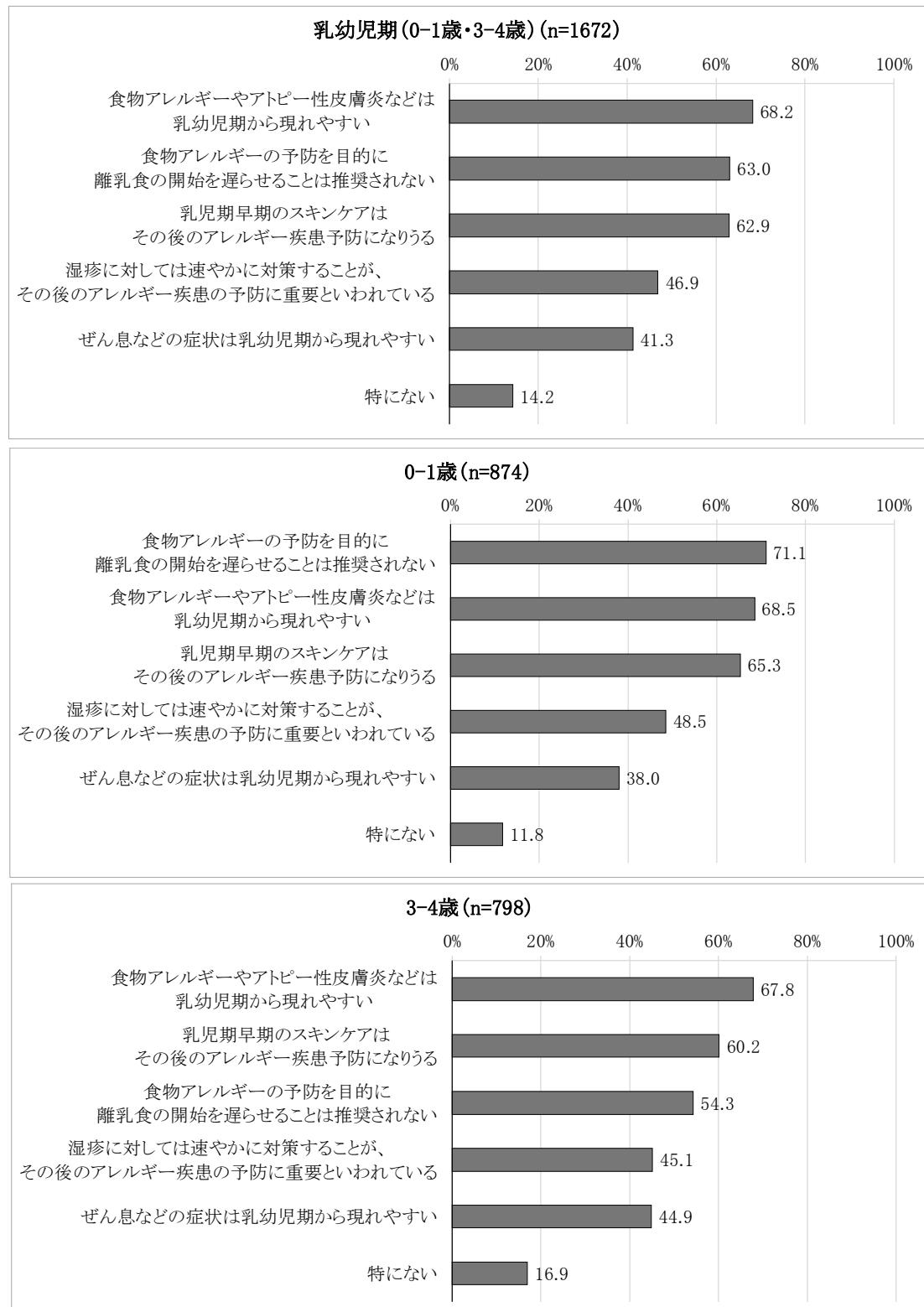
「直接会って相談したい」 67.2%の割合が高く、次いで「メッセージで相談したい（チャットやメール等）」 34.9%の割合が高かった。



問22 乳幼児期のアレルギー疾患対策の理解度（0-1歳・3-4歳に対する問）

乳幼児期のアレルギー疾患対策について、国内の研究結果等により以下のようなことが報告されていますが、ご存じのことを選択ください。

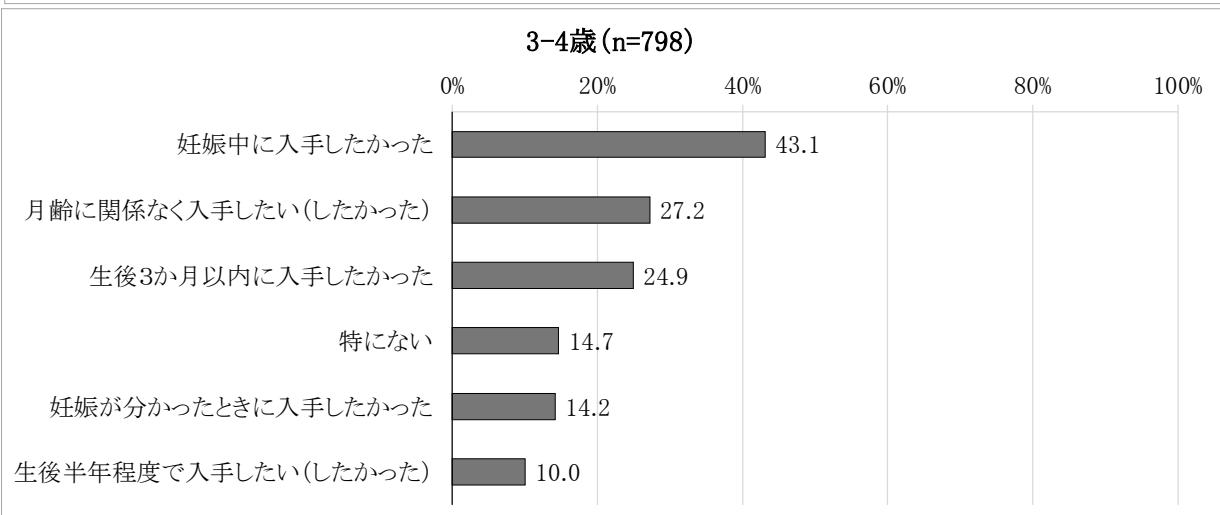
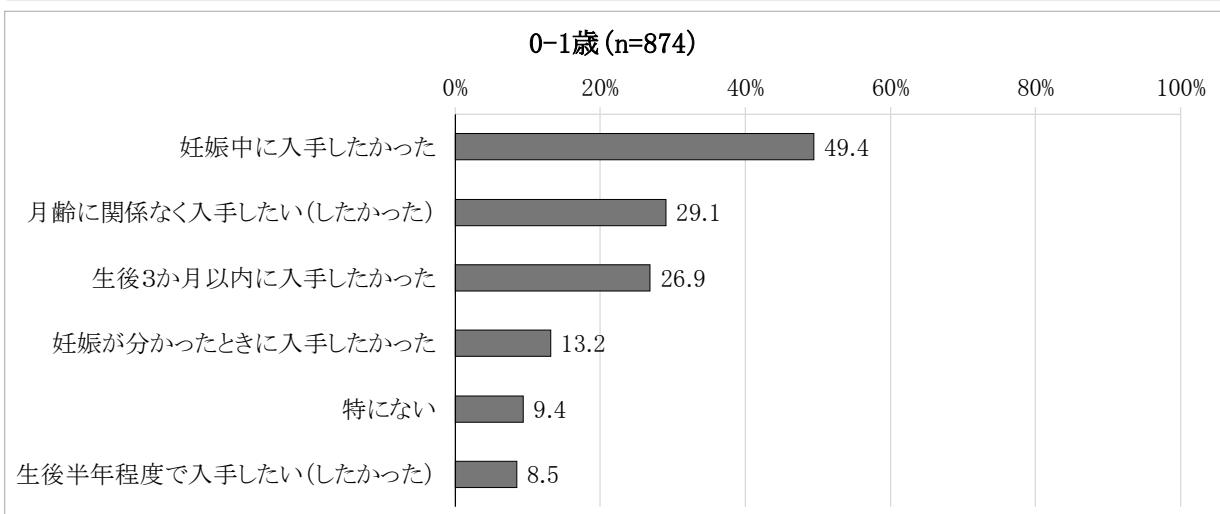
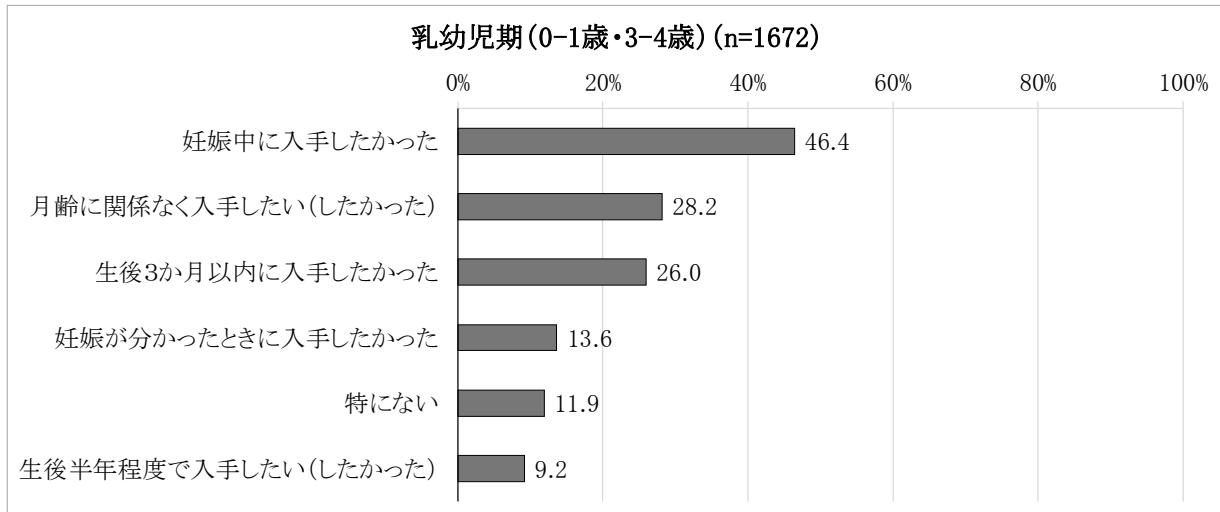
小児期では「食物アレルギーやアトピー性皮膚炎などは乳幼児期から現れやすい」68.2%の割合が高く、次いで「食物アレルギーの予防を目的に離乳食の開始を遅らせることは推奨されない」63.0%、「乳児期早期のスキンケアはその後のアレルギー疾患予防になりうる」62.9%であった。また、年代別では、0-1歳よりも3-4歳で「ぜん息などの症状は乳幼児期から現れやすい」の割合がやや高かった。



問23 乳幼児期のアレルギーに関する情報の入手時期（0-1歳・3-4歳に対する問）

乳幼児期のアレルギー疾患に関する情報の入手に望ましい時期を選択ください。

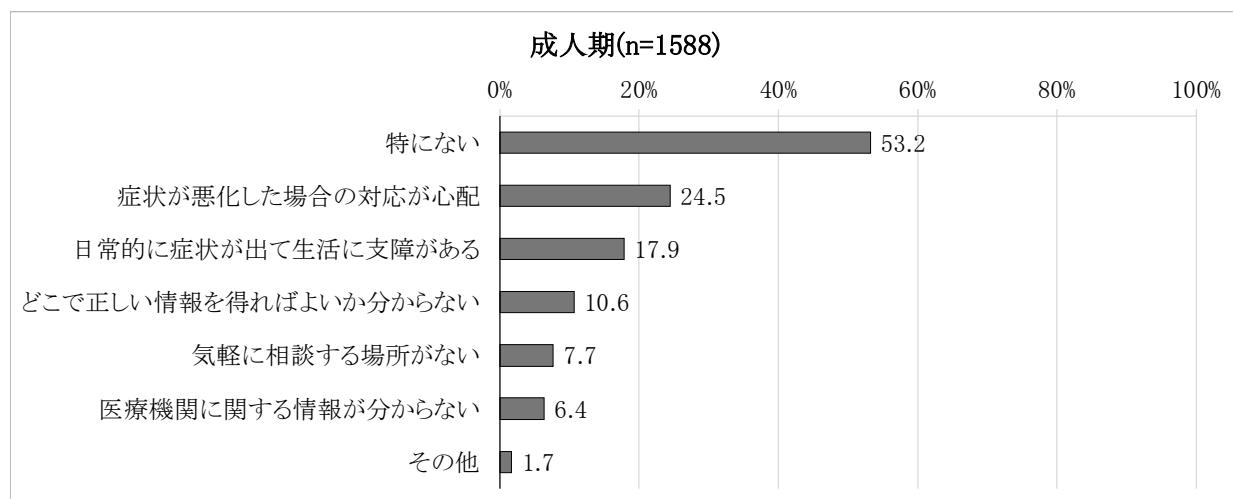
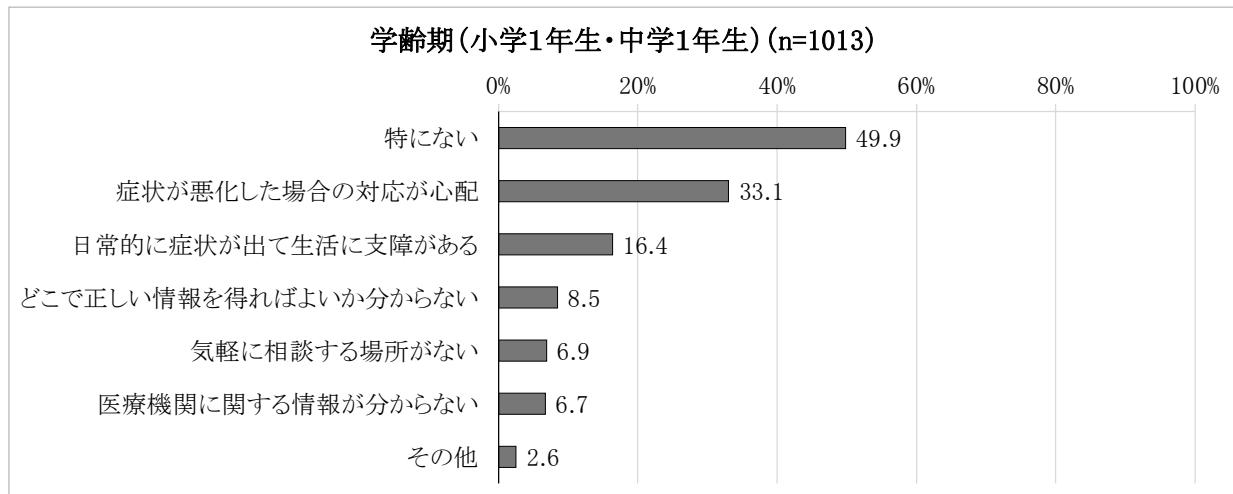
小児期では「妊娠中に入手したかった」46.4%の割合が高く、次いで「月齢に関係なく入手したい（したかった）」28.2%、「生後3か月以内に入手したかった」26.0%であった。

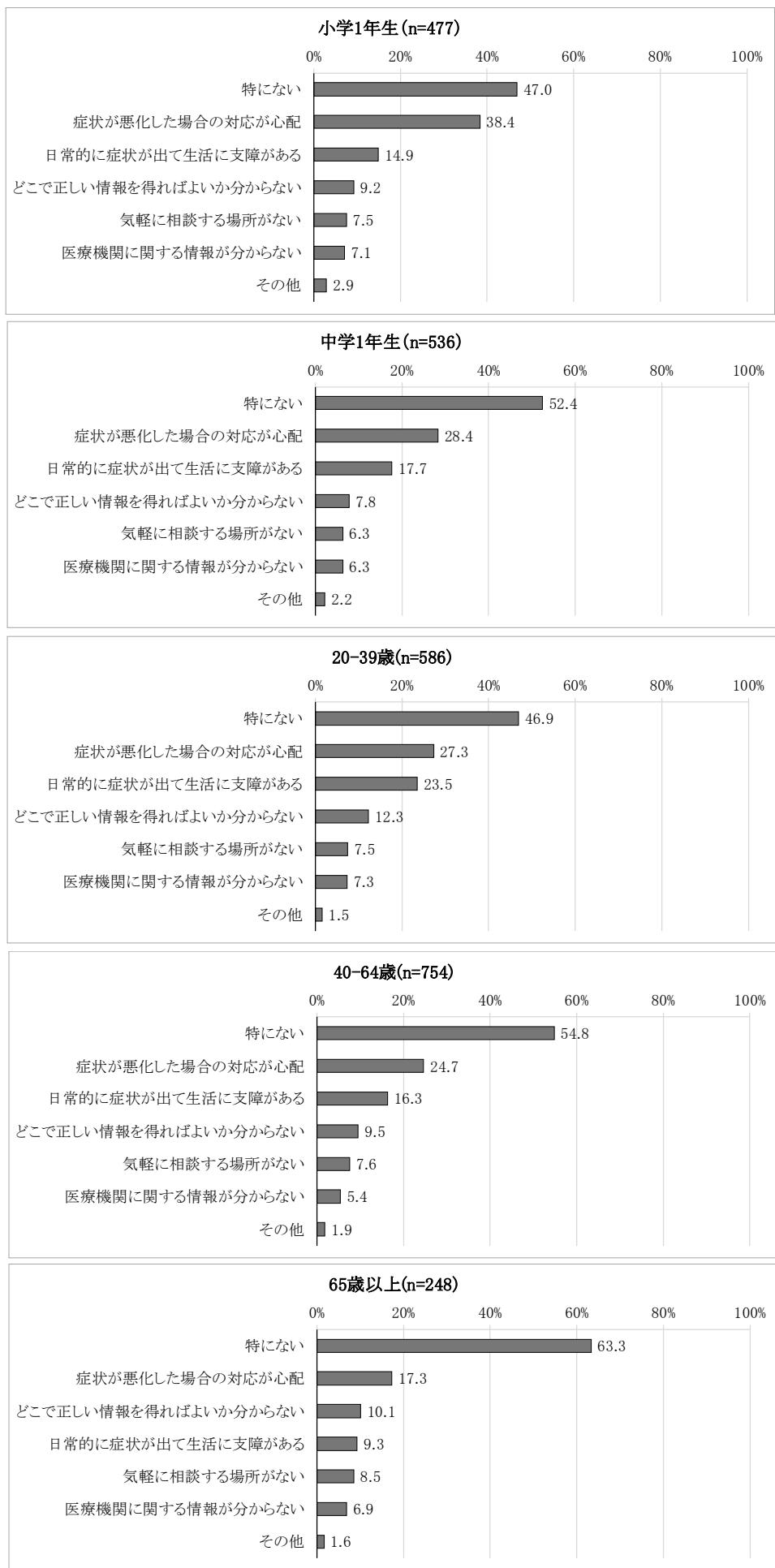


問24 学齢期・成人のアレルギー疾患で困っていること（小学1年生・中学1年生・成人に対する問）

ご自身の（成人向け）／お子さまの（小児向け）アレルギー疾患について、困っていることはありますか。

学齢期、成人期ともに「特ない」の割合が高く（学齢期 49.9%、成人期 53.2%）、次いで「症状が悪化した場合の対応が心配」の割合が高かった（学齢期 33.1%、成人期 24.5%）。また、年代別では、20-39歳で「日常的に症状が出て生活に支障がある」の割合が他の年代よりも高かった（23.5%）。

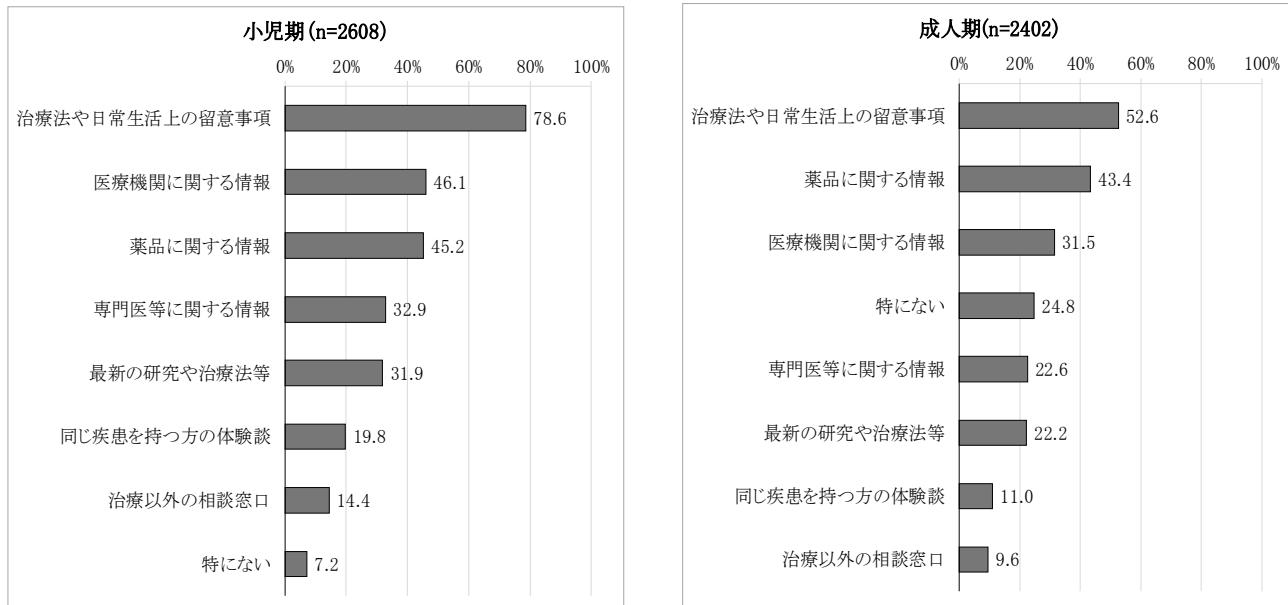


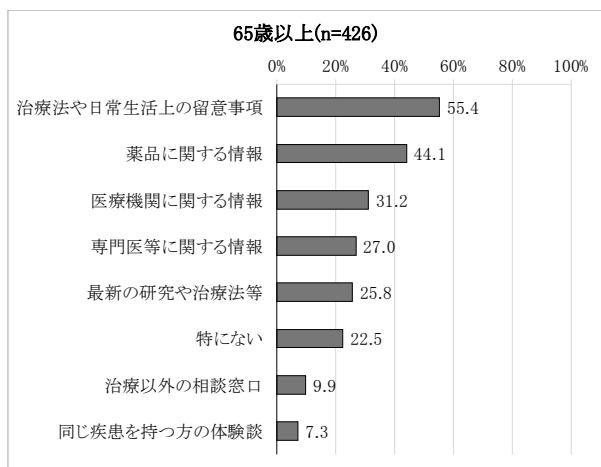
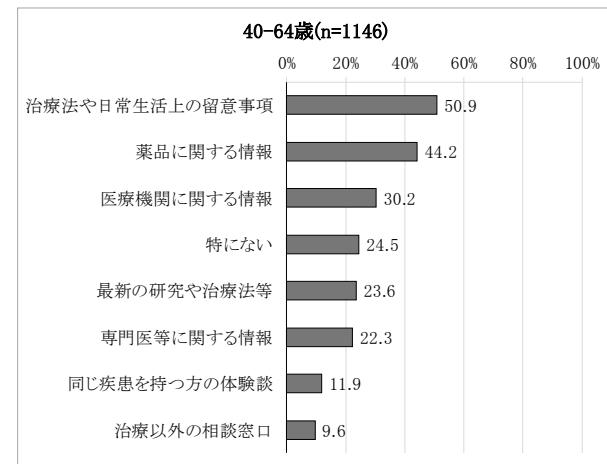
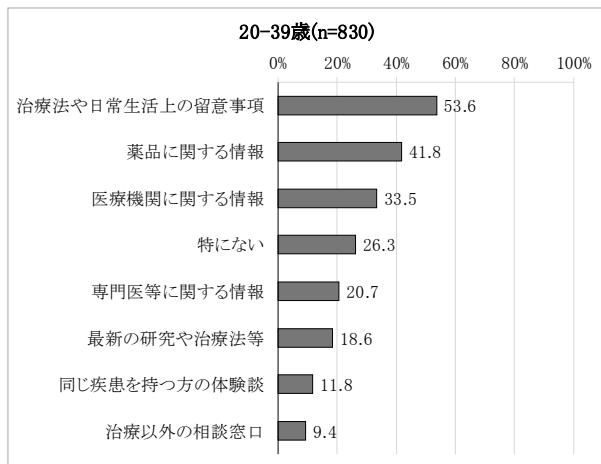
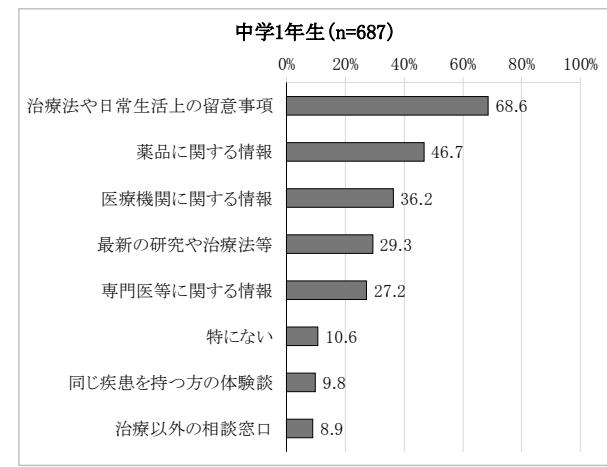
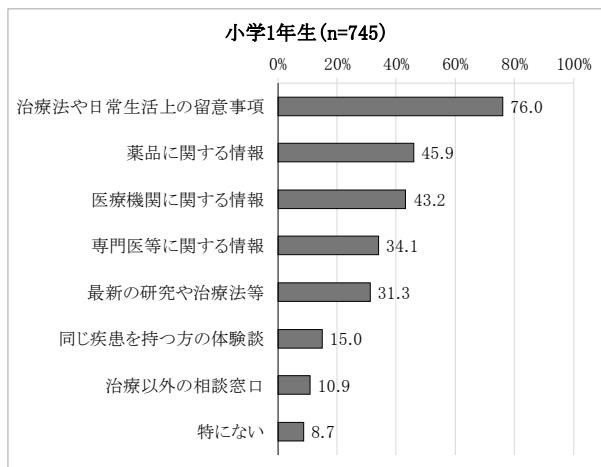
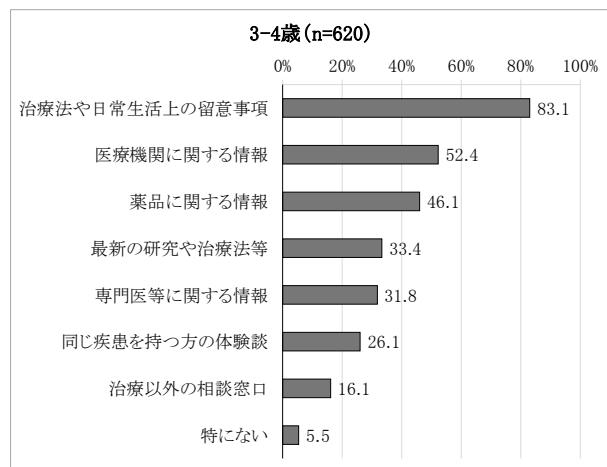
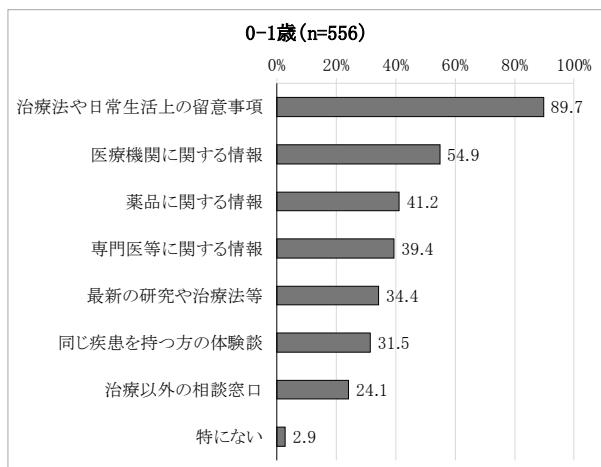


問25 アレルギー疾患とつきあっていくうえで必要な情報（問5または問8で「正式な診断を受けたことがない」以外）

アレルギー疾患の症状をコントロールする上で必要と思う情報を選択ください。

小児期、成人期ともに「治療法や日常生活上の留意事項」の割合が高かった（小児期 78.6%、成人期 52.6%）。また、年代別では、「薬品に関する情報」はいずれの年代でも4割以上と比較的高く、0・1歳、3・4歳、小学校1年生では「医療機関に関する情報」が他の年代よりも高かった（0・1歳 54.9%、3・4歳 52.4%、小学校1年生 43.2%）

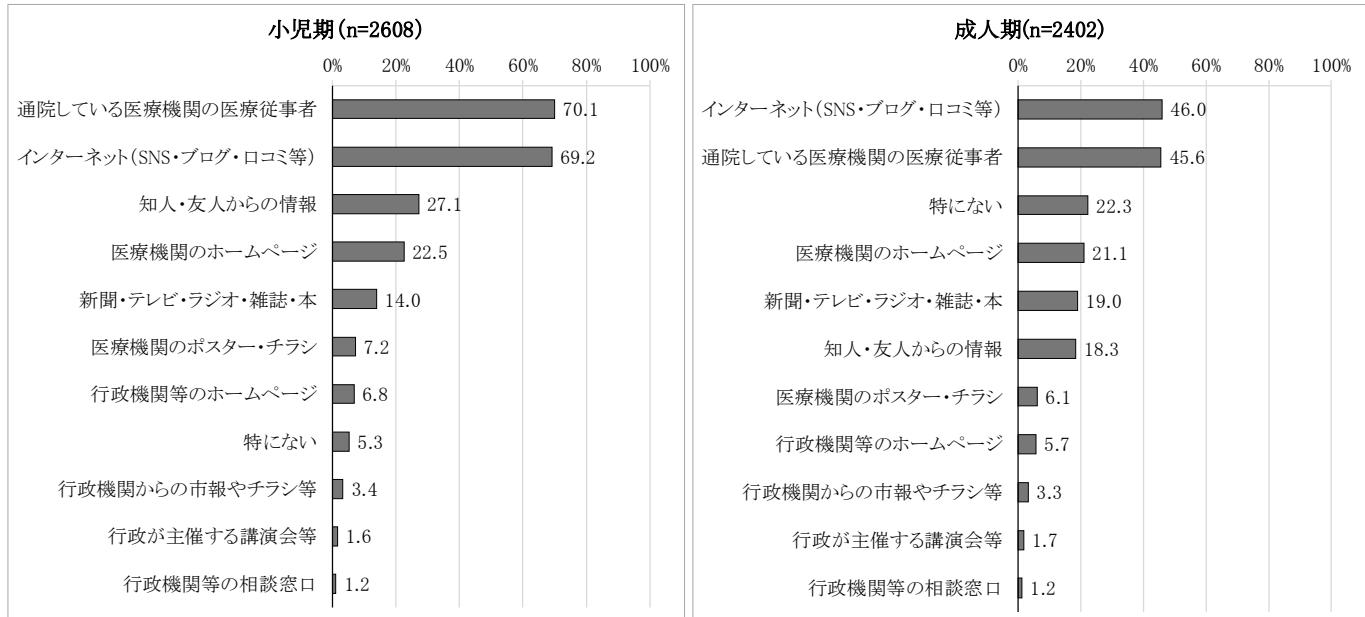


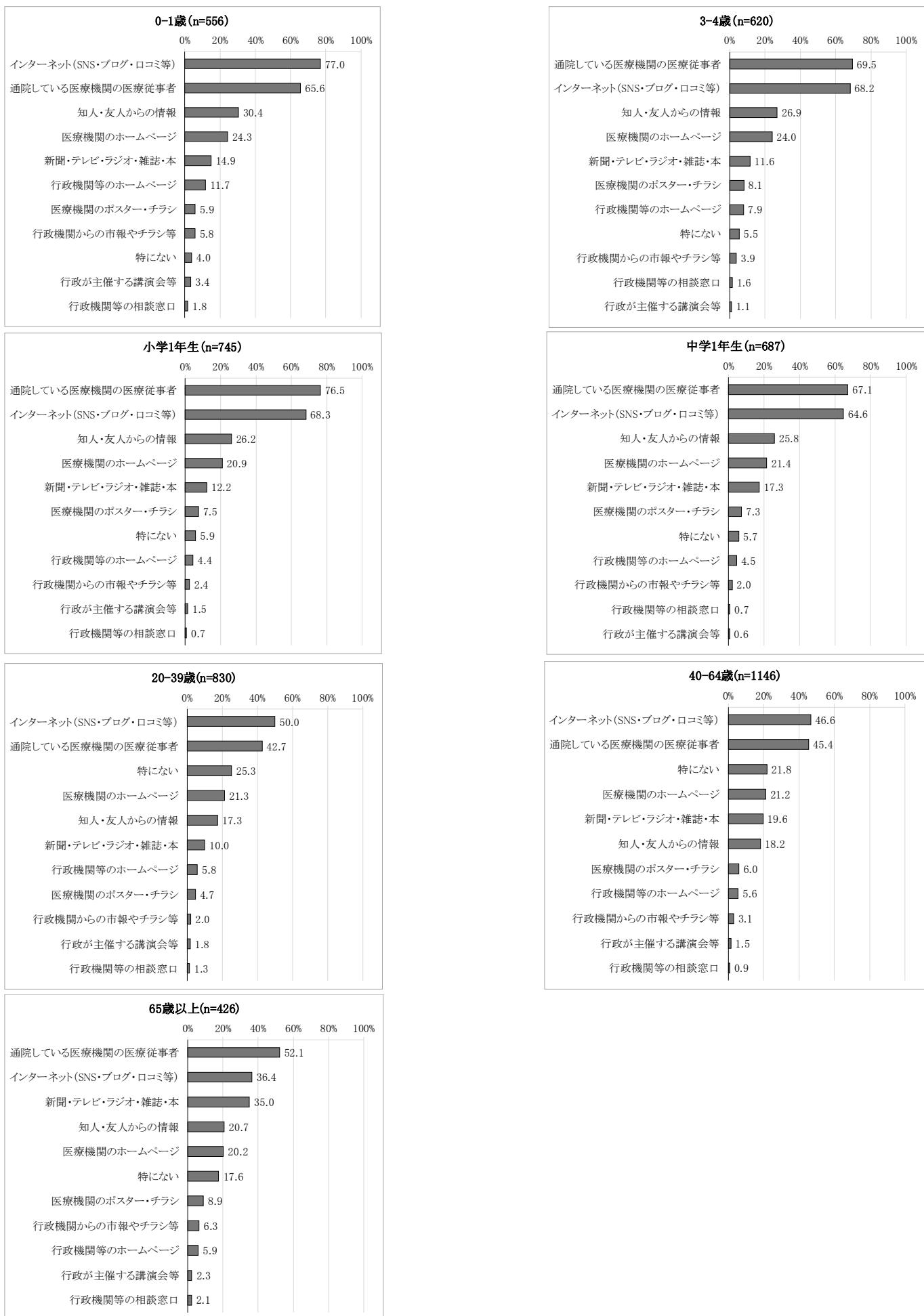


問26 アレルギーに関する情報の入手方法（問5または問8で「正式な診断を受けたことがない」以外）

アレルギー疾患に関する情報の入手方法を選択ください。

小児期、成人期ともに「通院している医療機関の医療従事者」「インターネット（SNS・ブログ・口コミ等）」の割合が高かったが、成人期よりも小児期でそれぞれの割合が高かった。また、年代別では、0-1歳から40-64歳は「インターネット（SNS・ブログ・口コミ等）」の割合は高かったが、65歳以上では「新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・本」の割合が他の年代に比べ高かった。



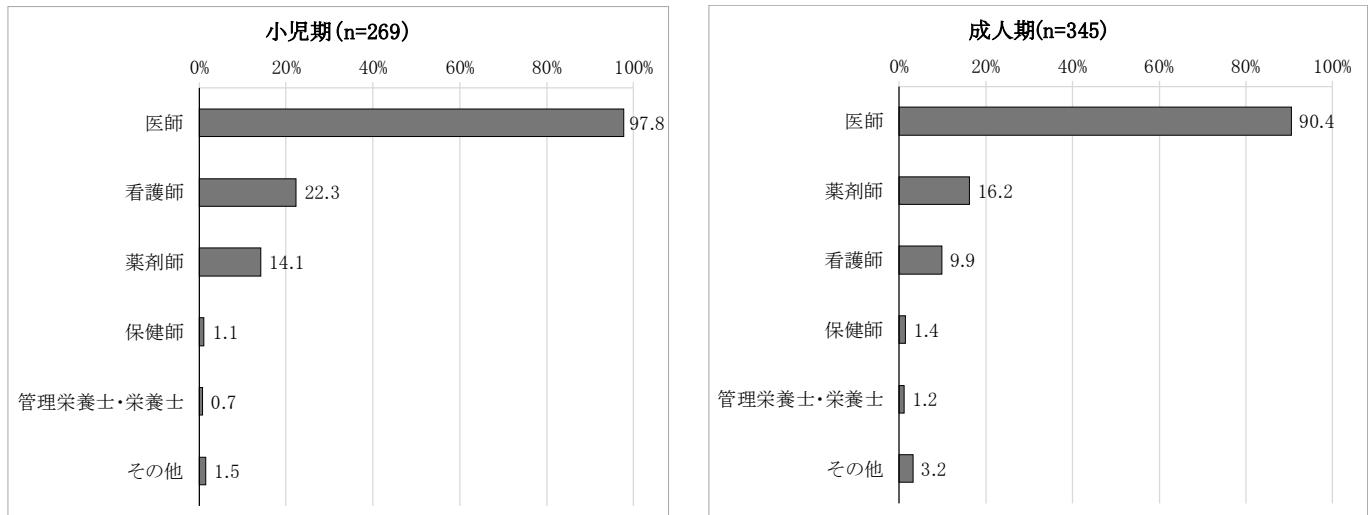


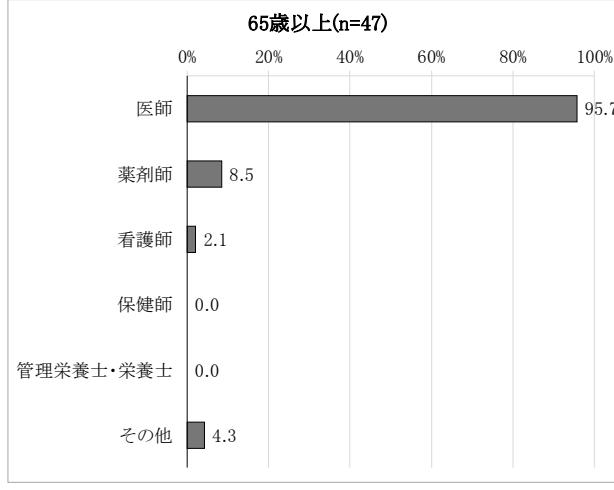
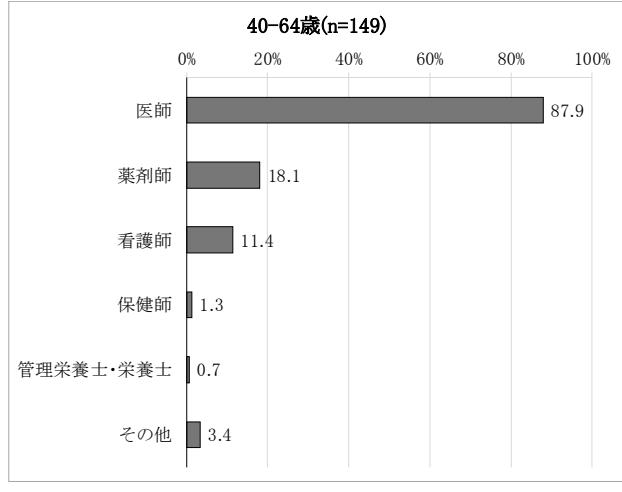
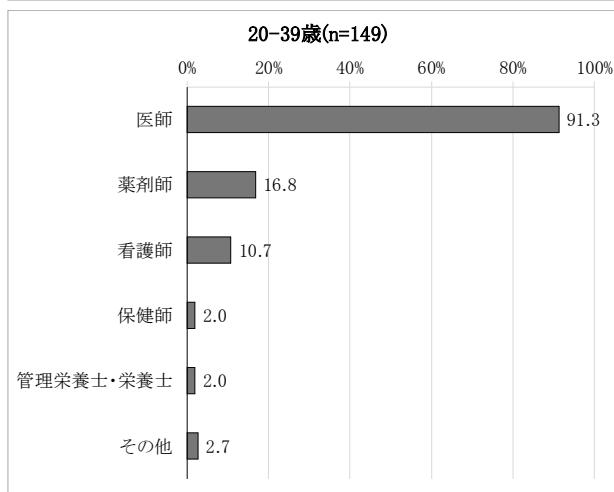
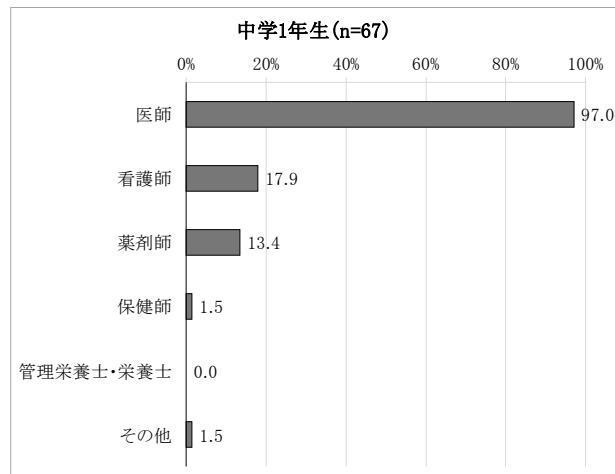
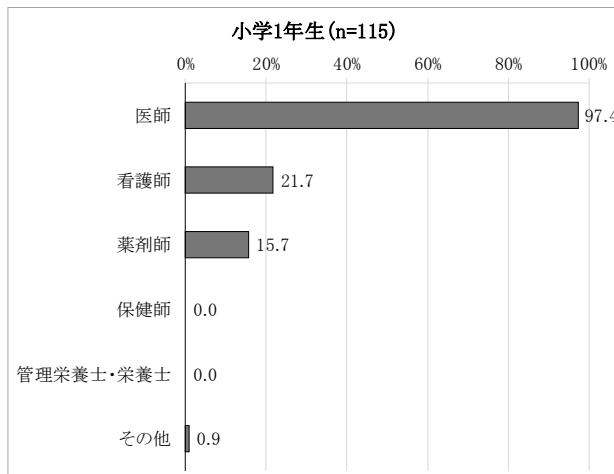
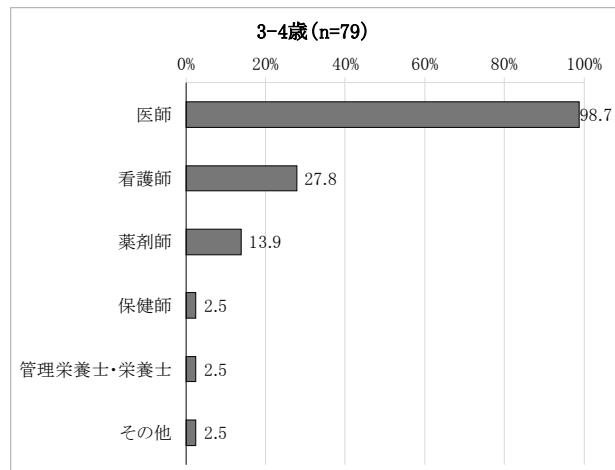
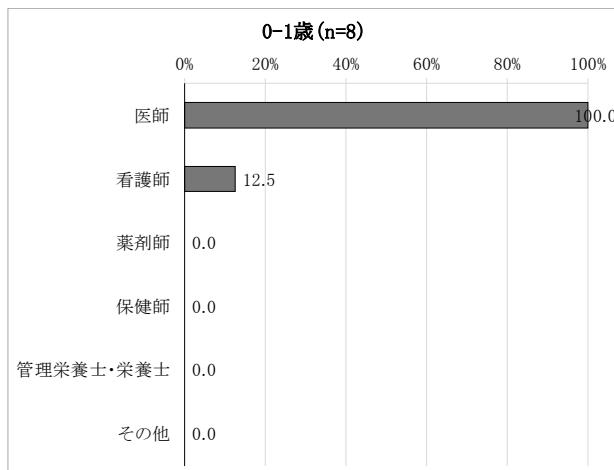
問27 自身で実施するアレルギー疾患治療の指導

ご自身で（成人向け）／お子さまに（小児向け）実施するアレルギー疾患の治療方法を教えてくれた方について、当てはまる回答を選択ください。

（1）気管支ぜん息（ぜん息薬の吸入）

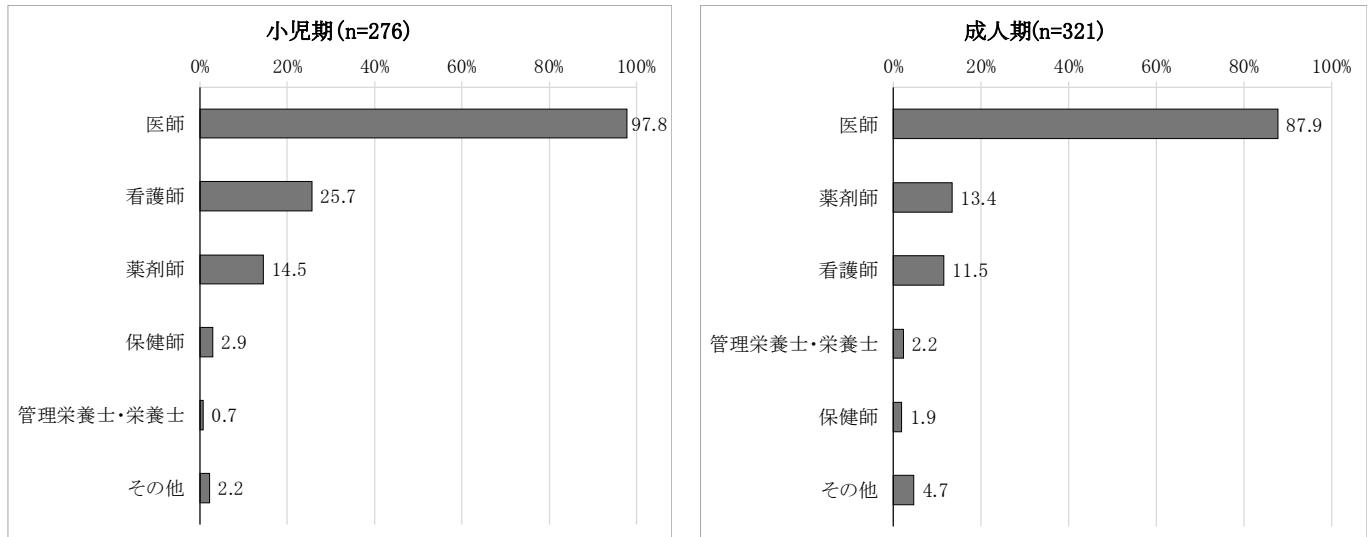
小児期、成人期ともに「医師」の割合が高かった（小児期 97.8%、成人期 90.4%）。また、年代別では、0・1歳から中学1年生で「看護師」の割合は「医師」に次いで高かったが、20・39歳から65歳以上では「薬剤師」の割合が高かった。

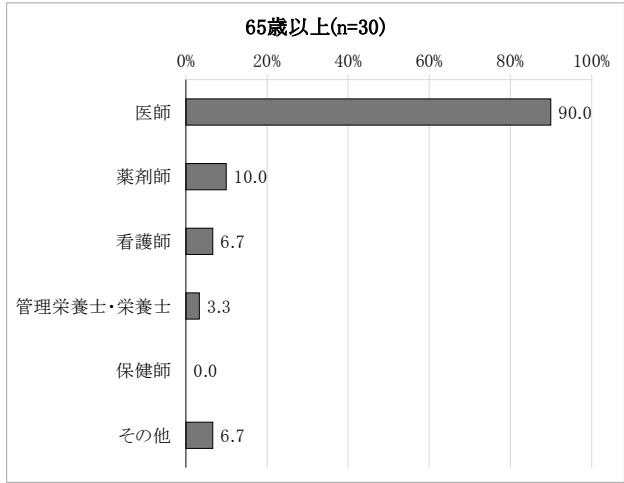
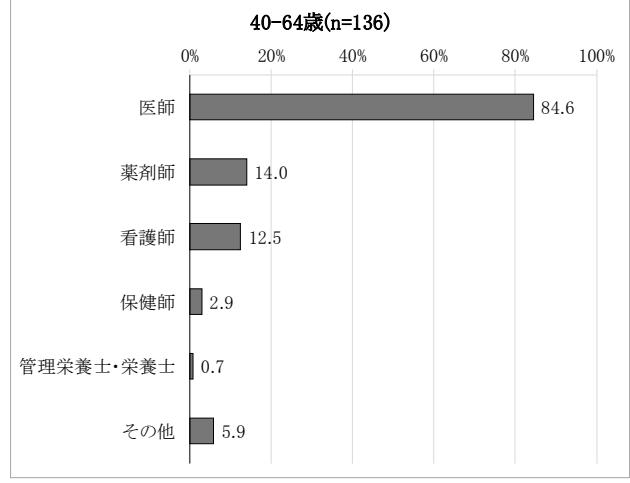
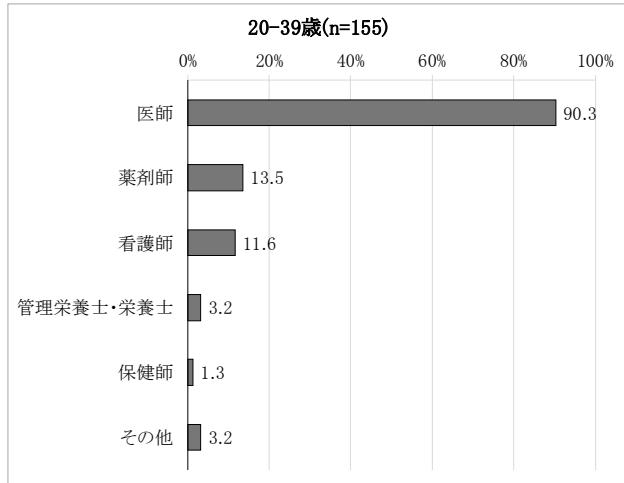
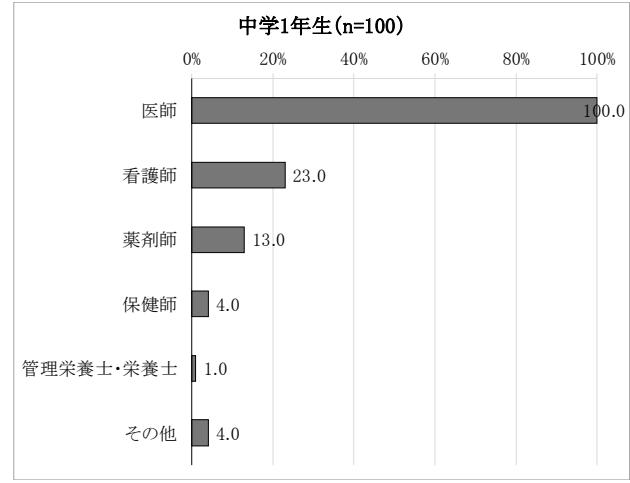
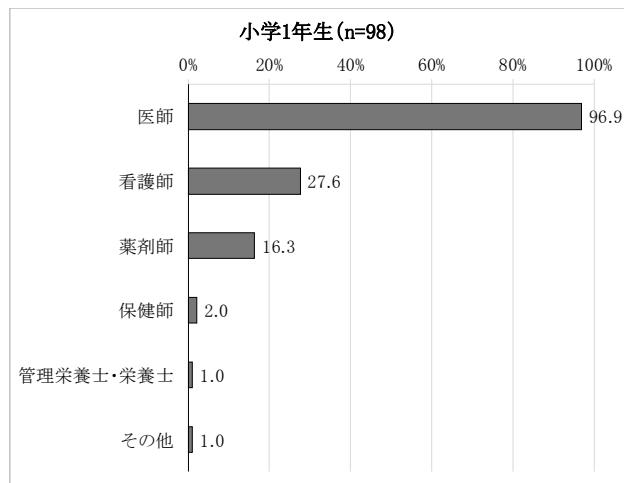
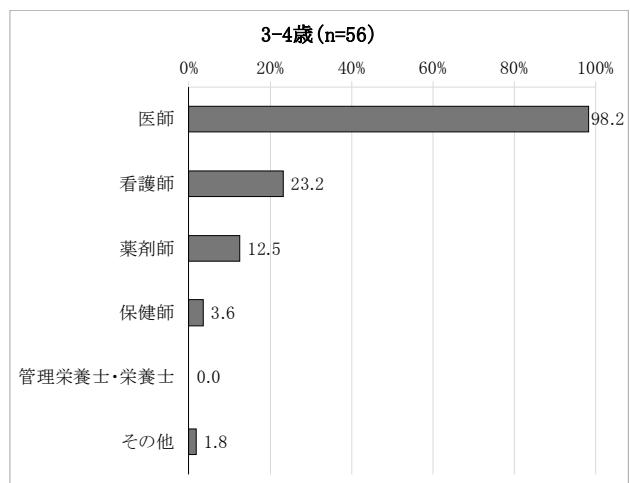
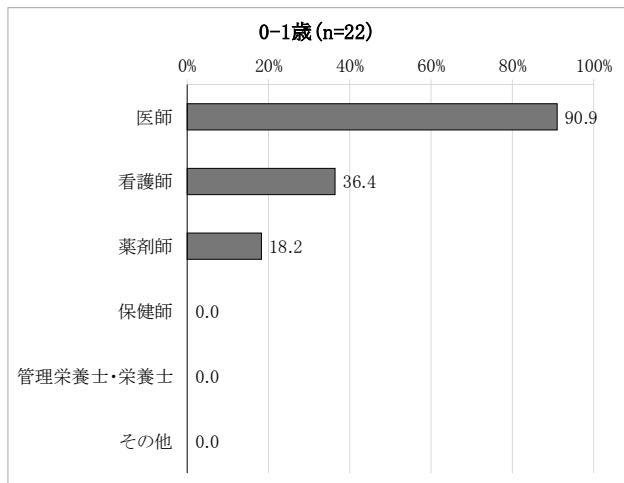




(2) アトピー性皮膚炎（スキンケア）

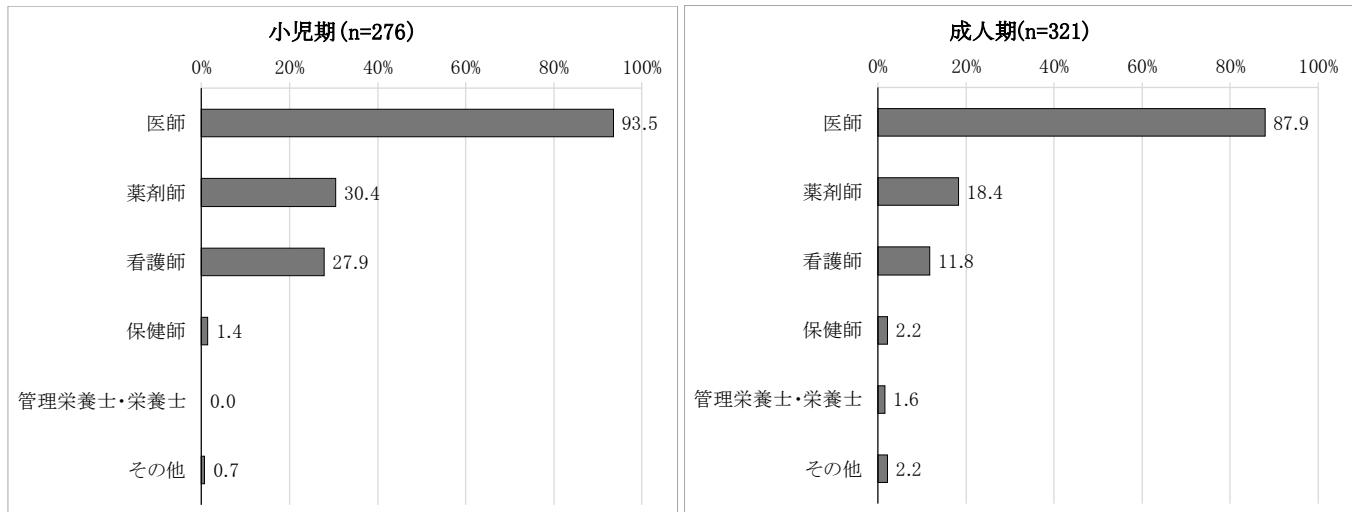
小児期、成人期ともに「医師」の割合が高かった（小児期 97.8%、成人期 87.9%）。また、年代別では、0・1歳から中学1年生で「看護師」の割合は「医師」に次いで高かったが、20・39歳から65歳以上では「薬剤師」の割合が高かった。

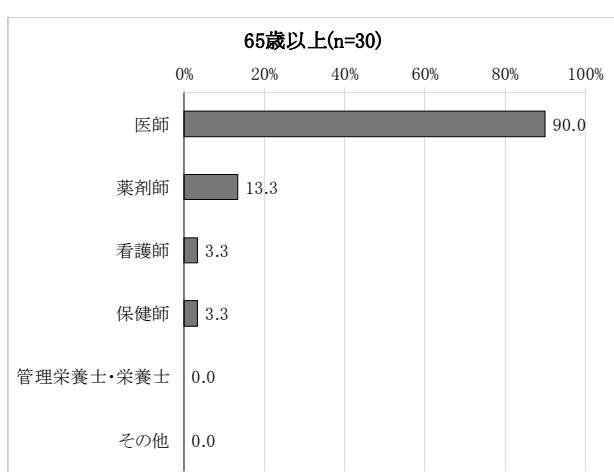
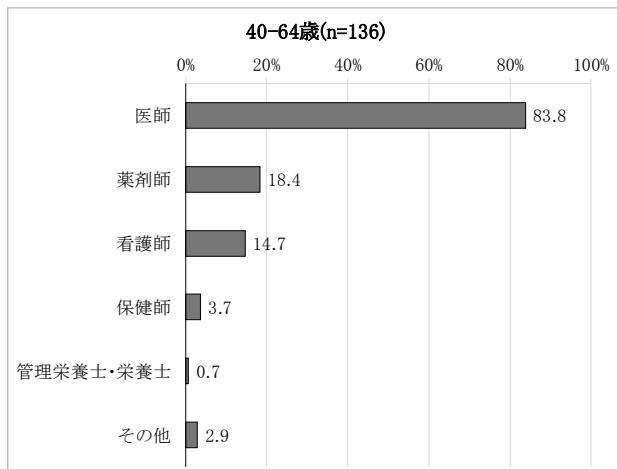
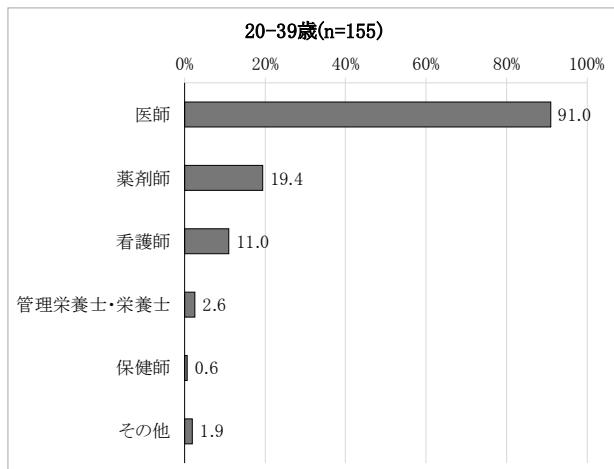
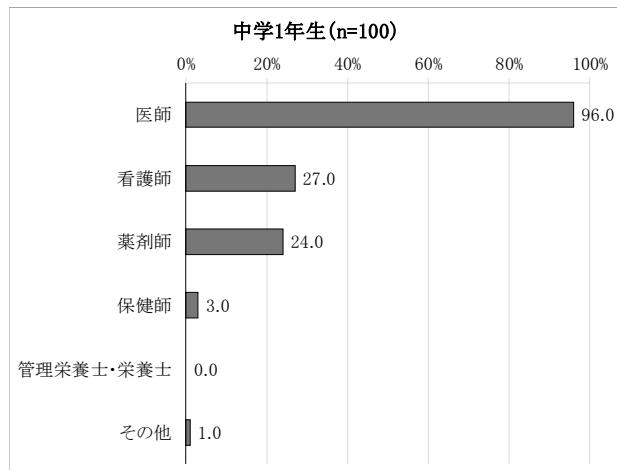
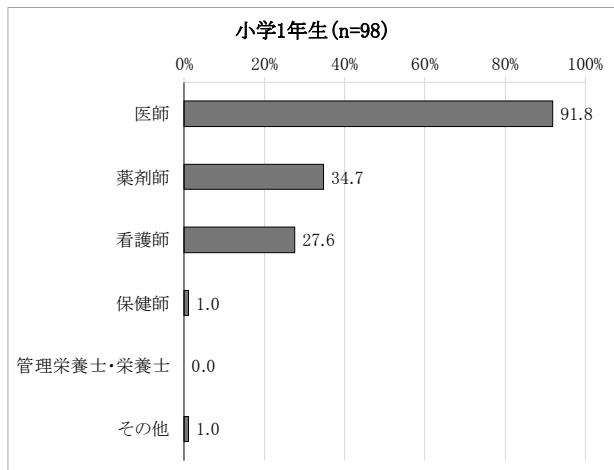
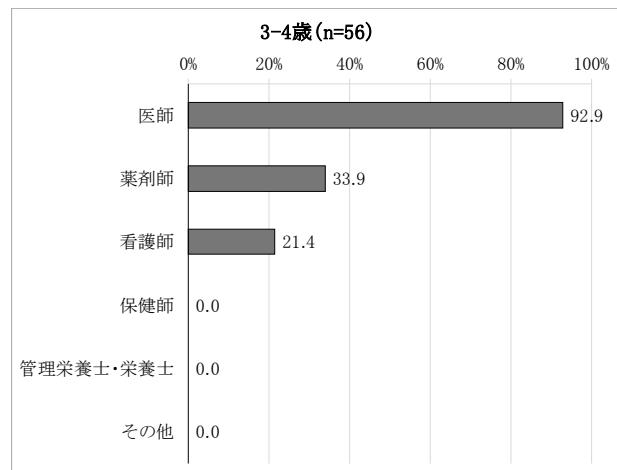
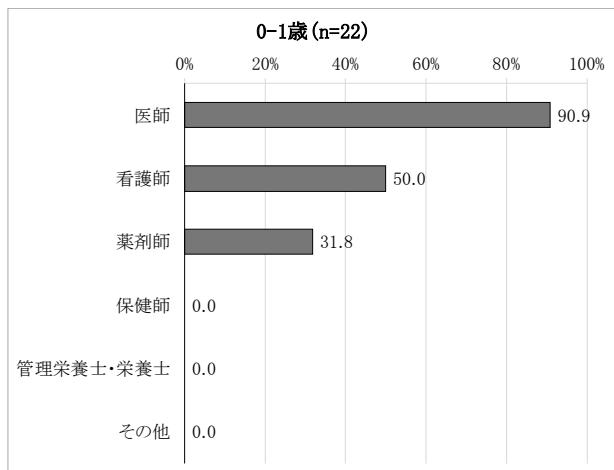




(3) アトピー性皮膚炎（外用薬の塗布）

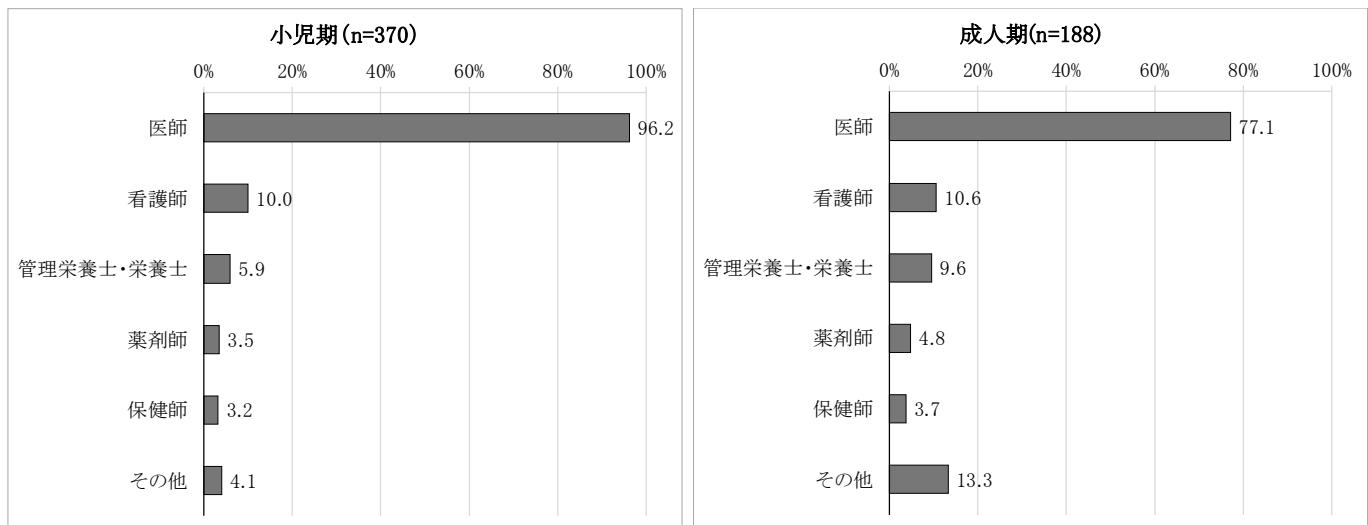
小児期、成人期とともに「医師」の割合が高く（小児期 93.5%、成人期 87.9%）、次いで「薬剤師」の割合が高かった（小児期 30.4%、成人期 18.4%）。また、年代別では、0-1 歳と中学 1 年生では「看護師」の割合が「医師」に次いで高く、その他の年代では「薬剤師」の割合が「医師」に次いで高かつた。

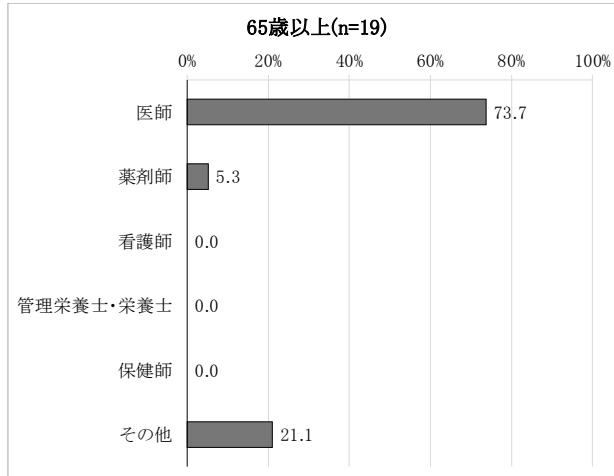
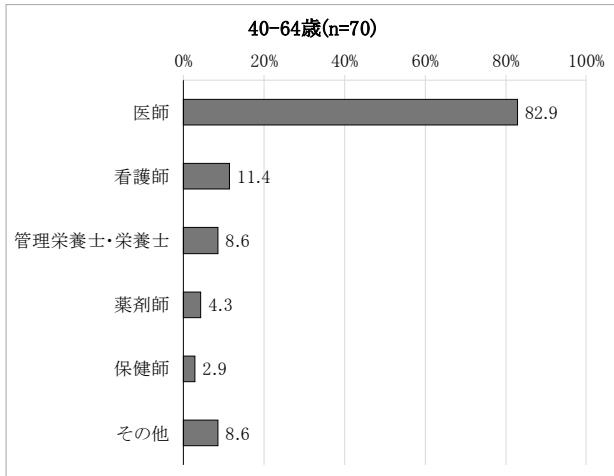
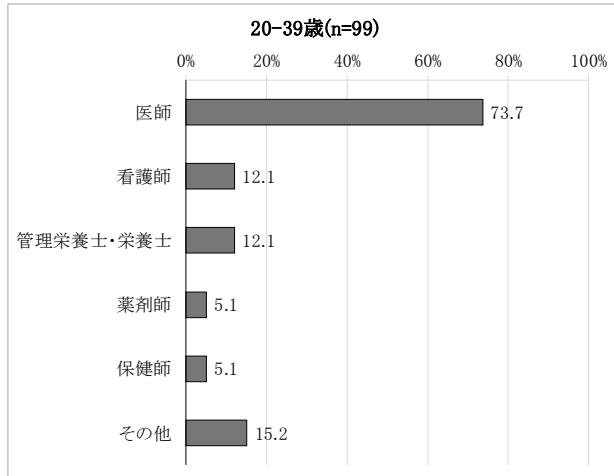
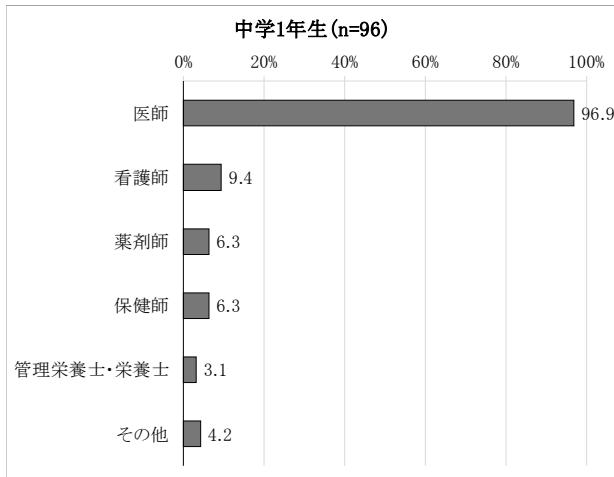
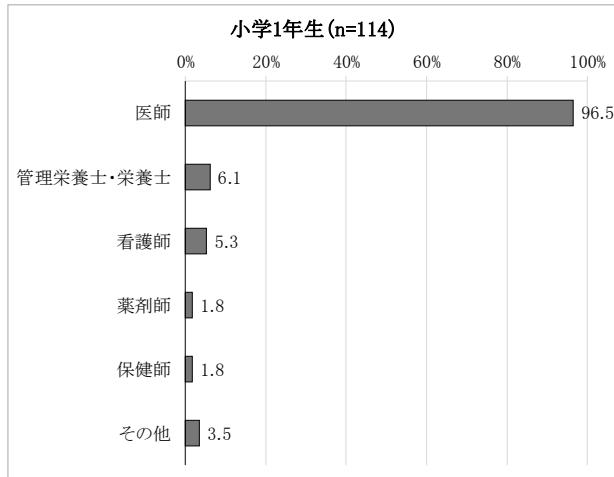
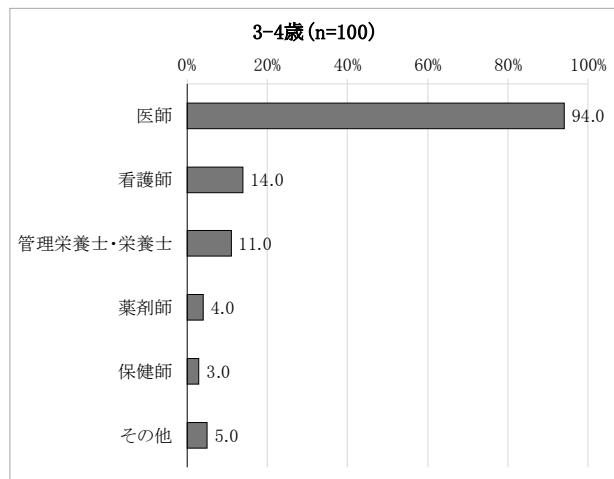
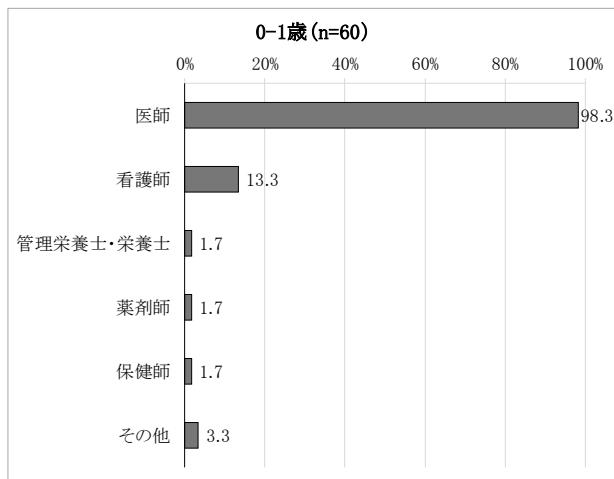




(4) 食物アレルギー（アレルギー対応食品の除去・代替食の対応）

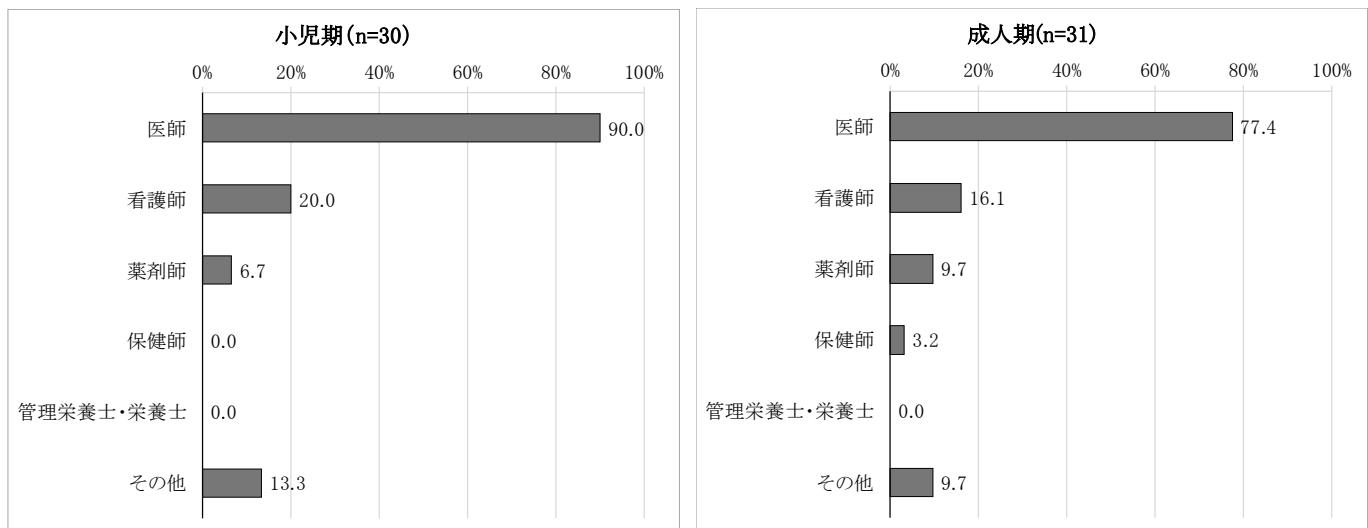
小児期、成人期ともに「医師」の割合が高く（小児期 96.2%、成人期 77.1%）、次いで「看護師」の割合が高かった（小児期 10.0%、成人期 10.6%）。また、年代別では、3-4 歳と 20-39 歳で「管理栄養士・栄養士」の割合が他の年代よりも高かった。

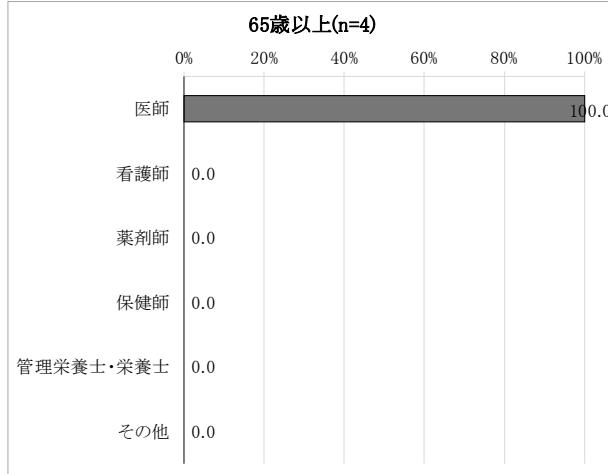
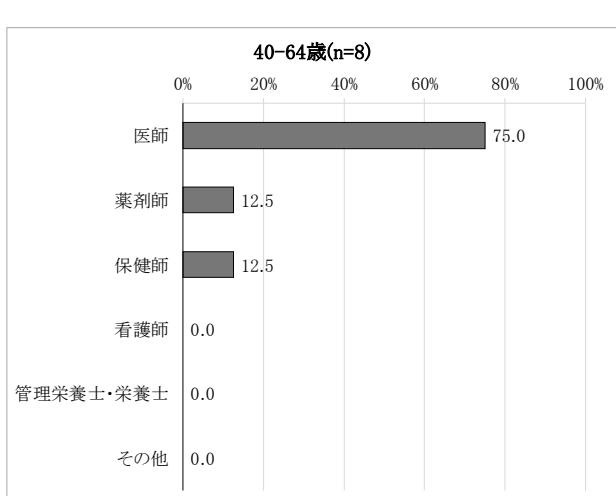
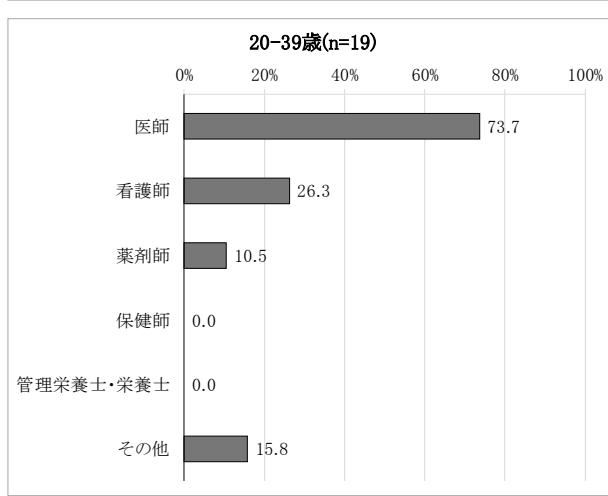
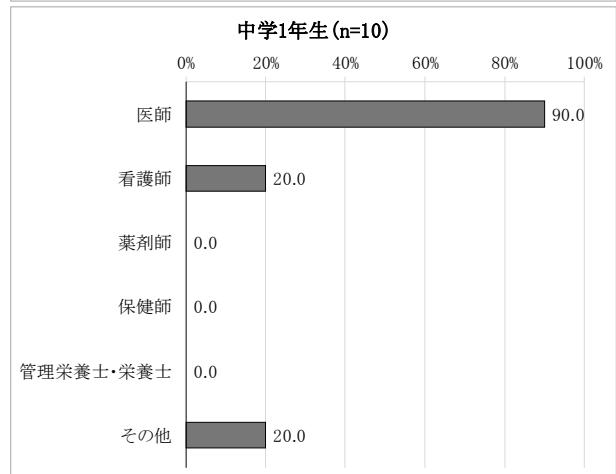
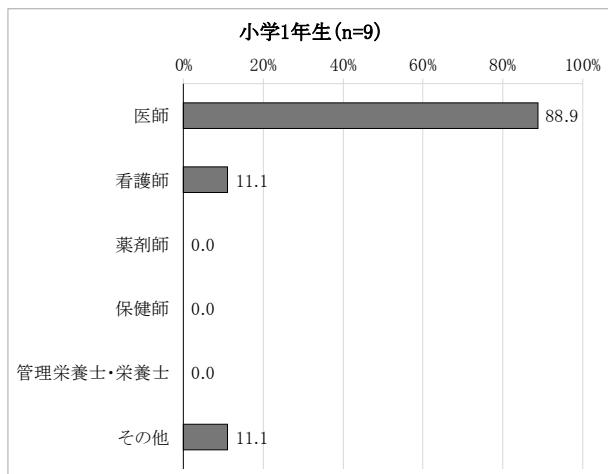
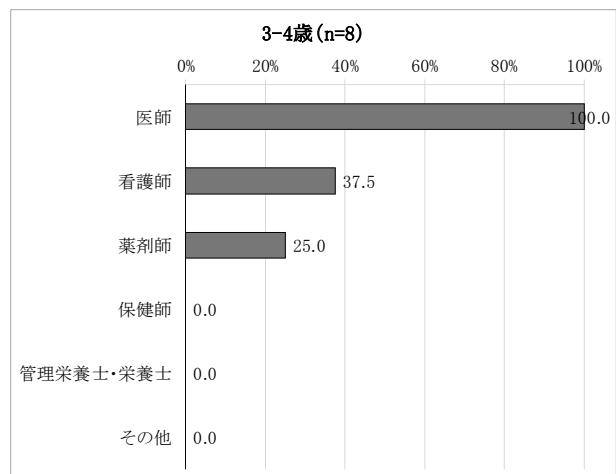
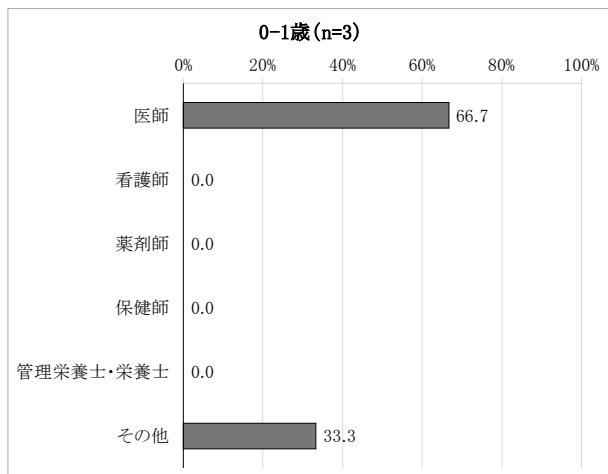




(5) アナフィラキシー（エピペン（アドレナリン自己注射））

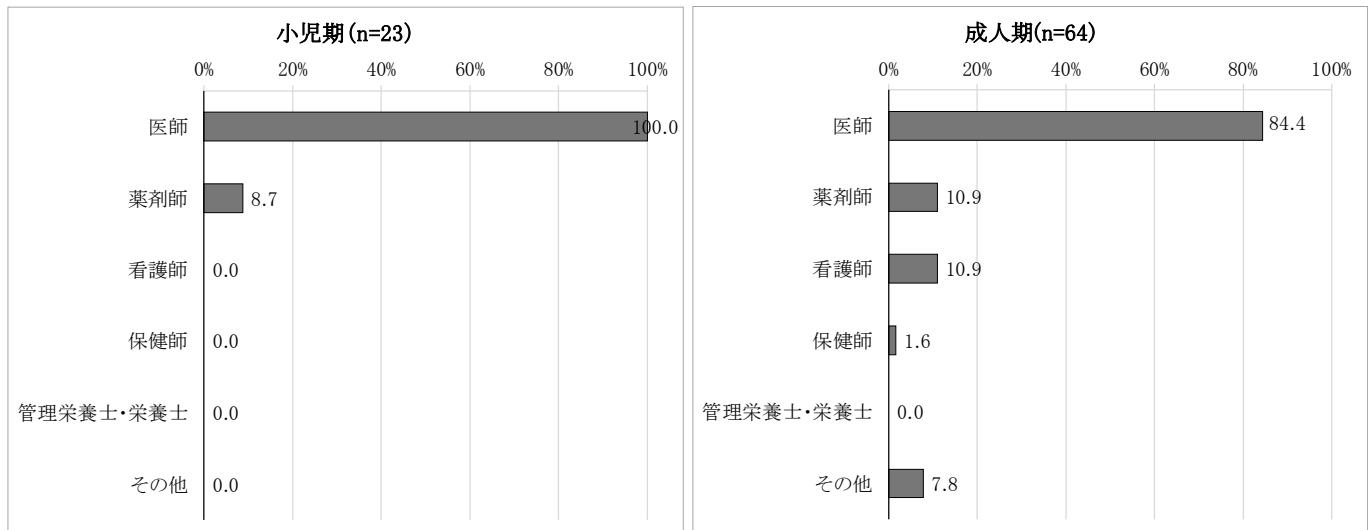
小児期、成人期ともに「医師」の割合が高く（小児期 90.0%、成人期 77.4%）、次いで「看護師」の割合が高かった（小児期 20.0%、成人期 16.1%）。

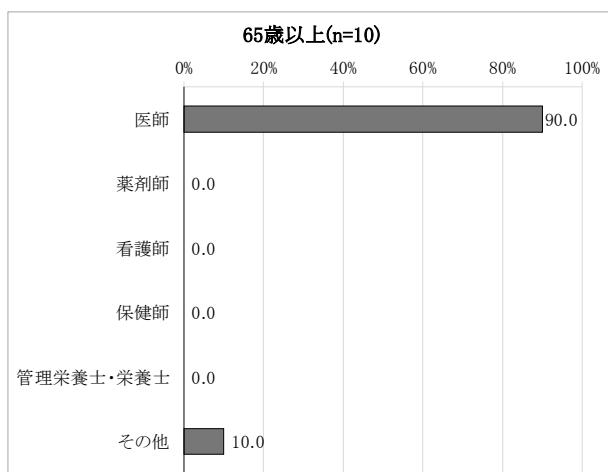
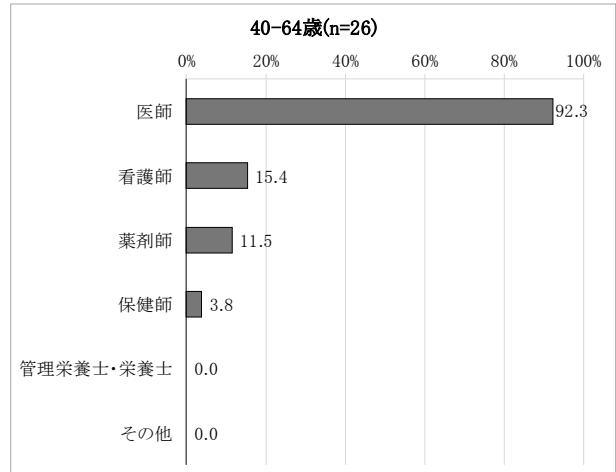
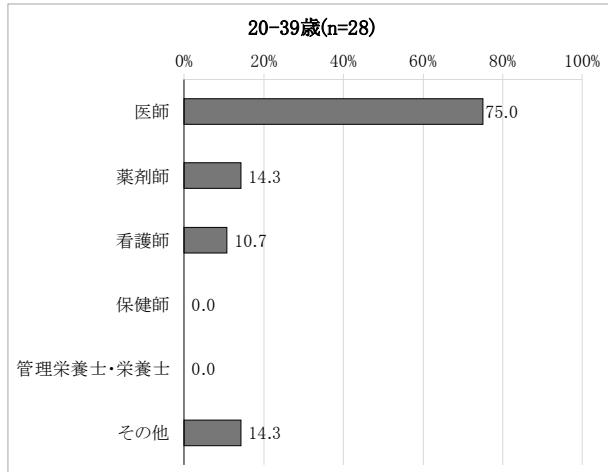
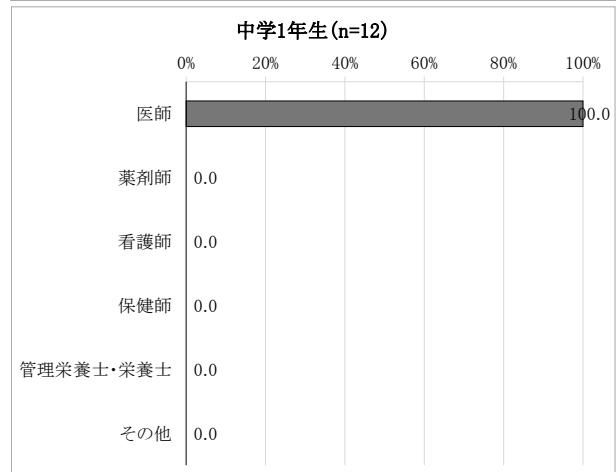
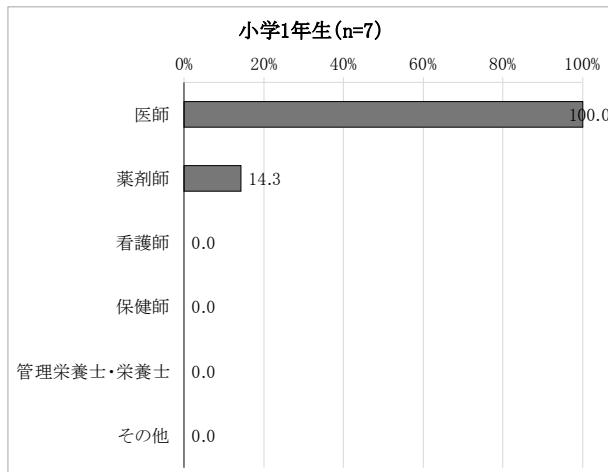
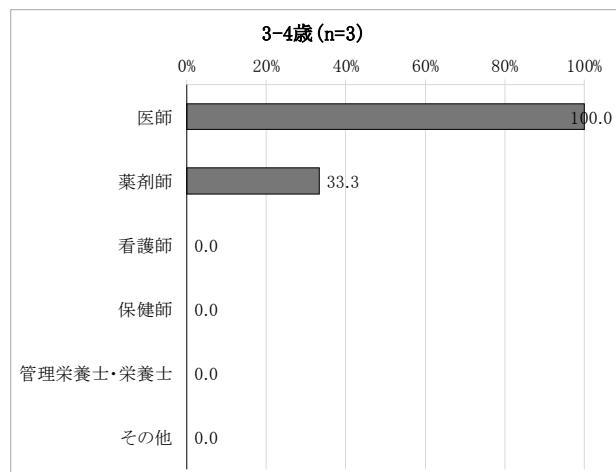
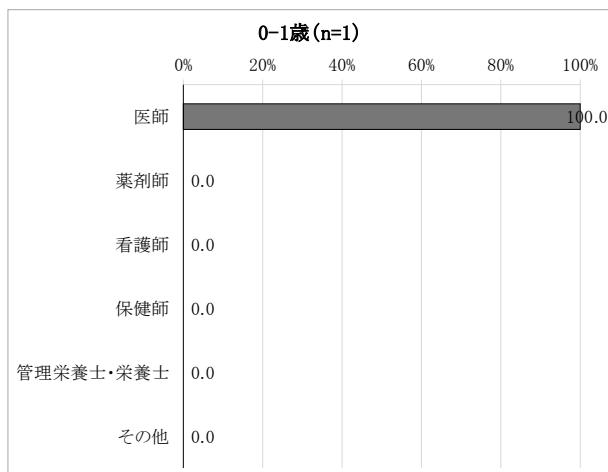




(6) 薬物アレルギー（原因薬剤及び類似薬剤の除去）

小児期、成人期ともに「医師」の割合が高かった（小児期 100.0%、成人期 84.4%）。



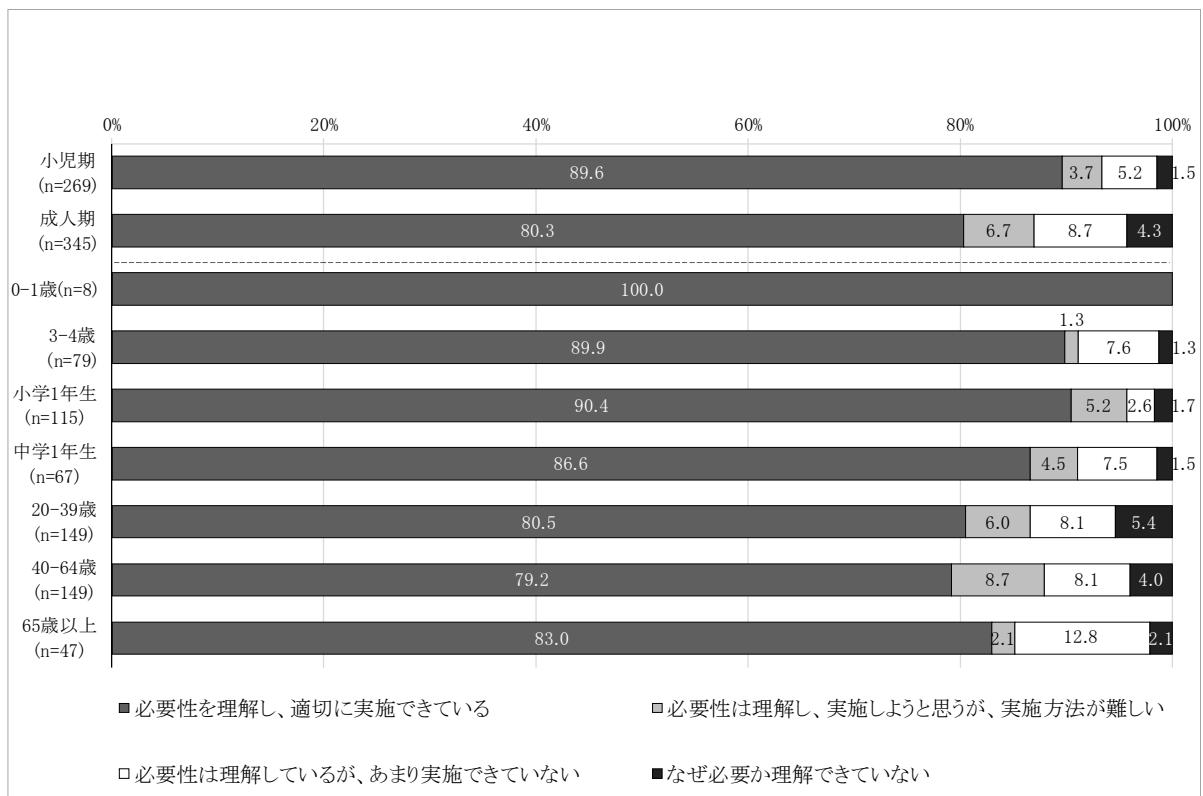


問28 自身で実施するアレルギー疾患治療の必要性や実施方法の理解

ご自身で（成人向け）／お子さまに（小児向け）実施するアレルギー疾患の治療について、必要性や実施方法など、当てはまる回答を選択ください。

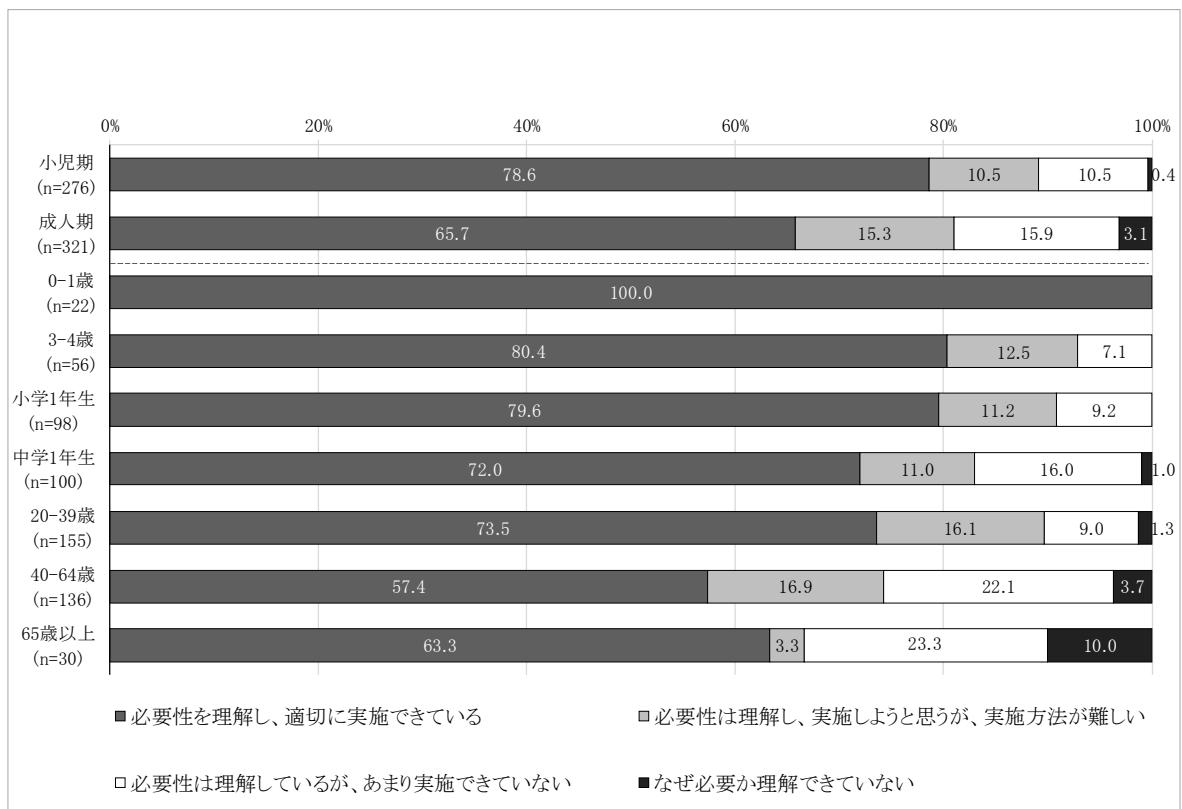
（1）気管支ぜん息（ぜん息薬の吸入）

小児期、成人口ともに「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合が高かった（小児期 89.6%、成人期 80.3%）。また、年代別では、小学1年生から65歳以上にかけて「必要性は理解しているが、あまり実施できていない」の割合が増加していた。



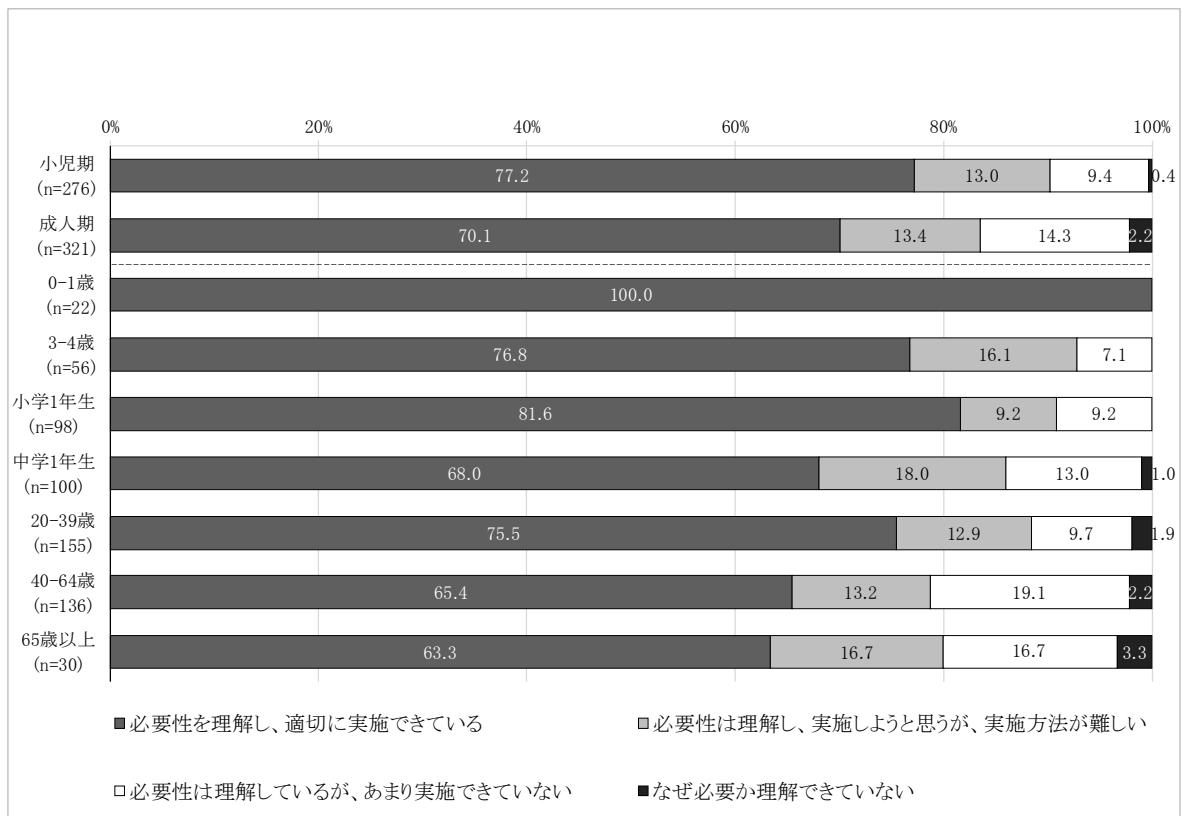
(2) アトピー性皮膚炎（スキンケア）

小児期、成人期ともに「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合が高かった（小児期 78.6%、成人期 65.7%）。また、年代別では、0・1 歳から中学 1 年生にかけて、「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合は減少していた一方で、「必要性は理解しているが、あまり実施できていない」の割合が増加した。さらに、20・39 歳から 65 歳以上にかけて、「必要性は理解しているが、あまり実施できていない」「なぜ必要か理解できていない」の割合が増加していた。



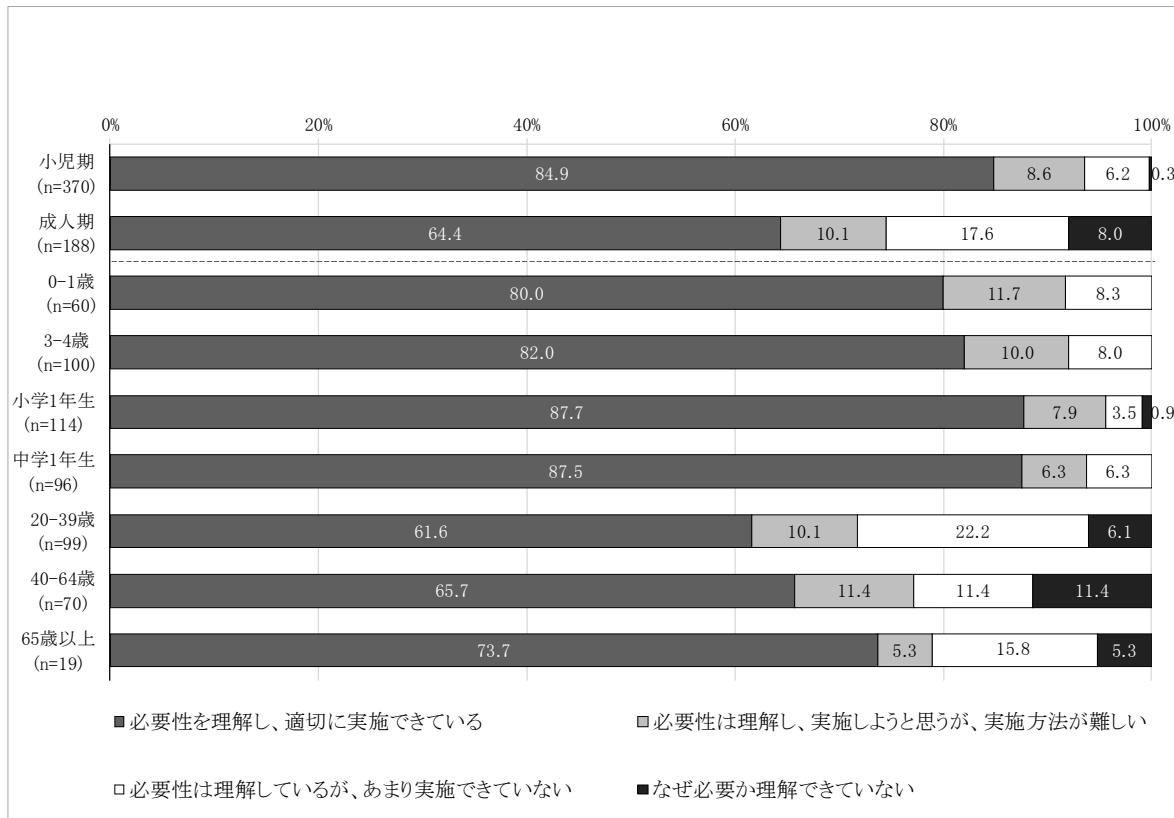
(3) アトピー性皮膚炎（外用薬の塗布）

小児期、成人期ともに「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合が高かった（小児期 77.2%、成人期 70.1%）。また、年代別では、0・1歳と中学1年生にかけて「必要性は理解しているが、あまり実施できていない」の割合が増加していた。20・39歳から65歳以上にかけて、「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合は減少している一方で、「なぜ必要か理解できていない」の割合が増加していた。



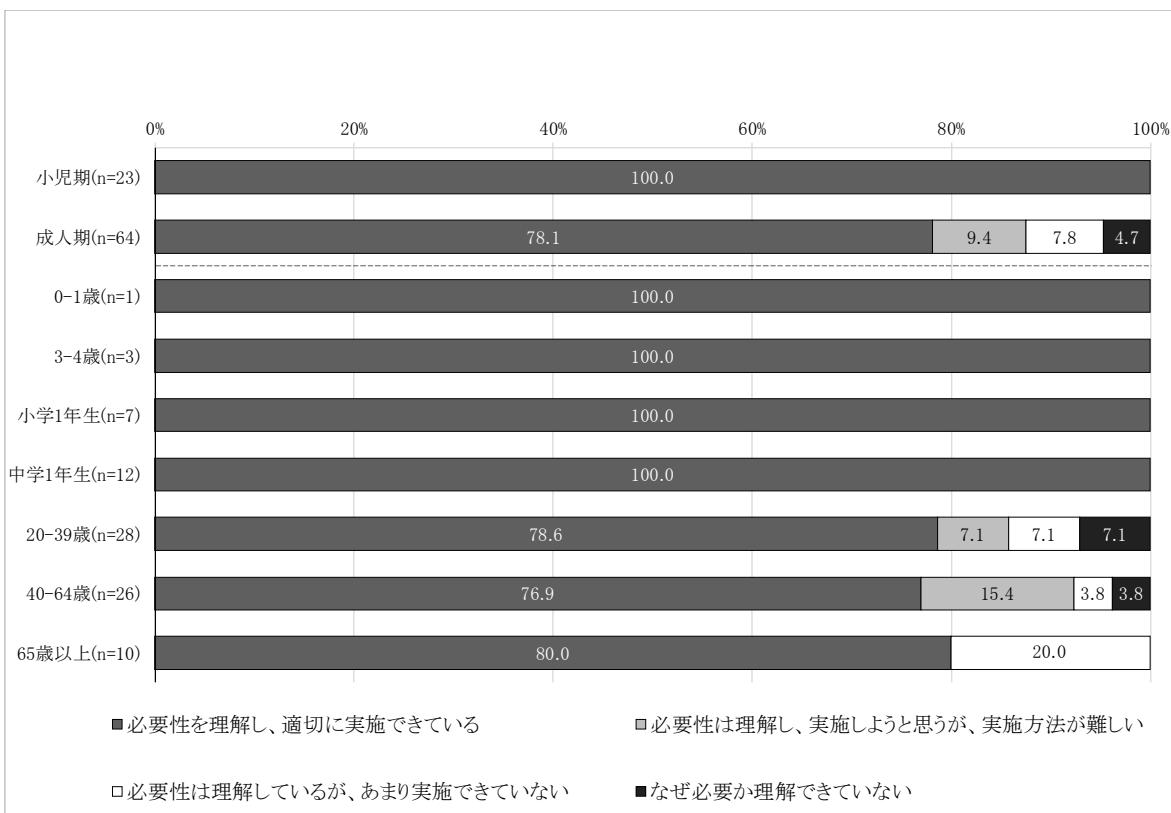
(4) 食物アレルギー（アレルギー対応食品の除去・代替食の対応）

小児期、成人期ともに「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合が高かった（小児期 84.9%、成人期 64.4%）。小児期に比べて成人期で「必要性は理解しているが、あまり実施できていない」「なぜ必要か理解できていない」の割合が高かった。



(5) 薬物アレルギー（原因薬剤及び類似薬剤の除去）

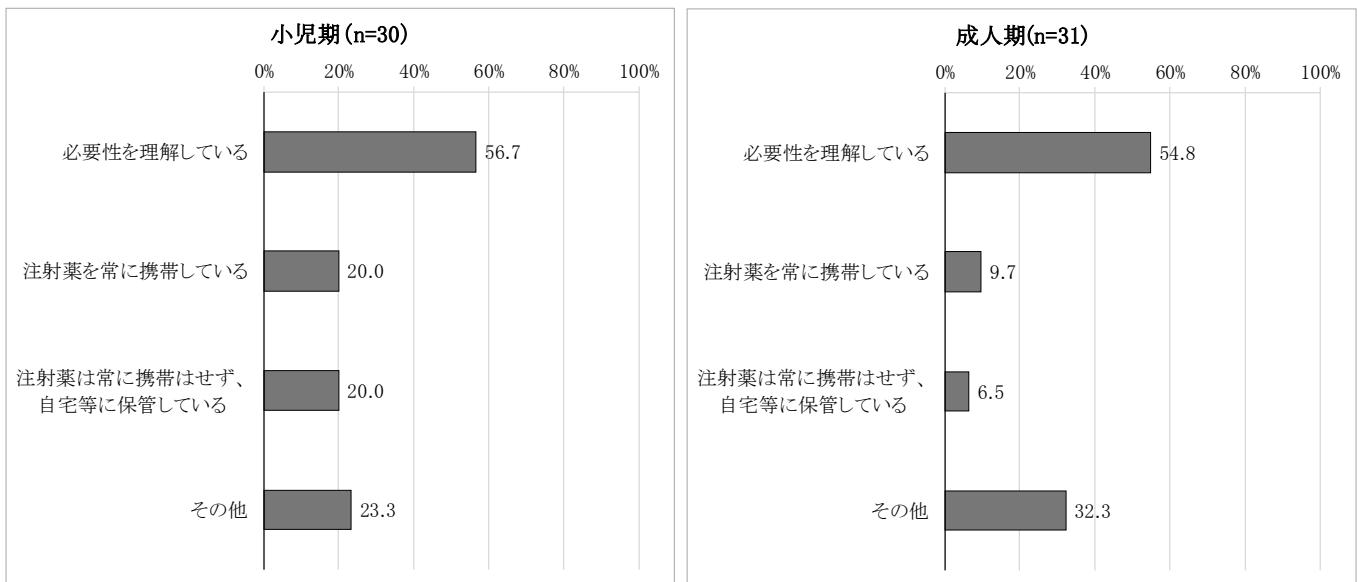
小児期、成人期ともに「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合が高かった（小児期 100.0%、成人期 78.1%）。

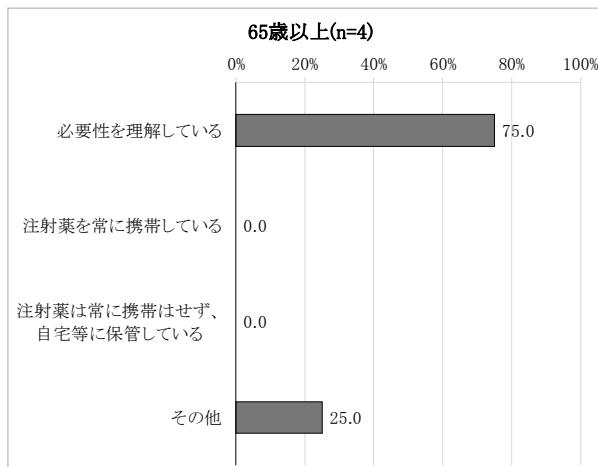
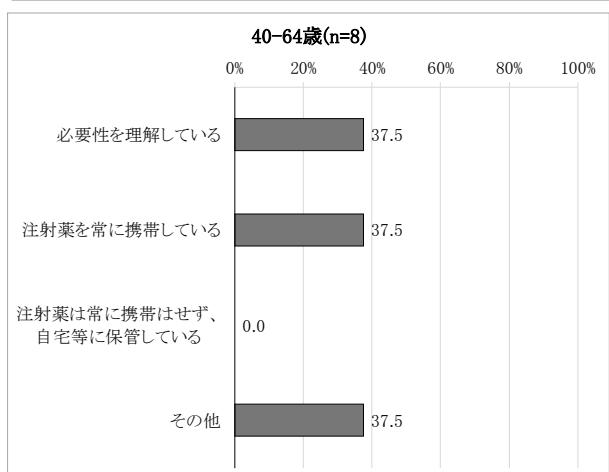
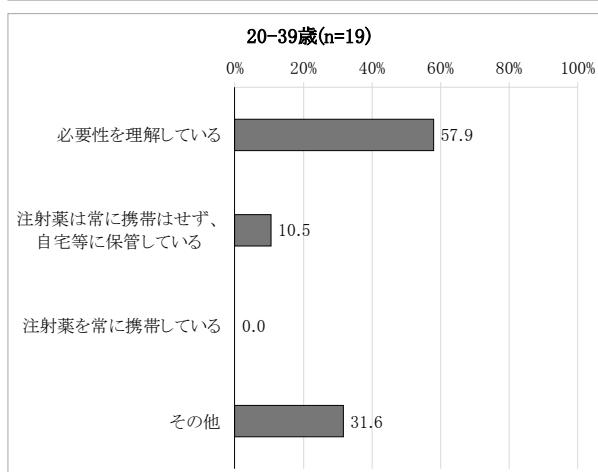
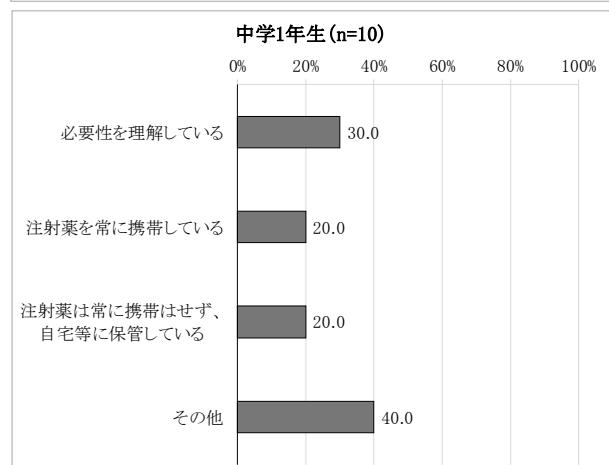
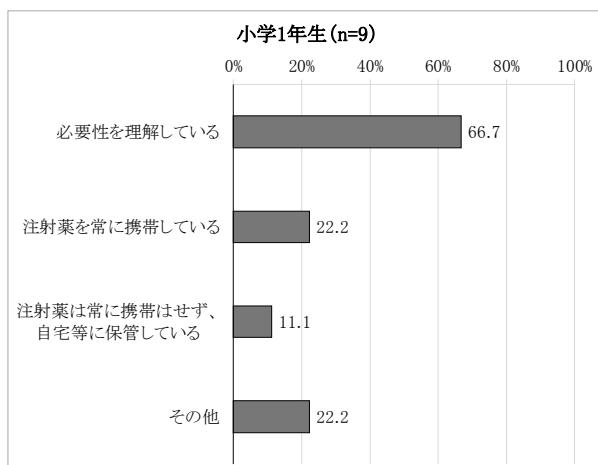
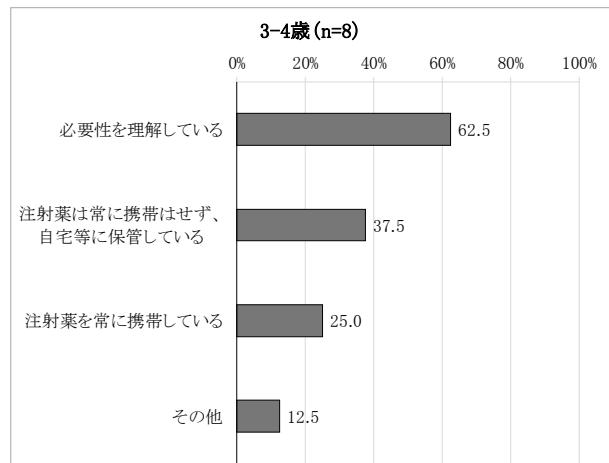
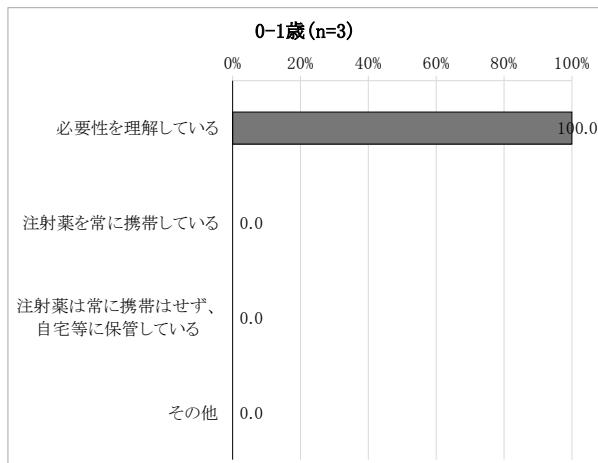


問29 自身で実施するアレルギー疾患治療の必要性や実施方法の理解（アナフィラキシー/エピペン）

ご自身で（成人向け）／お子さまに（子供向け）実施するアレルギー疾患の治療について、必要性や実施方法など、当てはまる回答を選択ください。

小児期、成人期ともに「必要性を理解し、適切に実施できている」の割合が高かった（小児期 56.7%、成人期 54.8%）。

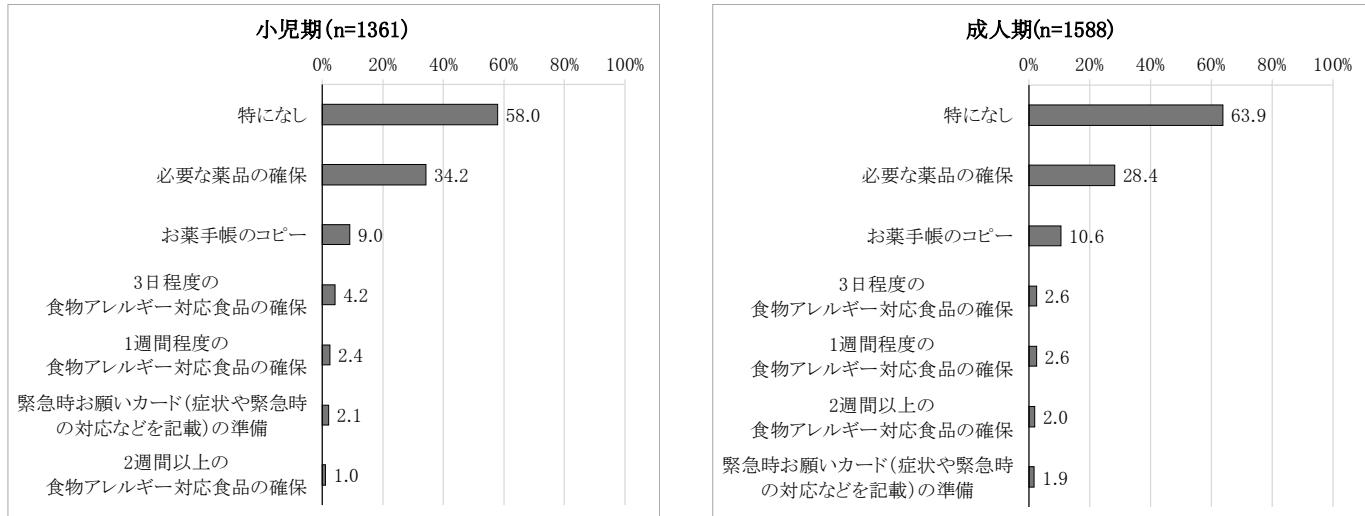


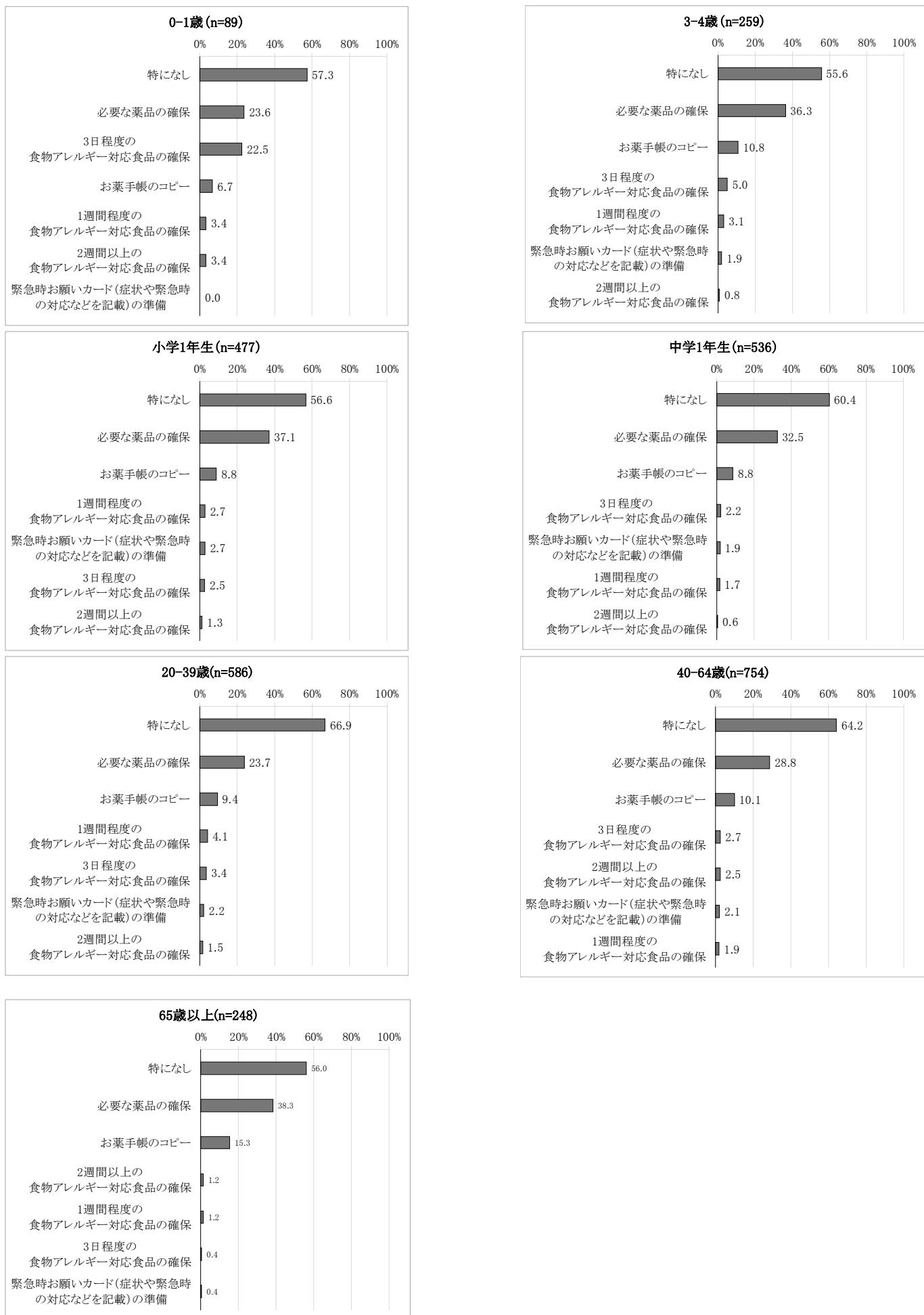


問30 アレルギー疾患に関連した災害時のための準備（問5または問8で「正式な診断を受けたことがない」以外）

災害時のためのアレルギー疾患対策について、日頃、準備していることを選択ください。

小児期、成人期ともに「特になし」の割合が高く（小児期 58.0%、成人期 63.9%）、次いで「必要な薬品の確保」の割合が高かった（小児期 34.2%、成人期 28.4%）。また、年代別では、65 歳以上で「必要な薬品の確保」「お薬手帳のコピー」の割合が他の年代よりも高かった。

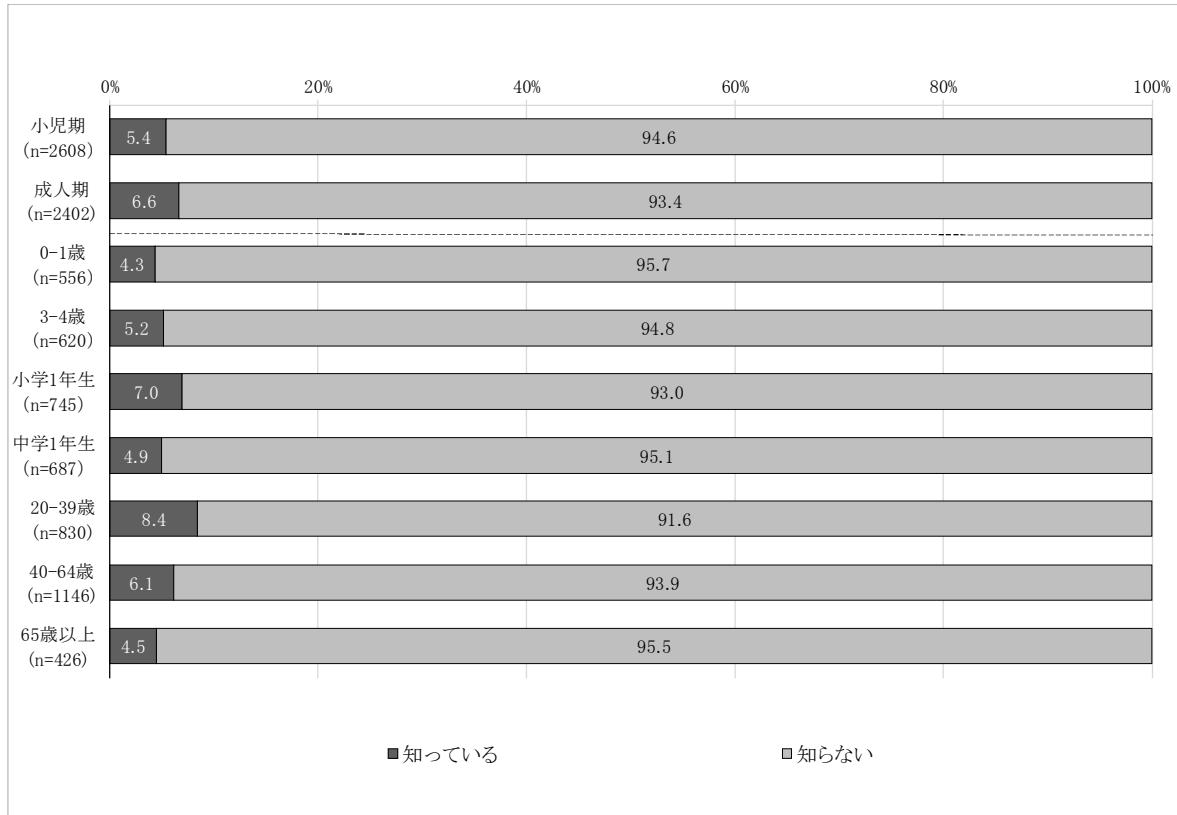




問3 1 神奈川県が指定している病院の認知度（問5または問8で「正式な診断を受けたことがない」以外）

アレルギー疾患の専門的な医療を提供する医療機関として、県が指定している神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院や川崎市内の県指定病院をご存知ですか。

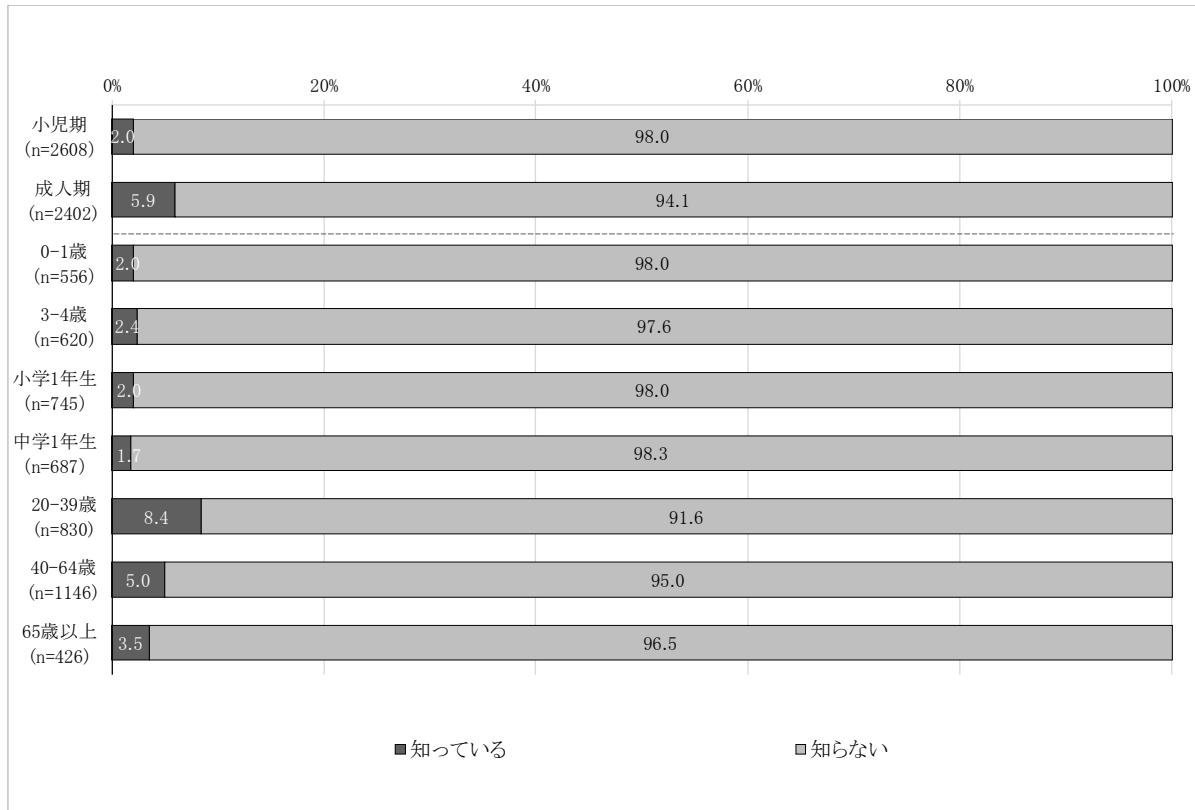
小児期、成人期ともに「知らない」の割合が高かった（小児期 94.6%、成人期 93.4%）。また、年代別では、20-39歳で「知っている」の割合が8.4%と他の年代よりも高かった。



問32 「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」の認知度（問5または問8で「正式な診断を受けたことがない」以外）

川崎市が令和5年7月に開設したホームページ『川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト』をご存知ですか。同封のチラシからホームページをご覧ください。

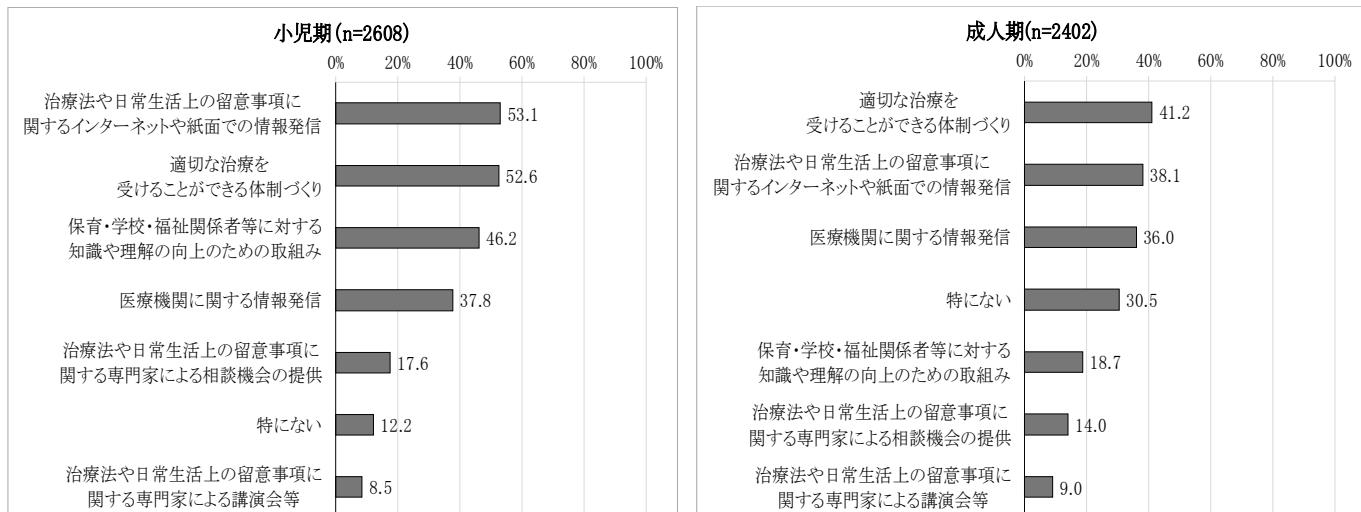
小児期、成人期ともに「知らない」の割合が高かった（小児期 98.0%、成人期 94.1%）。また、年代別では、20-39歳で「知っている」の割合が8.4%と高かった。

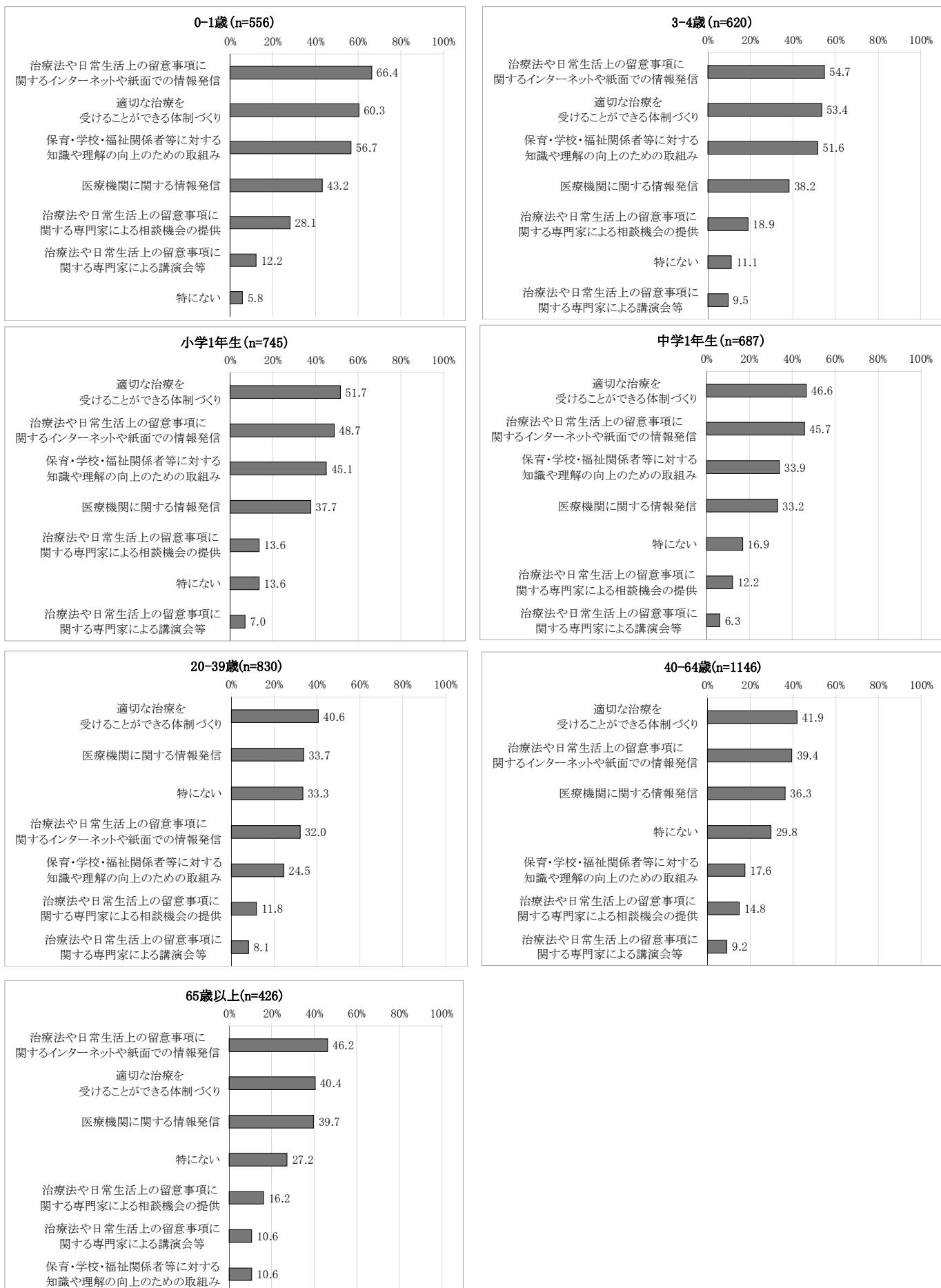


問33 川崎市のアレルギー疾患対策に対する要望(問5または問8で「正式な診断を受けたことがない」以外)

川崎市のアレルギー疾患対策に対する要望を選択ください。

小児期、成人期ともに「治療法や日常生活上の留意事項に関するインターネットや紙面での情報発信」(小児期 53.1%、成人期 38.1%)、「適切な治療を受けることができる体制づくり」(小児期 52.6%、成人期 41.2%)の割合が高かった。成人期では、また、年代別では、0・1歳から中学1年生で「保育・学校・福祉関係者等に対する知識や理解の向上のための取組み」の割合が他の年代よりも高かった。





2.3 調査結果からみられたアレルギー疾患患者等の傾向

2.2 で示した調査結果を元に、概ね以下の内容がアレルギー疾患患者等の傾向として捉えられる。

(1) 市民のアレルギー疾患・症状の発生状況

診断を受けたアレルギー疾患は、小児期、成人期とともに「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」の割合が高く、3割近くあった。年代別では0・1歳で「食物アレルギー」が「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」よりも高かった。通院している医療機関の種別はいずれの疾患においても「診療所・クリニック」が多かった。

(2) 患者による医療機関の選定方法の把握

通院している医療機関は、かかりつけの医療機関である割合が小児で8割、成人で7割であったが、「インターネット（SNS・ブログ・口コミ等）」を選定方法としている場合も1割前後であり、特に20～64歳で高かった。「以前から通っていた医療機関の紹介」で選定された場合は5%前後であった。

(3) 症状が安定しない場合の発生状況や対応状況

症状が安定しない期間は小児に比べて成人で長期（1年以上）である割合が高かった。気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎のいずれの疾患においても、「症状が改善しなかった」場合は1割未満で、「治療法や薬を変更したことにより症状が改善」した割合が高かった。小児の気管支ぜん息では、「他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善」した割合が他の疾患に比べて高く、成人のアトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎で、「症状が改善しなかった」割合が他の疾患に比べて高かった。

(4) 患者自身で実施する治療等の指導状況

患者自身で実施する治療等の指導者は、いずれの疾患、治療でも医師の割合が高かったが、医師に次ぐ指導者の割合が、小児では「看護師」が高いことに比べ、成人では「薬剤師」が高い傾向がみられた。

(5) 患者自身で実施する治療等の理解度と実施状況の把握

患者自身で実施する治療等は、いずれの疾患、治療でも「必要性を理解し、適切に実施できている」割合が6割以上であったが、年代が上がるにつれて「必要性は理解しているが、あまり実施できていない」や「なぜ必要か理解できていない」という割合が増加傾向にあった。

(6) アレルギーに関する市民の情報ニーズ

アレルギー疾患について、「症状が悪化した場合の対応が心配」としている患者が小児、成人ともに3割程度あった。特に乳幼児期では「どのような症状・兆候に気をつけなければよいか分からない」という回答も3割程度あり、アレルギーに関する情報を「妊娠中に入手したかった」との回答が半数近くあった。

川崎市のアレルギー疾患対策については、「治療法や日常生活上の留意事項に関するインターネットや紙面での情報発信」や「適切な治療を受けることができる体制づくり」の割合が高かった。

参考資料

(1) 調査協力依頼文書（小児対象）

健康と医療に関する調査への御協力のお願い

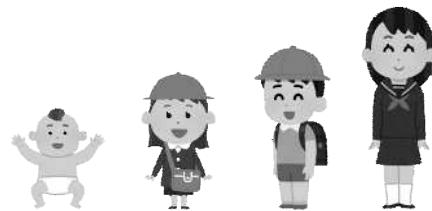
1. 調査の目的

本調査は、川崎市においてアレルギー疾患対策を進めていくため、市民のアレルギーに関する実態把握を行うことを目的としています。

2. 御協力ををお願いしている方

川崎市にお住まいの0～1歳、3～4歳、小学1年生、中学1年生になる方のうち、令和5年12月1日時点の住民基本台帳より無作為抽出した方（各年代約2,000名）を対象にしています。

保護者に同意いただいた場合のみを対象にしており、本調査への御協力に同意していただける場合には以下の回答方法を御覧の上、御協力をお願いします。



3. 回答方法

下記のサイトにアクセスし、【令和6年2月16日（金）まで】に御回答ください。具体的な回答手順は裏面を御覧ください。回答にかかる時間は5～10分程度です。回答は匿名です。

二次元コード



URL : <https://logoform.jp/form/FUQz/336113>

4. 調査内容の使途

本調査は、アレルギー疾患対策を進めていくための市民のアレルギーに関する実態把握を目的としており、調査結果は今後の川崎市のアレルギー疾患対策の検討にのみ活用いたします。また、川崎市ホームページ「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」にて集計結果を公表いたします。

<オンライン回答手順>

- I. スマートフォンでは表面の二次元コードを読み、PCでは表面のURLを入力しログイン画面にアクセスします。
- II. 「ログイン」画面
個人情報の取り扱いを御確認のうえチェックいただき、「→次の画面へ進む」をクリックします。
- III. 「各設問」画面
表示される設問に回答を入力し、「→次の画面へ進む」をクリックします。
※「**入力内容を一時保存する**」で回答を保存することが可能です。
- IV. 「回答提出」画面
アンケートの最後に出てくる「→確認画面へ進む」をクリックします。その後、画面確認を行った上で、最後に「→送信」をクリックし、回答完了です。

<川崎市のアレルギー疾患対策について>

川崎市のアレルギー疾患対策に関するチラシを同封いたしましたので御覧ください。

●川崎市のアレルギー疾患対策について

お問い合わせ先 川崎市健康福祉局保健医療政策部(アレルギー疾患対策担当)

TEL 044-200-1315

(2) 方針概要チラシ（川崎市のアレルギー疾患対策について）

Colors, Future!
いろいろて、未来。
川崎市

川崎市のアレルギー疾患対策について

川崎市では、総合的なアレルギー疾患対策に向けて、令和5年6月に策定した「**川崎市アレルギー疾患対策推進方針**」を踏まえ、4つの方向性で取組を進めています。

方向性I：正しい知識の普及・啓発及び発症・重症化予防等のための取組【啓発・相談等】

方向性II：患者の状況に応じた適切な医療提供体制の整備【医療提供体制整備】

方向性III：患者の生活の質の維持・向上を支援する環境づくりの推進【環境づくり】

方向性IV：患者に寄り添い、支援するための人材育成【人材育成】

川崎市アレルギー疾患対策推進方針（体系図）

```
graph TD
    I["方向性I  
正しい知識の普及・啓発及び発症・重症化予防等のための取組  
【啓発・相談等】"] --> I_1["(1) 患者等への情報提供等"]
    I --> I_2["(2) 相談支援"]
    I --> I_3["(3) 生活環境の改善等"]
    II["方向性II  
患者の状況に応じた適切な医療提供体制の整備  
【医療提供体制整備】"] --> II_1["(1) 医療従事者の資質向上"]
    II --> II_2["(2) 医療提供体制"]
    II --> II_3["(3) 医療機関に関する情報提供"]
    III["方向性III  
患者の生活の質の維持・向上を支援する環境づくりの推進  
【環境づくり】"] --> III_1["(1) 保健所等における対応"]
    III --> III_2["(2) 学校における対応"]
    III --> III_3["(3) 社会福祉施設等における対応"]
    III --> III_4["(4) 災害時における対応"]
    IV["方向性IV  
患者に寄り添い、支援するための人材育成  
【人材育成】"] --> IV_1["(1) 保健指導を担う職員の育成"]
    IV --> IV_2["(2) コメディカルの資格取得の促進"]
    IV --> IV_3["(3) 保健所・学校等の職員の育成"]

    subgraph Summary [方向性を踏まえた施策を推進するための体制等]
        S1["(1) 患者等の状況把握"]
        S2["(2) 関係機関等との連携"]
        S3["(3) 施策を推進するための体制"]
    end
```

各取組の情報や方針の詳細については
「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」
をご覧ください

<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000142393.html>

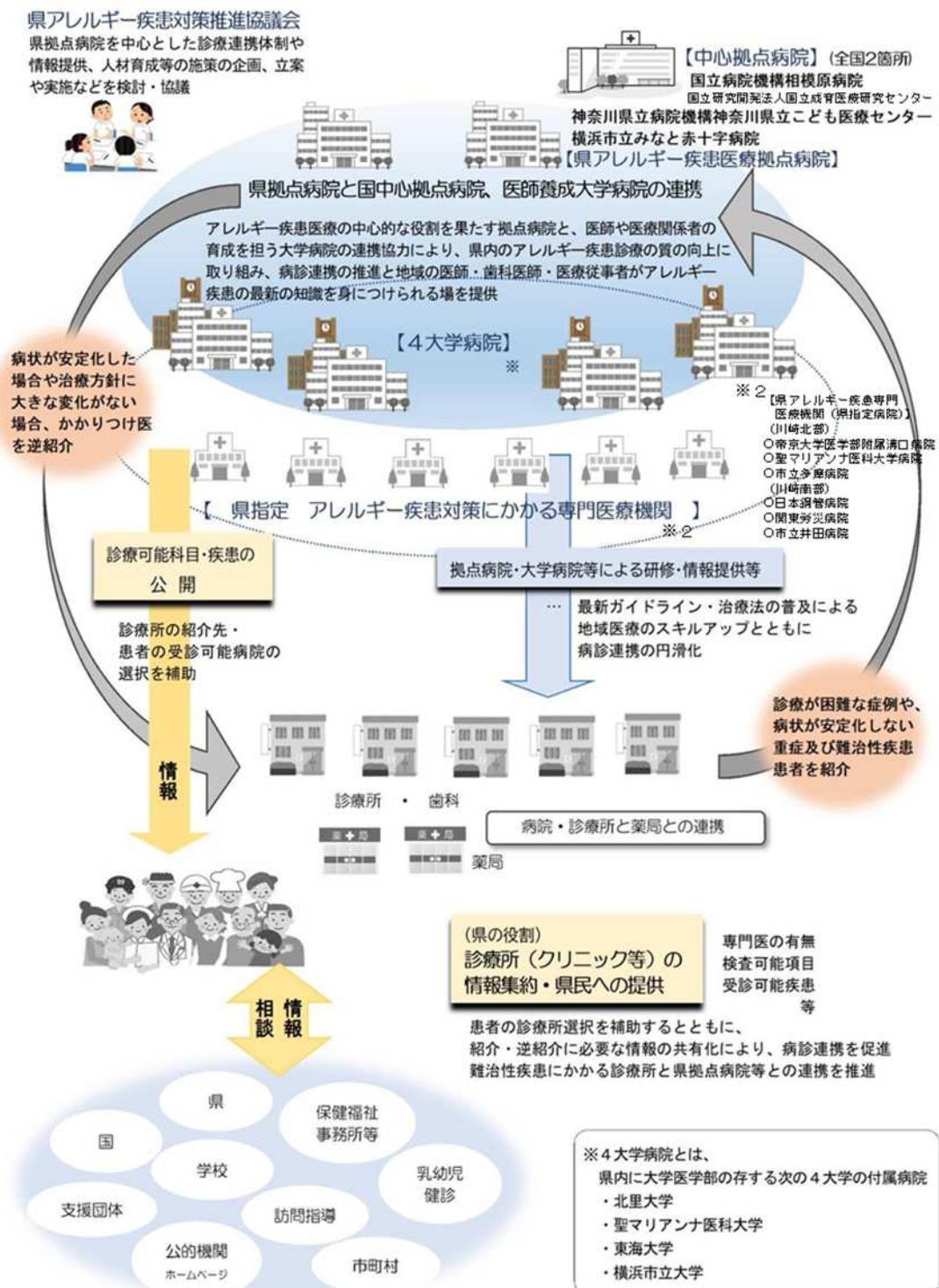
川崎市 健康福祉局 保健医療政策部 アレルギー疾患対策担当

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL. 044-200-1315
Mail 40kankyo@city.kawasaki.jp

川崎市 アレルギー 検索

令和5年11月

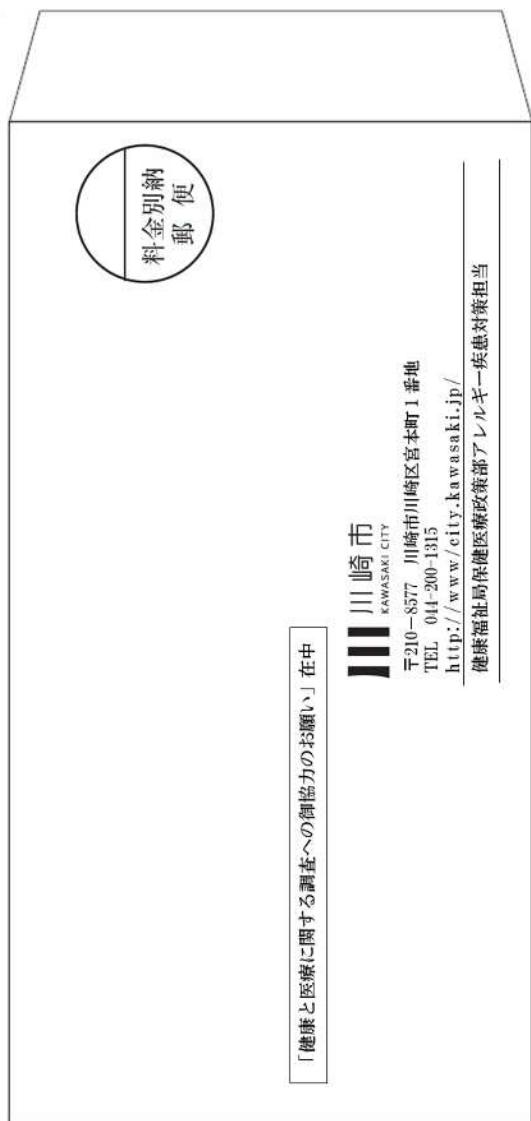
アレルギー疾患医療における連携のイメージ



出典：神奈川県アレルギー疾患対策推進計画（令和5年度～令和9年度）一部加筆

令和5年11月

(3) 発送用封筒



(4) オンライン回答フォーム（小児向け）

☆ フォーム詳細 - 健康と医療に関する調査

② 質問項目設定 基本情報設定 離婚は既往 離婚原因正 離婚原因副 その他

現在公営中

本調査にご協力いただけた場合は「同意する」にチェックをお願いします。

※未就学の子供においてアレルギー・食物アレルギーを発症させる原因は、市民のアレルギーに対する実態把握を行うことを目的としています。

回答にかかる時間は5~10分程度です。回答は匿名です。ご回答される内容により表示される設問が変わります。

ご回答の際、よろしくお願いいたします。

個人情報の取り扱い、
被保護者の方からのお問い合わせには、上記の利用目的のみに使用し、目的外には使用いたしません。
本システムの利用に関しては、川崎市総務部電子申請サービス用規約 (<https://e洽話.formica.jp/teams/01002724>)、
川崎市商取扱子申請サービス プライバシーポリシー (<https://e洽話.formica.jp/teams/01002724>) をお読みください。
同意の上、ご利用ください。

※未成年の方がご回答いただく際は保護者の方の同意を得た上で行つてください。

○ 同意する

問1 お子さまの性別をご回答ください。

○ 男性 女性 回答しない その他

項目ID: 2
項目ID: 49

問2 お子さまの年代を教えてください。

項目ID: 139

問3 居住区をご回答ください。

○ 川崎区 半区 中原区 高津区 武蔵区 多摩区 原生区 川崎市外

項目ID: 140
項目ID: 50

問4 お子さまがこれまでに診断を受けたアレルギー疾患・症状をご回答ください。（複数回答可※「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」は除く）

規 必須

気管支ぜん息
 アトピー性皮膚炎
 アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)
 食物アレルギー^{*}
 アナフィラキシー^{*}
 薬物アレルギー^{*}
 上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない

項目ID: 7
項目ID: 144

問5 お子さまがこれまでに診断を受けたアレルギー疾患をご回答ください。（複数回答可※「上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない」は除く）

○ 気管支ぜん息
 アトピー性皮膚炎
 アレルギー性鼻炎 (花粉症含む)
 食物アレルギー^{*}
 アナフィラキシー^{*}
 薬物アレルギー^{*}

項目ID: 141
項目ID: 4

□ 気管支ぜん息

上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない

きょうだい

気管支ぜん息

アトピー性皮膚炎

アレルギー性鼻炎（花粉症含む）

アレルギー性結膜炎（花粉症含む）

食物アレルギー

アナフィラクシー

薬物アレルギー

上記アレルギーの正式な診断を受けたことがない

問9 お子さまが現在アレルギー疾患で通院している医療機関※の種別をご回答ください

項目ID: 9

*医療機関の説明

・市内病院（県指定医療施設）…帝京大学医学部附属病院、聖マリアンナ医科大学附属病院、市立多摩病院、関東労災病院、市立江田病院
・市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院）…神奈川県立こども医療センター、横浜市立みなと十文字病院
・（国）中央病院…国立病院機構東京医療センター

気管支ぜん息 必須

項目ID: 53

○診療所・クリニック ○市内病院（県指定医療施設を除く） ○市内病院（県指定医療施設を除く）
○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院） ○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院）
○以前に治療していた方が現在は通院していない

アトピー性皮膚炎 必須

○診療所・クリニック ○市内病院（県指定医療施設を除く） ○市内病院（県指定医療施設を除く）
○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院） ○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院）
○以前に治療していた方が現在は通院していない

アレルギー性鼻炎（花粉症含む） 必須

○診療所・クリニック ○市内病院（県指定医療施設を除く） ○市内病院（県指定医療施設を除く）
○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院） ○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院）
○以前に治療していた方が現在は通院していない

アレルギー性結膜炎（花粉症含む） 必須

項目ID: 150

○診療所・クリニック ○市内病院（県指定医療施設を除く） ○市内病院（県指定医療施設）
○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院） ○市外（県外）病院 ○（国）中央病院
○以前に治療していた方が現在は通院していない

食物アレルギー 必須

項目ID: 56

○診療所・クリニック ○市内病院（県指定医療施設を除く） ○市内病院（県指定医療施設）
○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院） ○市外（県外）病院 ○（国）中央病院
○以前に治療していた方が現在は通院していない

薬物アレルギー 必須

項目ID: 55

○診療所・クリニック ○市内病院（県指定医療施設を除く） ○市内病院（県指定医療施設）
○市外（県内）病院（県アレルギー疾患医療拠点病院） ○市外（県外）病院 ○（国）中央病院
○以前に治療していた方が現在は通院していない

問10 お子さまが現在アレルギー疾患で通院している（していた）医療機関の選定方法をご回答ください。（複数選択可）

項目ID: 13

項目ID: 162

□かかりつけの医療機関
□以前通っていた医療機関からの紹介
□インターネット（SNS・ブログ・□口コミ等）
□医療機関のホームページ
□行政機関等のホームページ
□知人・友人からの紹介
□行政機関等の相談窓口からの情報
□新聞・テレビ・雑誌・本
□家族の通院先

問11 お子さまが現在アレルギー疾患で通院している（していた）医療機関の受診頻度をご回答ください。

項目ID: 161

項目ID: 61

気管支ぜん息 お灸

- 定期的 ○ 症状があるとき ○ 思いついたとき
アトピー性皮膚炎 必須
- 定期的 ○ 症状があるとき ○ 思いついたとき
アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) 必須

食物アレルギー 必須

- 定期的 ○ 症状があるとき
アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) 必須

麻疹アレルギー 必須

- 定期的 ○ 症状があるとき
アトピー性皮膚炎 必須

- 日々の症状により日常生活に影響が出る時がある
○ 症状が不安せず生活の質が低下している

項目ID: 68

項目ID: 63

項目ID: 62

項目ID: 66

項目ID: 65

項目ID: 64

項目ID: 70

項目ID: 69

項目ID: 73

問13 これまでに、症状が安定しない場合や悪化した場合、通院している（していた）医療機関どのように対応され、その後症状がどのように変化したかご回答ください（一つ選択してください）

項目ID: 71

項目ID: 72

項目ID: 75

- 症状はいつも安定しており、悪化したことがない
○ 治療法や薬を変更したことにより症状が改善
○ 他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善
○ 症状が改善しなかった

項目ID: 76

項目ID: 74

項目ID: 75

アトピー性皮膚炎 必須

- 症状はいつも安定しており、悪化したことがない
○ 治療法や薬を変更したことにより症状が改善
○ 他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善
○ 症状が改善しなかった。
- アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) 必須
- 症状はいつも安定しており、悪化したことがない
○ 治療法や薬を変更したことにより症状が改善
○ 他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善
○ 症状が改善しなかった。

項目ID: 73

項目ID: 74

項目ID: 75

- アトピー性皮膚炎 必須
- 症状はいつも安定しており、悪化したことがない
○ 治療法や薬を変更したことにより症状が改善
○ 他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善
○ 症状が改善しなかった。
- アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) 必須
- 症状はいつも安定しており、悪化したことがない
○ 治療法や薬を変更したことにより症状が改善
○ 他の専門的な医療機関を紹介されて医療機関を変更し、症状が改善
○ 症状が改善しなかった。

アトピー性皮膚炎 必須

- 薬等の治療により症状は安定している
○ 若干の症状があるが日常生活を送る上で問題はない
○ 日々の症状により日常生活に影響が出る時がある
○ 症状が不安せず生活の質が低下している

アレルギー性鼻炎 (花粉症含む) 必須

- 薬等の治療により症状は安定している
○ 若干の症状があるが日常生活を送る上で問題がある
○ 日々の症状により日常生活に影響が出る時がある
○ 症状が不安せず生活の質が低下している

<p>問14 現在またはこれまでに症状が安定しない状況が続いた期間（最長）をご回答ください。</p> <p>項目ID: 136</p> <p><input type="radio"/> 1ヶ月未満 <input type="radio"/> 1ヶ月以上3ヶ月未満 <input type="radio"/> 3ヶ月以上半年未満 <input type="radio"/> 半年以上1年未満 <input type="radio"/> 1年以上</p>	<p>問15 症状が安定しないことなどにより、アレルギー疾患の治療でこれまでに医療機関を何回変えたことがありますか。</p> <p>項目ID: 137</p> <p><input type="radio"/> 0回 (変えたことがない) <input type="radio"/> 1回 <input type="radio"/> 2回 <input type="radio"/> 3回 <input type="radio"/> 4回 <input type="radio"/> 5回以上 気管支ぜん息 必須</p>	<p>問16 これまで食物アレルギーの治療を進める中で思うように状況が改善しないなど、問題はありましたか。</p> <p>項目ID: 138</p> <p><input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ</p>
<p>問18 食物アレルギーへの対応や検査等について、当てはまる回答を選択ください。 (複数選択可)</p> <p>項目ID: 139</p> <p><input type="checkbox"/> 原因となる食品の調取をしばらく避けた。 <input type="checkbox"/> 医療機関で血液検査を行った。 <input type="checkbox"/> 生理検査で食物選口負荷試験を行った。 <input type="checkbox"/> 医療機関で皮膚検査を行った。 <input type="checkbox"/> 経口負荷試験結果に基づいた食事栄養指導を医師あるいは栄養士から受けた。(受けている) <input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> その他</p>	<p>問19 アナフィラキシーへの対応や検査等について、当てはまる回答を選択ください。 (複数選択可)</p> <p>項目ID: 140</p> <p><input type="checkbox"/> 原因となるものをしばらく避けた。 <input type="checkbox"/> 医療機関で食物選口負荷試験を行った。 <input type="checkbox"/> 医療機関で皮膚検査を行った。 <input type="checkbox"/> 経口負荷試験結果に基づいた食事栄養指導を医師あるいは栄養士から受けた。(受けている) <input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> その他</p>	<p>問20 薬物アレルギーへの対応や検査等について、当てはまる回答を選択ください。 (複数選択可)</p> <p>項目ID: 141</p> <p><input type="checkbox"/> 原因となる薬剤の服用をしばらく止めた。 <input type="checkbox"/> 医療機関で血液検査を行った。 <input type="checkbox"/> 医療機関で負荷試験を行った。 <input type="checkbox"/> 医療機関で皮膚検査を行った。</p>

- 負荷回避を実施に基づいた塗り消しを医療機関から受けた（受けている）
 特になし

問21② 上記の相談したい（している）内容について、医療機関以外の窓口で、どのように方法で相談したいか回答ください。（複数選択可）

項目ID: 131
項目ID: 130

問21 お子さまのアレルギー疾患について心配なことや困っていることを選択ください。（複数選択可）

項目ID: 78

- 日常的に症状が出て生活に支障がある
 医療機関に関する情報が分かられない
 どこで正しい情報を得ればよいか分からない
 疾病に相談する場所がない
 特にない
 その他

問21① 上記の心配なことや困っていることについて相談している相手を選択ください。（複数選択可）

項目ID: 128
項目ID: 129

- 医療機関の医師
 医療機関の看護師などの医療従事者（医師除く）
 薬局の薬剤師
 保健所（区役所）の職員
 保育所・幼稚園の職員
 家族・親類
 相談したいができない
 相談するほどは心配はしていない（困っていない）
 その他

問22 乳幼児期のアレルギー疾患対策について、国内の研究結果等により以下のようなことが報告されていますが、ご存じのことを選択ください。（複数選択可）

問22 乳幼児期のアレルギー疾患対策について、国内の研究結果等により以下のようなことが報告されていますが、ご存じのことを選択ください。（複数選択可）

項目ID: 99
項目ID: 100

- 食物アレルギーやアトピー性皮膚炎などは乳幼児期から現れやすい
 セン感などの症状は乳幼児期から現れやすい
 乳児期早期のスキンケアはその後のアレルギー疾患予防になりうる
 海洋に対しては海水浴が効果することが、その後のアレルギー疾患の予防に重要といわれている
 食物アレルギーの予防を目的に離乳食の開始を遅らせることは推奨されない
 特になし

問23 乳幼児期のアレルギー疾患に関する情報の入手に望ましい時期を選択ください（複数選択可）

項目ID: 101
項目ID: 102

- 妊娠が分かったときに入手したかった
 妊娠中に入手したかった
 生後3ヶ月以内に入手したかった
 生後半年程度で入手したい（したかった）
 月経に關係なく入手したい（したかった）
 特になし

問24 お子さまのアレルギー疾患について、困っていることはありますか。（複数選択可）

項目ID: 103
項目ID: 104

- 知人、友人からの情報
- 新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・本
- 医療機関のスター・チラシ
- 行政機関からの情報チラシ等
- 行政機関等の相談窓口
- 特にない
- どこで正しい情報を得ればよいのか分からぬ
- 気管ご相談する場所がない
- 特にない
- その他

問25 アレルギー疾患の症状をコントロールする上で必要と思う情報を選択ください。（複数選択可）

項目ID: 105
項目ID: 152

- 治療法や日常生活上の留意事項
- 医療機関に関する情報
- 薬品に関する情報
- 病門医学に関する情報
- 治療以外の相談窓口
- 同じ疾患を持つ方の体験談
- 最新の研究や治療法等
- 特にない

問26 アレルギー疾患に関する情報の入手方法を選択ください。（複数選択可）

項目ID: 153
項目ID: 154

- 通院している医療機関の医療従事者
- インターネット（SNS・ブログ・口コミ等）
- 医療機関のホームページ
- 行政機関等のホームページ
- 行政が主催する講演会等

問27 お子さまに実施するアレルギー疾患の治療方法を教えてくれた方にについて、当てはまる回答を選択ください。（複数選択可）

項目ID: 109
項目ID: 110

せん息過の吸入（気管支ぜん息）必須

- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他
- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他

スキンケア（アトピー性皮膚炎）必須

- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他
- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他

外用薬の塗布（アトピー性皮膚炎）必須

- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他
- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他

アレルギー対応食品の除去・代替食の対応（食物アレルギー）必須

- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他
- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他

エビヘン（アドレナリン自己注射）（アナフィラキシー）必須

- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他
- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他

肥因薬剤及び類似薬剤の除去（食物アレルギー）必須

- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他
- 医師 □ 保健師 □ 看護師 □ 管理栄養士・栄養士 □ 薬剤師 □ その他

問28 お子さまに実施するアレルギー疾患の治療について、必要性や実施方法など、当てはまる回答を選択ください。

項目ID: 116
項目ID: 117

<p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>せん感薬の吸入（気管支ぜん感） 必須</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 必要性を理解し、適切に実施できている <input type="radio"/> 必要性は理解し、実施しようと思うが、実施方法が難しい <input type="radio"/> 必要性は理解しているが、あまり実施できていない <input type="radio"/> なぜ必要か理解できていない <p>スキンケア（アトピー性皮膚炎） 必須</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 必要性を理解し、適切に実施できている <input type="radio"/> 必要性は理解し、実施しようと思うが、実施方法が難しい <input type="radio"/> 必要性は理解しているが、あまり実施できていない <input type="radio"/> なぜ必要か理解できていない <p>外用薬の塗布（アトピー性皮膚炎） 必須</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 必要性を理解し、適切に実施できている <input type="radio"/> 必要性は理解し、実施しようと思うが、実施方法が難しい <input type="radio"/> 必要性は理解しているが、あまり実施できていない <input type="radio"/> なぜ必要か理解できていない <p>アレルギー物の除去・代替食の対応（食物アレルギー） 必須</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 必要性を理解し、適切に実施できている <input type="radio"/> 必要性は理解し、実施しようと思うが、実施方法が難しい <input type="radio"/> 必要性は理解しているが、あまり実施できていない <input type="radio"/> なぜ必要か理解できていない 	<p>問30 災害時ためのアレルギー疾患対策について、日頃、準備していることを選択ください。（複数選択可）</p> <p>項目ID: 122 項目ID: 124 項目ID: 125</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 3程度の急物アレルギー対応食品の確保 <input type="checkbox"/> 1週間程度の急物アレルギー対応食品の確保 <input type="checkbox"/> 2週間以上の急物アレルギー対応食品の確保 <input type="checkbox"/> 必要な薬品の確保 <input type="checkbox"/> 気象手帳のコピー <input type="checkbox"/> 緊急時お使いカード（症状や緊急時の対応などを記載）の作成 <input type="checkbox"/> 特になし <p>項目ID: 37</p>	<p>問31 アレルギー疾患の専門的な医療を提供する医療機関として、県が指定している神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院や川崎市内の県指定病院をご存知ですか。</p> <p>項目ID: 156 項目ID: 159</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 知っている ○ 知らない○ <input type="radio"/> 知っている ○ 知らない○ <p>問32 川崎市が令和5年7月に開設したホームページ『川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト』をご存知ですか。同封のチラシからホームページをご覧ください。 https://www.city.kawasaki.lg.jp/3yodou/0000023293.html</p> <p>項目ID: 158</p>	<p>問33 川崎市のアレルギー疾患対策に対する要望を選択ください。（複数選択可）</p> <p>項目ID: 157 項目ID: 155</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 治療法や日常生活上の留意事項に関するインターネットや電話での情報会員 <input type="checkbox"/> 治療法や日常生活上の留意事項に関する専門による講演会等 <input type="checkbox"/> 治療法や日常生活上の留意事項に関する専門家による相談機会の提供
<p>問29 お子さまに実施するアレルギー疾患の治療について、必要性や実施方法など、当てはまる回答を選択ください。</p> <p>エビヘン（アドレナリン自己注射）（アナフィラキシー） 必須</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 必要性を理解している ○ 注射器を所持している ○ 注射器は常に携帯せず、自宅等に保管している 			

<input type="checkbox"/> 医療機関に関する情報収集
<input type="checkbox"/> 渋谷な治療を受けることができる体制づくり
<input type="checkbox"/> 保健・学校・福祉関係者等に対する知識や理解の向上のための取組み
<input type="checkbox"/> 特にない)

(5) オンライン回答フォーム（成人向け）

小児向け回答フォームと問番号が異なるため対照表を示した。

小児向け回答 フォーム	成人向け回答 フォーム	質問項目
問 1	-	性別
問 2	-	年齢区分
問 3	Q1	居住区
問 4	Q2	お子さんの有無
問 5	Q3	ご自身のこれまでのアレルギー疾患の診断
問 6	Q4	食物アレルギーの種類
問 7	Q5	アナフィラキシーの種類
問 8	Q6	ご家族のアレルギー疾患・症状
問 9	Q7	医療機関種別
問 10	Q8	医療機関の選定方法
問 11	Q9	医療機関の受診頻度
問 12	Q10	現在の症状（食物アレルギー以外）
問 13	Q11	不安定・悪化した場合の医療機関の対応方法
問 14	Q12	症状が安定していない期間
問 15	Q13	紹介（転院）回数（慢性疾患）
問 16	Q14	食物アレルギーの治療における問題点の有無
問 17	Q15	紹介（転院）回数（食物アレルギー）
問 18	Q16	食物アレルギーの検査
問 19	Q17	アナフィラキシーの検査
問 20	Q18	薬物アレルギーの検査
問 21	-	乳幼児期のアレルギー疾患で困っている・心配なこと
問 21①	-	乳幼児期のアレルギー疾患に関する相談相手（実績）
問 21②	-	乳幼児期のアレルギー疾患に関する相談方法（ニーズ）
問 22	-	乳幼児期のアレルギー疾患対策の理解度
問 23	-	乳幼児期のアレルギーに関する情報の入手時期
問 24	Q19	学齢期・成人のアレルギー疾患で困っていること
問 25	Q20	アレルギー疾患とつきあっていくうえで必要な情報
問 26	Q21	アレルギーに関する情報の入手方法
問 27	Q22	自身で実施するアレルギー疾患治療の指導
問 28	Q23	自身で実施するアレルギー疾患治療の必要性や実施方法の理解
問 29	Q24	自身で実施するアレルギー疾患治療の必要性や実施方法の理解 (アナフィラキシー)
問 30	Q25	アレルギー疾患に関連した災害時のための準備
問 31	Q26	神奈川県が指定している病院の認知度
問 32	Q27	「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」の認知度
問 33	Q28	川崎市のアレルギー疾患対策に対する要望

健康と医療に関するアンケート
下記アンケートにご協力お願いいたします。

お世帯にご協力いただきありがとうございます。
本調査は、川崎市においてアレルギー疾患対策を進めていくため、
市民のアレルギーに関する実態調査を行うことを目的としています。
回答にかかる時間は5～10分程度です。回答は匿名です。
ご回答される状況により表示される説明が表示ります。

ご回答の際、よろしくお願いいたします。
お問い合わせいただいた個人情報は、上記の利用目的のみに使用し、目的外には使用いたしません。

● 「調査についての秘匿義務」の内容をお読みして下さい。詳しくは三重市にご当地ならぬくらう、ご当地といます。
● アンケート内は、アラウドの「見る」がアンクはめようについてお読みください。

Q1 100%
居住区をご回答ください。

◆ 調査用紙

- (1) 川崎区
(2) 神奈川
(3) 中原区
(4) 高津区
(5) 向原区
(6) 多摩区
(7) 厚生区

◆ 調査用紙

▲ じじ

▲ じじ

- (1) 薬剤
(2) 牛乳
(3) 水の災難
(4) 小麦
(5) 葦元生
(6) 魚卵
(7) 甲殻類
(8) 果実類
(9) 金魚
(10) シバ
(11) 大豆
(12) その他(※自由入力)

● ここで改ページ

Q2 18歳未満のお子様がいる屯じくは現在、妊娠されている方が。(いくつでも)
◆ 調査用紙

- 怀妊している
□ 1歳未満
□ 1歳以上3歳未満

● ここで改ページ

Q3 あなたがこれまでに診断を受けたアレルギー疾患をご回答ください。(いくつでも)
◆ 調査用紙

- (1) 気管支ぜん息
(2) アトピー性皮膚炎
(3) アレルギー性鼻炎(アレルギー性鼻炎)
(4) アレルギー性結膜炎(花粉症含む)
(5) 食物アレルギー
(6) アナフィヨキシシー
(7) 薬物アレルギー
(8) 上記アレルギーの正確な診断を受けたことがない

● ここで改ページ

Q4 あなたがこれまでに診断を受けた食物アレルギーの種類をご回答ください。(いくつでも)
◆ 調査用紙

- (1) 薬剤
(2) 牛乳
(3) 水の災難
(4) 小麦
(5) 葦元生
(6) 魚卵
(7) 甲殻類
(8) 果実類
(9) 金魚
(10) シバ
(11) 大豆
(12) その他(※自由入力)

● ここで改ページ

Q5

あなたがこれまでに診断を受けたアライギキシーの種類をご回答ください。（いくつでも）

＊ 質問番号

▲ ここに記入

1 食物

2 細菌の感染症

3 医薬品

4 その他（※記入欄）

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

Q6 あなたのご家族がこれまでに診断を受けたアライギー疾患をご回答ください。（いくつでも）

＊ 質問番号

▲ ここに記入

1 気管支ぜん息

2 アトピー性皮膚炎

3 アレルギー性鼻炎（花粉症含む）

4 アレルギー性結膜炎（花粉症含む）

5 食物アレルギー

6 アナフィラキシーシー

7 家族アレルギー

8 上記アレルギーの正確な診断を要されたことがあります

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

Q7 あなたが現在アレルギー疾患で通院している医療機関※の種別をご回答ください。

＊ 質問番号

▲ ここに記入

1 市内病院（消化器内科）

2 日本医科大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、明治大学医学部附属病院

3 立教大学病院

4 市外（都内）病院（県）アレルギー専門医認定点検院

5 東京立正大学病院

6 市立（都）病院

7 国立研究機関附属病院、国立成育医療研究センター

8 公立病院

9 民間の医療機関

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

Q8 あなたが現在アレルギー疾患で通院している（していない）医療機関の通院頻度をご回

答ください。（いくつでも）

＊ 質問番号

▲ ここに記入

1 かかりつけの医療機関

2 以前通っていた医療機関からの紹介

3 インターネット（SNS・ブログ・口コミ等）

4 医療機関のホームページ

5 行政機関等のホームページ

6 知人・友人からの紹介

7 行政機関等の相談窓口からの情報

8 病院・テレビ・雑誌・本

9 家族の経験先

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

Q9 あなたが現在アレルギー疾患で通院している（していない）医療機関の受診頻度をご回

答ください。（いくつでも）

＊ 質問番号

▲ ここに記入

1 週に1回

2 週に2回

3 週に3回

4 週に4回

5 週に5回

6 週に6回

7 週に7回

8 週に8回

9 週に9回

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

Q10 あなたがこれまでに受けたアレルギー治療の経験をご回答ください。（いくつでも）

＊ 質問番号

▲ ここに記入

1 皮膚科

2 呼吸器科

3 内科

4 眼科

5 耳鼻咽喉科

6 小児科

7 痢疾科

8 痛風科

9 痢疾科

□

Q12 呼吸またはこれまでに症状が安定しない状況が強いた期間（単位）をご回答ください。
 ● 1回未満 * お読み直す
 □ 1ヶ月未満
 ○ 1ヶ月以上3ヶ月未満
 ○ 3ヶ月以上半年未満
 ○ 半年以上1年未満
 ○ 1年以上

● ここでできページ

Q13 症状が安定しないにとんどにより、アレルギー疾患の治療でこれまでに医療機関を何回受診したことありますか。
 ● 1回未満 * お読み直す
 □ 2回未満
 ○ 3回未満
 ○ 4回未満
 ○ 5回以上

● ここでできページ

Q14 これまでに、症状が安定しない場合や悪化した場合は、誰と相談している（していただけた）医療機関でどのように対応され、その対応状況がどのように変化したかご回答ください。
 ● お読み直す * お読み直す
 □ 1回未満
 ○ 2回未満
 ○ 3回未満
 ○ 4回未満
 ○ 5回以上

● ここでできページ

Q15 食生活改善しないなどにより、食欲アレルギーの治療でこれまでに医療機関を何回受診されましたか。
 ● 1回未満 * お読み直す
 □ 2回未満
 ○ 3回未満
 ○ 4回未満

● ここでできページ

Q21 アレルギー疾患に関する情報の入手方法を選択ください。(いくつでも可)

- ◎ 質問番号 * 必須選択
- ▲ どちら
- ① 症状している医療機関の医師や看護師
 - ② インターネット (SNS・ブログ・口コミ等)
 - ③ 医療機関のホームページ
 - ④ 行政機関等のホームページ
 - ⑤ 行政が主催する講演会等
 - ⑥ 知人・友人からの情報
 - ⑦ 新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・本
 - ⑧ 医療機関のポスター・チラシ
 - ⑨ 行政機関からの情報やチラシ等
 - ⑩ 行政機関等の相談窓口
 - ⑪ 柄にない

Q22 自身で実施するアレルギー疾患の治療方法を教えてくれた方にについて、当てはまる回答を選択ください。(いくつでも可)

- ◎ 質問番号 * 必須選択
- ▲ どちら
- ① 必要性を理解している
 - ② 注意を常に怠らしている
 - ③ 注意を常に怠らせず、自宅等に保管している
 - ④ その他
（※添入）

Q23 ご自身で実施するアレルギー疾患の治療について、必要性や実施方法など、当てはまる回答を選択ください。(いくつでも可)

- ◎ 質問番号 * 必須選択
- ▲ どちら
- 0/5
- ① 「医薬支せん忌」せん児童の吸入
 - ② 「アトピー性皮膚炎」スキンケア
 - ③ 「アトピー性皮膚炎」外用薬の使用
 - ④ 「食物アレルギー」アルギー対応食品の検索・代替食の対応
 - ⑤ 「食物アレルギー」食物事前及び対応薬剤の検査
 - ⑥ 必要性を理解し、適切に実施できている
 - ⑦ 必要性を理解し、実施しようと思うが、実施方法が難しい
 - ⑧ 必要性を理解しているが、あまり実施できていない
 - ⑨ なぜ必要か理解できていない

- Q24 ご自身で実施するアレルギー疾患の治療について、必要性や実施方法など、当てはまる回答を選択ください。(いくつでも可)
- ◎ 質問番号 * 必須選択
- ▲ どちら
- 0/4
- ① 「アナフィラキシー」エビベン・アドレナリン自己注射
 - ② 必要性を理解している
 - ③ 注意を常に怠らしている
 - ④ 注意を常に怠らせず、自宅等に保管している
 - ⑤ その他
（※添入）

Q25 費用のためのアレルギー疾患対策について、日頃、準備していることを選択ください。(いくつでも可)

- ◎ 質問番号 * 必須選択
- ▲ どちら
- ① 3日程度の食物アレルギー対応品の確保
 - ② 1週程度の食物アレルギー対応品の確保
 - ③ 2週間以上の食物アレルギー対応品の確保
 - ④ 必要な薬品の確保

